佐久市文化財

年 報 15

平成17年度

長野県佐久市教育委員会

佐久市文化財

年 報 15

平成17年度

長野県佐久市教育委員会

目次

1	指定文化財等保護事業	
	1 国・県・市指定文化財 2 普及・公開事業	-
${\rm I\hspace{1em}I}$	埋蔵文化財事業	
	1 保護・保存事業	5 5 6 6
	2 普及・公開事業	7
	3 分析・鑑定	7
	 4 調査概要 1 扇田遺跡	9
	The late of the la	

1 円正坊遺跡Ⅵ -その1------ 17

5 調査報告書



体制

佐久市教育委員会

 教 育 長
 三石昌彦

 教 育 次 長
 柳沢健一

 文 化 財 課 長
 中山 悟

 文化財保護係長
 高村博文

 文化財保護係
 荻原留美

 文化財調査係長
 高柳正人

文化財調査係 林 幸彦 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也 富沢一明 上原 学

出澤 力 神津 格(10月~) 赤羽根太郎(4~9月)

調 査 主 任 佐々木宗昭 森泉かよ子

調 査 副 主 任 堺 益子

文化財保護審議委員会

 会
 長
 鈴木公人

 職
 務
 代
 理
 小林徳雄

委 員 清水岩夫 堀籠好夫 小林壽三 並木良子 小栗 集 加藤芳実

土屋 修 佐藤純一郎

資料館協議委員会

 会
 長
 小林浜次郎

 職 務 代 理
 小林計敏

委 員 田中 武 中澤文男 井出清明 小林通夫 清水岩夫

I 指定文化財等保護事業

1 国・県・市指定文化財 (国指定 16 件・県指定 20 件・市指定 133 件、合計 169 件)

指定文化財一覧表1

No	指定区分	文化財名	名称	員 数	所在地	所 有 者	指定年月日
1	国指定	重要文化財	旧中込学校校舎(附 建築文書3点)	1 棟	中込	佐久市	S44. 3.12
2	国指定	史 跡	旧中込学校	1ヶ所	中込	佐久市	S44. 4.12
3	国指定	重要文化財	紙本着色一遍上人絵伝 巻第二	1巻	野沢	金台寺	S59. 1.30
4	国指定	重要文化財	紙本墨書他阿上人自筆仮名消息	1軸	野沢	金台寺	S59. 1.30
5	国指定	重要文化財	駒形神社本殿(附 棟札4枚)	1 棟	下塚原	駒形神社	S24. 5.30
6	国指定	重要文化財	鉄鐘	1 🗆	跡部	藤沢平治	S52. 6.11
7	国指定	重要無形民俗文化財	跡部の踊り念仏	10	跡部	跡部踊り念仏保存会	H12.12.27
8	国指定	天然記念物	岩村田ヒカリゴケ産地	1ヶ所	岩村田	佐久市	T10. 3. 3
9	国指定	重要文化財	新海三社神社三重塔	1棟	田口	新海三社神社	M40.8.28
10	国指定	史 跡	龍岡城跡	1ヶ所	田口	佐久市	S 9. 5. 1
11	国指定	重要文化財	新海三社神社東本社	1 棟	田口	新海三社神社	S12. 7.29
12	国指定	重要文化財	六地蔵幢	1 基	入沢	佐久市	S36. 3.23
13	国指定	重要文化財	高良社(旧八幡社本殿)	1棟	蓬田	八幡神社	S17.12.22
14	国指定	重要文化財	福王寺の木造阿弥陀如来座像	1 体	協和小平	福王寺	S25. 8.29
15	国指定	重要文化財	真山家主屋・土蔵	2棟	望月本町	真山純子	S48. 6. 2
16	国指定	特別天然記念物	ニホンカモシカ				S50. 2.15
1	県指定	県 宝	木造阿弥陀如来座像	1 体	岩村田	西念寺	S34.11. 9
2	県指定	県 宝	木造地蔵菩薩半跏倚像	1体	根々井	正法寺	S44. 5.15
3	県指定	県 宝	木造阿弥陀如来座像及び両脇侍立像	3体	安原	安養寺	Н 6. 8.15
4	県指定	県 宝	版本大般若経	577 巻	安原	安養寺	S63. 3.24
5	県指定	県 宝	貞祥寺三重塔	1基	前山	貞祥寺	H 4. 9.10
6	県指定	県 宝	貞祥寺惣門及び山門	2門	前山	貞祥寺	H15. 4.21
7	県指定	史 跡	三河田大塚古墳	1基	三河田	柳沢 茂	S37. 7.12
8	県指定	史 跡	伴野城跡	1ヶ所	野沢	大伴神社・佐久市	S40. 4.30
9	県指定	史 跡	根井氏館跡	1ヶ所	根々井	正法寺	S40. 7.29
10	県指定	史 跡	北高禅師墓碑	1基	岩村田	龍雲寺	S44.10. 2
11	県指定	史 跡	岩尾城跡	1ヶ所	鳴瀬	個人39人	S46. 5.27
12	県指定	史 跡	平賀氏城跡	1ヶ所	常和城下他	個人37人	S46. 5.27
13	県指定	史 跡	大井城跡(王城・黒岩城)	2ヶ所	岩村田	個人34人	S46. 5.27
14	県指定	天然記念物	王城のケヤキ	1本	岩村田	荒宿十二社	S61. 3.27
15	県指定	有形文化財	井出家座敷	1室	臼田	井出 卓	S50. 7.21
16	県指定	天然記念物	広河原の洞穴群	11 穴 9 池	田口	禅昌寺	S51. 3.29
17	県指定	有形文化財	上宮寺梵鐘	1 基	田口	上宮寺	S52. 3.31
18	県指定	無形民俗文化財	湯原神社式三番	1つ	湯原	湯原神社式三番保存会	S56. 2. 2
19	県指定	有形文化財	鋳銅箔鍍金花瓶	1 П	臼田	弥勒寺	S62. 3.27
20	県指定	史 跡	五郎兵衛用水跡	1路	望月・浅科	佐久市・建設省	S58.12.26

指定文化財一覧表2

No	指定区分	文化財名	名称	員 数	所在地	所 有 者	指定年月日
1	市指定	-	金台寺の鉦	1 🗆	野沢	金台寺	S46.101
2	市指定	有形文化財	竹田の鉦 (一)	1 🗆	竹田	工藤光吉	S46.10.1
3	市指定	有形文化財	竹田の鉦(二)	1 🗆	竹田	工藤勇祐	S46.10.1
4	市指定	有形文化財	平賀村中善寺大般若経	600 巻	平賀	中善寺	S49.12.1
5	市指定	有形文化財	下桜井村寛永の五人組帳	1 冊	桜井	日田繁雄	S49.12.1
6	市指定	有形文化財	永禄十一年上原筑前御恩御検地帳	2冊	瀬戸	柳沢譲	S49.12.1
7	市指定	有形文化財	龍雲寺の中世文書	38点	岩村田	龍雲寺	S62.10.20
8	市指定	有形文化財	安養寺の中世文書	7点	安原	安養寺	S62.10.20
9	市指定	有形文化財	大井法華堂修験関係文書	859 点	岩村田	大井道也	H1.11.6
10	市指定	有形文化財	平尾大社本殿	1 棟	上平尾	平尾大社	S49.12.1
11	市指定	有形文化財	旧大沢小学校	1 棟	大沢	佐久市	H8.6.6
12	市指定	有形文化財	倉沢薬師堂	1 棟	前山	貞祥寺	H10.4.30
13	市指定	有形文化財	取出町百番観音	100体一式	取出町	取出町区	S49.12.1
14	市指定	有形文化財	桃源院木造地蔵菩薩坐像	1 体	南岩尾	桃源院	S49.12.1
15	市指定	有形文化財	安養寺の木造法燈国師倚像	1 体	安原	安養寺	S62.10.20
16	市指定	有形文化財	木造愛染明王坐像および脇侍木造両界大日如来坐像	3体	志賀	法禅寺	H1.11.6
17	市指定	有形文化財	大沢村旧長命寺仁王堂應永在銘石柱	1柱	大沢	長命寺	S54.9.25
18	市指定	有形文化財	正法寺多層塔	1 基	根々井	正法寺	H10.12.28
19	市指定	有形文化財	暦應在銘板碑	1 基	中込	正楽寺	S57.3.1
20	市指定	史 跡	大梅禅師墓碑	1基	内山	正安寺	S45.10.1
21	市指定	史 跡	鵜縄沢端一里塚東塚	1 基	岩村田	関口芳幸	S45.10.1
22	市指定	史 跡	安原大塚古墳	1 基	安原	英多神社	S45.10.1
23	市指定	史 跡	北西ノ久保の石造塔婆群	1 群	岩村田	信州短期大学	S49.12.1
24	市指定	史 跡	正楽院の供養塔	1 基	平賀	長福寺	S49.12.1
25	市指定	史 跡	前山城跡	1ヶ所	前山	個人11人	S56.4.23
26	市指定	名 勝	皎月原	1ヶ所	小田井	佐久市	S53.2.1
27	市指定	有形文化財	上直路遺跡出土遺物	一括		佐久市	S62.10.20
28		有形文化財	東一本柳古墳出土遺物	一括		佐久市	S62.10.20
29	市指定	有形文化財	北西ノ久保遺跡出土の埴輪	一括		佐久市	S62.10.20
30	市指定	有形文化財	周防畑B遺跡出土遺物	一括		佐久市	S62.10.20
31	市指定	有形文化財	中道遺跡出土遺物	一括		佐久市	S62.10.20
32	市指定	史 跡	瀧の峯古墳群	4基	根岸	個人6名	S62.10.20
33	市指定	有形文化財	瀧の峯古墳群出土遺物	一括		佐久市	S62.10.20
34	市指定	史 跡	後沢遺跡	1ヶ所	小宮山	佐久市	S62.10.20
35	市指定	有形文化財	後沢遺跡出土遺物	一括		佐久市	S62.10.20
36	市指定	天然記念物	白山神社イチヰの古樹	1本	常和	白山神社	S45.10.1
37	市指定	天然記念物		1本	野沢	大伴神社	S46.10.1
38	市指定	天然記念物	チョウゲンボウ	2ヶ所	伴野・鳴瀬		S53.2.1
39		無形民俗文化財		1つ	岩村田	荒宿区	S58.9.1
40	市指定	史 跡	舟つなぎ石	1	塩名田	-	S25.12.1

指定文化財一覧表3

	指定区分	東 文化財名	名称	員 数	所在地	所 有 者	指定年月日
41	市指定	天然記念物	お神明の三本松	1本	上小田切	上小田切西区	S47.5.5
42	市指定	史 跡	蛇塚古墳	1 基	臼田	佐久市	S47.5.5
43	市指定	史 跡	幸神古墳群	4 基	田口	新海三社神社	S47.5.5
44	市指定	史 跡	西の窪19号古墳	1 基	入沢	桜井やす	S47.5.5
45	市指定	有形文化財	相沢寺仏面	41面	白田	相沢寺	S48.3.10
46	市指定	天然記念物	入沢風穴	1ヶ所	入沢	三石正長	S48.3.10
47	市指定	有形文化財	田野口藩陣屋日記	372 冊	下超	佐久市	S50.11.22
48	市指定	有形文化財	湯原神社青銅鰐口	1 🏻	湯原	湯原神社	S52.3.31
50	市指定	有形文化財	信濃奇勝録版木	1組	白田	井出敏	S52.3.31
49	市指定	有形文化財	大宮諏訪神社青銅鰐口	1 🏻	入沢	大宮諏訪神社	S52.3.31
51	市指定	有形文化財	滝秩父札所観音石仏	34尊	湯原	湯原区	S53.2.17
52	市指定	有形文化財	水落観音町石石仏	13尊	田口	水落山観音院	S53.2.17
53	市指定	有形文化財	相沢寺平鉦	1 🏻	臼田	相沢寺	S54331
54	市指定	有形文化財	弥勒寺板碑	1基	臼田	弥勒寺	S54.3.31
55	市指定	有形文化財	医王寺板碑	1基	臼田	医王寺	S54.3.31
56	市指定	有形文化財	御魂代石	1基	田口	新海三社神社	S55.3.31
57	市指定	有形文化財	岩水秩父札所観音木像	34体	平林	岩水区	S55.3.31
58	市指定	有形文化財	大宮諏訪神社石棒	1本	入沢	大宮諏訪神社	S57.4.1
59	市指定	有形文化財	解体人形	1 体	田口	小林勝彦	S57.4.1
60	市指定	有形文化財	磨崖石仏群	5基	三分	三分区	S58.3.25
61	市指定	有形文化財	嫗の石像	1 体	下小田切	下小田切区	S58.3.25
62	市指定	有形文化財	大日宝塔	4基	三分	遍照寺	S58.3.25
63	市指定	有形文化財	丸山家中世古文書	3点	田口	丸山槇太	S58.3.25
64	市指定	有形文化財	新海三社神社中世古文書	3点	田口	新海三社神社	S58.3.25
65	市指定	有形文化財	小太刀古狐丸	1振	入沢	日向広邦	S60.3.28
66	市指定	有形文化財	地獄極楽図	2軸	白田	弥勒寺	S62.3.25
67	市指定	有形文化財	入沢焼茶壺	1点	下越	佐久市	S63 4 18
68	市指定	天然記念物	キレハエビラシダ	1 群	上小田切	上小田切区	S63 11 21
69	市指定	有形文化財	物部の銅印	1個	常和	上原政彦	H5.7.1
70	市指定	有形文化財	蕨手刀(わらびてのたち)	1 振	下越	佐久市	H5.7.1
71	市指定	有形文化財	銙带具	1組	下越	佐久市	H5.7.1
72	市指定	有形文化財	山宮家中世古文書	4点	田口	山宮博子	H8.5.1
73	市指定	有形文化財	龍岡藩高礼場	1 棟	田口	佐久市	H9.4.1
74	市指定	有形文化財	日影堂百番観音木像	100体一式	臼田	医王寺	H9.4.1
75	市指定	有形文化財	吉祥寺山門	1 棟	入沢	吉祥寺	H10.4.1
76	市指定	有形文化財	薬師堂薬師三尊像	3体	入沢	日向一族	H10.4.1
77	市指定	有形文化財	金剛力士像	2体	田口	上宮寺	H11.4.1
78	市指定	有形文化財	泉龍院涅槃図	1 軸	中小田切	泉龍院	H12327
79	市指定	有形文化財	磨崖青面金剛	1 尊	田口	大工原一彦	H14.3.6
80	市指定	有形文化財	新海三社神社中本社・西本社	2棟	田口	新海三社神社	H14.3.6

指定文化財一覧表4

	指定区分		名称	員 数	所在地	所 有 者	指定年月日
81	市指定	有形文化財	大宮諏訪神社本殿	1 棟	入沢	大宮諏訪神社	H15.3.6
82	市指定	有形文化財	三条神社本殿	1 棟	入沢	三条区	H15.3.6
83	市指定	天然記念物	黒沢家コナラ	1本	湯原	黒沢家	H16.2.13
84	市指定	天然記念物	児落場峠天然カラマツ	1本	入沢	佐久市	H16.2.13
85	市指定	有形文化財	五輪塔群	1群	塩名田	塩名田区	S47.8.1
86	市指定	史 跡	塩名田本陣跡	1棟	塩名田	丸山憲一	S25.12.1
87	市指定	有形文化財	山の神石祠	1 基	御馬寄	御馬寄区	S56.8.1
88	市指定	有形文化財	石仏十王像	5 尊	御馬寄	御馬寄区	S56.8.1
89	市指定	史 跡	御馬寄古城跡	1ヶ所	御馬寄	山浦幸之助外	S25.12.1
90	市指定	天然記念物	勝手神社のケヤキの木	1本	御馬寄	勝手神社	H15.10.30
91	市指定	天然記念物	関所破りの桜	1本	甲	市川恒世	S44.5.15
92	市指定	無形民俗文化財	鳥追い祭り	10	上原	上原鳥追い祭り保存会	H9.2.20
93	市指定	有形文化財	長念寺の木造阿弥陀如来立像及び胎内文書	1 体	甲	長念寺	H9.2.20
94	市指定	史 跡	中山道一里塚跡	1ヶ所	甲	山本武広	H9.2.20
95	市指定	史 跡	土合一号古墳	1 基	甲	金箱保	S25.12.1
96	市指定	史 跡	火の雨塚古墳	1 基	桑山	寺尾福丸	S25.12.1
97	市指定	史 跡	八幡宿本陣跡	1ヶ所	八幡	小松勇夫	H9.2.20
98	市指定	有形文化財	八幡神社の算額	1 面	八幡	八幡神社	H9.2.20
99	市指定	有形文化財	八幡神社の瑞垣門	1 棟	八幡	八幡神社	H9.2.20
100	市指定	有形文化財	八幡神社の随神門	1 棟	八幡	八幡神社	H9.2.20
101	市指定	有形文化財	八幡神社の本殿	1 棟	八幡	八幡神社	H9.2.20
102	市指定	史 跡	野馬除け柵跡	数カ所	御牧原	個人所有	S35.8.15
103	市指定	史 跡	虚空蔵のろし場跡	1ヶ所	矢島	八幡神社	S25.12.1
104	市指定	有形文化財	矢島の五輪塔	1 基	矢島	宝泉寺	S25.12.1
105	市指定		矢島道祖神	1 基	矢島	矢島区	S62.10.1
	市指定		兜山古墳	2基	八幡蓬田	依田仁	H16.11.24
	市指定		百番観音石仏群	100 尊	春日	飯塚宗治	S61.9.10
<u> </u>	市指定		市川家の石造大日如来坐像	1 体	布施入	市川豊	S61.9.10
	市指定		城光院の石造庚申塔	1 基	望月県町	城光院 勝山昌一	S61.9.10
<u> </u>	市指定		城光院の石造十王像	10尊	望月県町	城光院 勝山昌一	S61.9.10
\vdash			城光院の石造宝篋院塔	4 基	望月県町	城光院 勝山昌一	S61.9.10
	市指定	有形文化財	万治の石造大日如来	1 体	協和天神	比田井良嗣	S61.9.10
		有形文化財	福王寺の石造庚申塔	1 基	協和小平	福王寺桑沢俊胤	S61.9.10
		有形文化財	福王寺の木造日光菩薩立像	1 体	協和小平	福王寺桑沢俊胤	S61.9.10
		有形文化財	福王寺の木造月光菩薩立像	1 体	協和小平	福王寺桑沢俊胤	S61.9.10
			福王寺の木造雨宝童子立像	1 体	協和小平	福王寺桑沢俊胤	S61.9.10
		有形文化財	福王寺の木造毘沙門天立像	1 体	協和小平	福王寺桑沢俊胤	S61.9.10
			月輪寺跡の石造笠塔婆	1基	印内	印内区	S61.9.10
			天神の元禄の石造双対道祖神	1 体	協和天神	天神区	S61910
120	市指定	有形文化財	入布施の石造片手合掌双体道祖神	1 体	布施入	布施区	S61.9.10

指定文化財一覧表5

No	指定区分	文化財名	名称	員 数	所在地	所 有 者	指定年月日
121	市指定	有形文化財	牧布施の石造庚申塔	1基	布施	牧布施区	S61.9.10
122	市指定	無形民俗文化財	岩下の踊り念仏	1つ	春日岩下	岩下踊り念仏保存会	S61.9.10
123	市指定	無形民俗文化財	根神社の式三番叟	1つ	春日宮の入	根神社式三番叟保存会	S61.9.10
124	市指定	無形民俗文化財	榊祭	1つ	望月	望月区	S61 9 10
125	市指定	史 跡	下吹上遺跡	1ヶ所	協和吹上	佐久市	S61.9.10
126	市指定	史 跡	中山道		布施・望月茂田井	佐久市	S61.9.10
127	市指定	史 跡	王塚古墳	1基	協和	比田井区	S61.9.10
128	市指定	天然記念物	山の神のコナラ群	1 群	春日西久保	春日財産区	Н9.3.14
129	市指定	天然記念物	小野山家のエドヒカン	1本	春日向反	小野山駿吉	Н9.3.14
130	市指定	天然記念物	蓮華寺のスギ	1本	春日下の宮	蓮華寺日暮良三	Н9.3.14
131	市指定	天然記念物	大井家のエドヒカン	1本	協和高呂	大井誉敬	Н9.3.14
132	市指定	天然記念物	福王寺のヒイラギ	1本	協和小平	福王寺桑沢俊胤	H9.3.14
133	市指定	無形民俗文化財	春日本郷地区道祖神祭り	1つ	春日本郷	春日本郷地区	H10.2.20

2 普及・公開事業

 旧中込学校入館者数
 9,474 人 (開館日数 304 日)

 藤村旧宅入館者数
 1,649 人 (開館日数 138 日)

Ⅱ 埋蔵文化財事業

1 保護・保存事業

(1) 記録保存

1) 概要

	開発原因者			報告書刊行			
	用	発 掘	試 掘	立 会	整 理	計	TK 口 音 [1] 1]
国	国・県補助				1	1	1
県市	建設事務所	8	7			15	3
等	佐 久 市	4	10	11		25	1
個	人・民間企業	2	25	8	1	36	2
	合 計	14	42	19	2	77	7
原	因者負担	14			1	15	6
国	・県補助		42	19	1	62	1

2) 発掘調査・整理作業

No	遺跡名	調査面積	所在地	事業	備考		
1	開戸田遺跡他	5,385 m²	平賀	国補道路改良(国)254号佐久平賀バイパス	住居址 111 (古·奈·平)、掘立柱建物址、溝、特殊遺構、土坑、鍛冶址		
2	地ヶ入遺跡他	18,994 m [‡]	志賀	県単地方道路交付金事業 下仁田浅科線佐久市駒込	住居址 (平)、竪穴状遺構 (中世)、火葬墓、土坑、頁岩原産地		
3	野沢館跡Ⅷ	700 m²	野沢	地方道路交付金 (街路)	堀1 (中世)、土坑13、竪穴3 (中世)		
4	市道遺跡Ⅲ他	8,000 m²	跡部	国道 141 号臼田野沢バイパス拡幅工事	住居址 106、掘立柱建物址 37、土坑 151、溝 21、竪穴 9 他		
5	西一本柳遺跡ⅩⅢ	337 m²	岩村田	貸事務所建設	住居址 35 (弥~平)、掘立柱建物址、土坑、溝		
6	北畑遺跡I	1,500 m²	桜井	中部横断自動車道佐久南 IC 建設	土坑 23、溝 4 、Pit、包含層 (縄・弥・平)		
7	寄塚遺跡	1,598 m²	今井	県単道路改築事業	住居址 13 (弥·古)、掘立柱建物址 6、溝 12、土坑 17		
8	大豆田遺跡	900 m²	長土呂	臨時交付金事業 市道2-5号線	住居址8、掘立柱建物址4、溝1、土坑12		
9	須釜遺跡	66.5 m²	蓬田	道路改良	溝5、土坑1		

3)整理作業

No	遺跡名	所在地	事業	備考
1	前田遺跡Ⅴ他	小田井	国補交通安全施設等整備事業	第 133 集 曽根城遺跡Ⅳ、下曽根遺跡Ⅲ、前田遺跡Ⅴ、鋳師屋遺跡Ⅲ
2	下信濃石遺跡	岩村田	土地区画整理事業	第 134 集 下曽根遺跡

4) 試掘・立会調査

No	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	開発面積(m)	調査期日	種別
1	上砂田遺跡	岩村田	390	2,400	H17.5.13	試掘
2	栗毛坂遺跡群	岩村田	333	1,960	H17.4.26	試掘
3	跡坂・芋の原遺跡群	横根	20	191.22	H17.5.23·24、8.3 ~ 5	試掘
4	枇杷坂遺跡群	岩村田	302.61	2358.09	H17.5.25 · 26	試掘
5	栗毛坂遺跡群	岩村田	73.2	714	H17.6.1	試掘
6	平賀中屋敷遺跡群	平賀	73.2	714	H17.6.1	試掘
7	久禰添遺跡	太田部	32	1,912	H17.6.9	試掘
8	岩村田遺跡群	岩村田	32	1,831	H17.6.8 ~ 10	試掘
9	梨の木遺跡	中込	25	231.17	H17.6.4	試掘
10	岩村田遺跡群	岩村田	209.1	1,242.5	H17.6.10	試掘
11	中原遺跡群	今井	165	1,610	H17.6.13	試掘
12	城下遺跡群	下小田切	1,315	26,000	H17.7.19 ~ 22·25, 10.18	試掘
13	松の木遺跡	岩村田	542	36,000	H17.7.20·21、H18.1.4 ~ 7	試掘
14	国蔵山古墳	岩村田	59	780	H17.7.21	試掘
15	野馬窪遺跡群	猿久保	316	647	H17.7.11 · 12	試掘
16	社宮司遺跡	原	50	5,180	H17.8.5	試掘
17	北畑遺跡群	伴野	4,310	25,000	H17.8.17 ~ 9.5	試掘
18	前田遺跡群	塚原	194.22	1,087.99	H17.9.14	試掘
19	前田遺跡群	塚原	105.75	1,002.91	H17.9.13	試掘
20	西一里塚遺跡群	根々井	32	134.49	H17.9.15	試掘
21	野沢城跡	野沢	23.32	243.82	H17.10.14	試掘
22	七曲り下遺跡	臼田	1,000.54	17,787.75	H17.10.15 · 16 · 19	試掘
23	落合居屋敷遺跡	鳴瀬	191.85	1,912	H17.10.24	試掘
24	岩尾城跡	鳴瀬	35.14	2,462	H17.10.21	試掘
25	西一里塚遺跡群	根々井	35.14	5,800	H17.11.2 ~ 11	試掘
26	周防畑遺跡群	長土呂	250	4,850	H17.11.24 · 25	試掘
27	須釜原窯跡	蓬田	179	2,700	H17.11.24·25	試掘
28	西久保 B 遺跡	春日	145	5,000	H17.11.29·30	試掘
29	五庵遺跡	田口	61.83	876.1	H17.11.29·30	試掘
30	宮浦遺跡群	桜井		25,011	H17.12.5 ~ 10、H18.3.17 ~ 23	試掘
31	芝宮遺跡群	長土呂	282	4,952.81	H18.1.19·20	試掘
32	岩村田遺跡群	岩村田	96	791.12	H18.1.12	試掘
33	濁り遺跡	平塚	158.28	872	H17.12.15·16·19	試掘
34	濁り遺跡	岩村田	326.75	2,397	H18.2.6 · 7	試掘
35	町田遺跡群	跡部	42	273.35	H18.1.17	試掘
36	寄塚遺跡群	横和	200	2,347	H17.10.11·12	試掘
37	枇杷坂遺跡群	佐久平駅南	85	1,180	H18.3.6	試掘

No	遺跡名	所在地	調査面積(m)	開発面積(m²)	調査期日	種別
38	高師町遺跡	新子田	120	998	H18.2.13 · 14	試掘
39	周防畑遺跡群	佐久平駅北	363	1,665	H18.2.15 · 16	試掘
40	塚原屋敷添遺跡	根々井	333	4,200	H18.3.9 ~ 16	試掘
41	三千束遺跡群	三塚		8,354	H18.3.13 ~ 16	試掘
42	東五里田遺跡	野沢		1,500	H18.3.17 ~ 23	試掘
43	中原遺跡群 (隣接)	三河田		2,972	H17.5.27	立会
44	常田居屋敷遺跡群	長土呂	37.44	198.4	H17.6.16	立会
45	大塚遺跡群 (隣接)	中込		21,805.61	H17.7.7 ~ 20	立会
46	東大久保遺跡群	下平尾	25.75	399.04	H17.10.27 · 18	立会
47	野馬除柵跡	桑山		464.66	H17.11.18	立会
48	薊澤遺跡	野沢		364	H17.12.1	立会
49	周防畑遺跡群	長土呂		1,012	H17.12.22 · 23	立会
50	周防畑遺跡群	長土呂		2,568.82	H18.1.25	立会
51	竹原遺跡 (隣接)	平賀		1,553	H17.12.6 ~ 8	立会
52	志賀神明の木遺跡	志賀		40	H18.1.19 ~ 23	立会
53	周防畑遺跡群	長土呂		1,000	H18.2.15 ~ 3.8	立会
54	周防畑遺跡群	塚原		3,150	H18.2.8 ~ 3.16	立会
55	周防畑遺跡群	長土呂		545	H18.1.12 ~ 21	立会
56	未周知	御馬寄		5,300	H18.1.11 ~ 3.15	立会
57	宮の上遺跡群	横和		1,520	H17.7.4 ~ 11.22	立会
58	石附遺跡 (隣接)	根岸		2,800	H18.2.2·3	立会
59	未周知	未馬寄	A 1 - 0 - 17 A 2 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 -	2,800	H18.3.6 ~ 24	立会
60	番屋前遺跡群	西妻神		656.96	H18.3.3	立会
61	龍岡城跡	田口	0.25	0.25	H18.2.28	立会

2 普及·公開活動

(1)講座·説明会等

名称	開催地	開催日	参 加 者	内容
出前講座	岩村田高校	平成17年5月25日	生徒120名	佐久の古代
第26回 少年考古学教室	文化財課事務所	平成17年8月4日	市内 小中学生30名	土偶・埴輪の制作
出前講座	熊の湯	平成17年9月10日	高校退職教職員組合員20名	佐久の古代
発掘現場説明会	市道遺跡Ⅲ	平成17年11月2日	市民100名·小学生100名	市道遺跡Ⅲの発掘内容
長土呂区文化祭講演	長土呂公会場	平成17年11月6日	区民80名	長土呂の昔
佐久市生涯学習出前講座	石神公会場	平成17年11月19日	区民40名	石神教養講座「佐久の原始古代その2」

(2)文化財課資料展示室利用状況

入場者数 348名(市内242名、県内30名、県外76名)

3 分析・鑑定

No	遺跡名	種別	内容
1	下信濃石遺跡	分析	樹種・種実・プラントオパール・骨・黒曜石原産地・放射性炭素年代測定・顔料
2	市道遺跡	分析	樹種・種実・骨・漆・放射性炭素年代測定
3	長峯古墳	保存処理	鉄製品
4	開戸田・扇田遺跡	保存処理	鉄製品
5	西一本柳遺跡Ⅷ	保存処理	鉄製品
6	市道遺跡	保存処理	金属製品

扇田遺跡 1

所 在 地 佐久市内山字扇田 7118-2、7119-2、7120、7124 外

調查委託者 佐久建設事務所

開発事業名 国補道路改築(国)254号佐久平賀バイパス 調査期間 平成16年7月5日~平成18年6月17日

調 査 面 積 2,400 m²

調查担当者 上原 学 佐々木宗昭 小林 眞寿



扇田遺跡位置図(1:50,000)

経過と立地

扇田遺跡は佐久市内山地籍の標高 708 ~ 710mを測る滑津川右岸の氾濫原沖積地上に位置し、これまで遺跡の不鮮 明な地域であった。

H16 年度に試掘調査を行った結果、古代集落の存在が確認されたため、昨年に引き続き記録保存を目的とした発掘 調査を実施した。

調査概要

調査によって発見された遺構は、古墳時代から平安時代に至る住居址、掘立柱建物址、土坑、溝、Pit、である。遺物 は当時使用していた土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器といった土器が中心で形状を残すものも多数出土した。特徴 的な遺構・遺物としては、平安時代の土坑内から鍛冶に関係する道具である鞴の羽口、溶解した鉄くずである鉄滓が出 土した。このことから本集落内において鉄製品の製作を行った小鍛冶が存在していたことを伺い知ることができた。

遺

竪穴住居址- 91 軒(古墳 14、奈良 12、平安 54、不明 11) 土師器(坏・碗・皿・耳皿・高坏・甕・壷・甑・羽釜) 掘立柱建物址-4棟

溝址

土坑

須恵器 (坏・有台坏・高坏・坏蓋・甕・壷・甑)

灰釉陶器 (碗・皿・壷)

緑釉陶器 (碗・皿・壷)

鉄製品(釘・刀子・紡錘車・斧)

石製品(紡錘車・搗臼・すり石・敲石・打製石斧)

玉類 (滑石製臼玉・管玉)



←北川調査区全景 (西から)

↑南側調査区調査風景(西から)

2 野沢館跡Ⅷ

所 在 地 佐久市野沢字下木戸 258-1 外

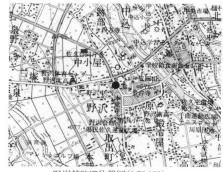
調查委託者 佐久建設事務所

開発事業名 県単緊急地方道路整備事業-取手中央線-

調 查 期 間 平成 17 年 7 月 25 日 ~ 8 月 26 日、10 月 13 · 14

平成 18 年 1 月 23 日

調 査 面 積 125 ㎡ (開発面積 450 ㎡) 調査担当者 林 幸彦 森泉かよ子



野沢館跡畑位置図(1:50.000)

経過と立地

野沢館跡は、佐久市野沢に所在し、佐久市中央を北流する千曲川左岸の低河岸段丘上にあり、標高は 675m内外を測る。平安時代末から中世にかけて営まれた居館跡である。野沢館跡は昭和 40 年に「伴野城址」として県史跡に指定されている。平成 $11\sim16$ 年度にかけて、 \mathbb{W} 次にわたり主郭および外郭が発掘調査され、中世および近世の遺構・遺物が検出されている。

今回、緊急地方道路整備事業が計画され、取手中央線(佐久市野沢本町)の道路工事により遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、佐久建設事務所の委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が発掘調査を行い記録保存することとなった。

調査の概要

今回の調査では東西方向に延びる中世の堀が検出され、堀の内側にあたる南側は竪穴状遺構や土坑が密集していた。 平成15年の野沢館跡VIの調査により外堀の北西隅にあたる南北・東西の堀が検出されている。今回調査により検出された東西方向の堀はVI次調査の東西の堀の延長線上に位置する。主郭に沿う内堀、VI次調査で確認できた外堀から今回の調査地点にさらに堀があることが明らかとなった。この堀は古地図や現状の水路などから、その存在が推測されていた外堀であり、確認できた成果は大きい。

今回の調査地点の字名が「下木戸」であることから、居館外郭の入口にあたる地点に今回外堀が検出され、現道を寸断する位置に堀が存在することは、中世においての通路は堀に沿って西に折れ、堀の切れる地点を「小口」として使用していたと想定される。本調査地区より西の地点の調査を待たねばならないが注目される場所である。



調查風景



M1(中世の堀)

3 市道遺跡Ⅲ他

所 在 地 佐久市跡部字市道外

調查委託者 佐久建設事務所

開発事業名 国道 141 号 臼田~佐久拡幅工事

調査期間 平成16年9月9日~平成17年11月

調査面積 約8,000 m

調查担当者 富沢 一明 佐々木宗昭 出澤 力



市道遺跡Ⅲ他位置図(1:50,000)

経過と立地

調査遺跡はいづれも野沢平に広がる沖積微高地に立地する。これら微高地は片貝川や千曲川の流路変遷により形成されたものと考えられるが、大規模な捕縄整備により、現状では、微高地範囲は不鮮明になっている。因って、遺跡範囲も現地表面からの観察では限界があり、「佐久市詳細遺跡分布図」とはその範囲は大きな異なりが認められた。

今回、国道 141 号線の拡幅工事に先立ち佐久建設事務所からの委託を受け、佐久市教育委員会が記録保存を目的とした調査を実施した。

調査の概要

今回の調査は道路拡幅範囲ということもあり、4遺跡の集落の全容は明にはできなかったが、野沢平を南北に長く調査したことにより、様々な成果が得られた。

最も重要な成果は、野沢平の水田下にも大規模な遺跡が存在することが証明されたことである。前記したように、水田部分の遺跡の把握は地表面からは難しく、また過去の圃場整備により、遺跡は消滅したと考えられていたが、今回の調査により、佐久市北部の長土呂・岩村田等に存在する、大規模古代集落に匹敵するような遺跡が現存していることが判明したことである。

○検出遺構詳細

○出土遺物詳細

遺跡名	遺構	数量	時代等	出土遺物総量 130 箱 (58×36×20 cm)
	竪穴住居址	28 軒	古墳時代中期~奈良時代	古墳時代の土師器・須恵器・鉄製品・砥石
	土坑	32 基	中世の竪穴状遺構を含む	臼玉
辻遺跡	溝状遺構	9条		奈良時代の土師器・須恵器・鉄製品
	掘立柱建物址	11 棟		平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器
	特殊遺構	3基		緑釉陶器・円面硯・風字硯
	竪穴住居址	60 軒	古墳時代中期~平安時代	鉄製品・青銅製品(鞘尻金具・丸鞆
	掘立柱建物址	19 棟		中世の陶磁器類(青磁・常滑・山茶碗)
市道遺跡Ⅲ	土坑	52 基	井戸跡等含む	炭化材・馬骨
	溝状遺構	4条		縄文土器・弥生土器・石鍬
	竪穴状遺構	9基	中世	
	Pit	249 基		
	竪穴住居址	20 軒	奈良時代~平安時代	
	掘立柱建物址	8棟	大型掘立柱建物址	
儘田遺跡Ⅱ	土坑	63 基		*1
	溝状遺構	8条		
	特殊遺構	1基		
	Pit	105 基		
	竪穴住居址	2軒	平安時代	
西浦遺跡	土坑	3基		
	掘立柱建物址	1 棟		
	Pit	1基		



市道遺跡Ⅲ H54→

↓市道遺跡Ⅲ H54カマド



儘田遺跡Ⅱ出土 風字硯→





←儘田遺跡Ⅱ全景

4 西一本柳江

所 在 地 佐久市岩村田下樋田 1787-1

調查委託者 油井 基

開発事業名 貸事務所建設

調査期間 平成17年4月5日~4月27日

調 査 面 積 337 ㎡ (開発面積 1,578 ㎡)

調査担当者 小林 眞寿 冨沢 一明 出澤 力 森泉かよ子



西一本柳XIII遺跡位置図(1:50,000)

経過と立地

岩村田遺跡群は、佐久市岩村田地籍の湯川右岸台地上に展開する佐久市有数の大遺跡群であり、弥生時代中期~ 中世の複合遺跡である。

西一本柳遺跡は、遺跡群の南西端に位置する。本調査は今回も含め過去13回行われており、人面付土器の頭部、 石戈などの弥生時代の貴重遺物が発見されている。

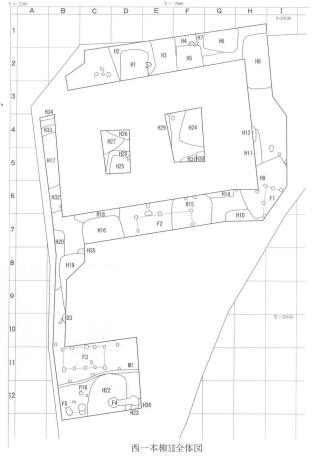
今回、遺跡内において油井 基氏により貸事務 所の建設が計画されたため、記録保存を目的とし た発掘調査を実施した。

調査の概要

弥生時代中期~平安時代の住居址が35 軒検出さ れた。建物の基礎部分に限定された調査であるため、 完掘された遺構は皆無であった。成果としては弥生 時代後期前半の「吉田式」期の住居址が4軒検出さ れ、比較的まとまった該期の土器資料が蓄積された ことであろう。



H16号住居址遺物出土状況



5 北畑遺跡I

所 在 地 佐久市桜井下田 559-1 外

調查委託者 東日本高速道路株式会社 関東支社佐久工事事務所

開発事業名 佐久南IC~国道142号線間の道路新設事業

調 査 期 間 平成17年10月3日~平成18年3月31日

調 査 面 積 2363.47 ㎡ 調査担当者 小林 眞寿



北畑遺跡I位置図(1:50,000)

経過と立地

今回の調査は、東日本高速道路株式会社による中部横断自動車道佐久南IC~国道142号線を結ぶ道路新設工事が計画されたため、建設予定地内において、佐久市教育委員会が埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した結果、従来捉えられていた範囲を超え遺跡が広がっていることが判明したため、委託を受け佐久市教育委員会が実施した。

調査は今年度から平成19年度までの3ヶ年で終了する予定である。

北畑遺跡群は現下桜井集落の地下、片貝川右岸の河岸段丘上に位置し、標高650m台を測る。今回の調査地点は遺跡の西端部分にあたり、集落の縁辺部分の調査となった。

調査の概要

縄文時代前期、中期後半、後期、弥生後期、平安時代の遺構・遺物が検出された。平野部における縄文時代遺跡の検出例は佐久市内では希少であり、特に前期において、当該地に集落が存在したことが初めて確認された。 遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

○潰構

土坑 23基、溝址 4条、Pit 71基、遺物包含層 1ヶ所(縄文·弥生·平安時代)

○遺物

縄文土器、弥生土器、土師器、石器



北畑遺跡 I 全景

寄塚遺跡群 6

所 在 地 佐久市横和 389-1 外 19 筆

調查委託者 佐久建設事務所

開発事業名 県単道路改築事業 (一) 上原猿久保線

調 查 期 間 平成17年10月17日~平成18年3月20日

調査面積 約1.598 ㎡

調査担当者 林 幸彦、森泉かよ子



寄塚遺跡群位置図(1:50,000)

経過と立地

寄塚遺跡群は佐久市横和·今井に所在する。湯川左岸に展開し弥生時代中期後半·古墳時代·平安時代·中世の遺構・遺物が確 認されている。

調査対象地の南に近接した今井西原遺跡からは、古墳時代・平安時代の竪穴住居址や中世の井戸址が発掘調査されている。ま た、中央の中部横断道予定地内でも竪穴住居址が調査されている。

今回、佐久建設事務所による道路改築事業が計画されたため、記録保存を目的とする発掘調査を実施した。

調査の概要

調査は県道南側の拡幅部分について行った。集落全体の様子は把握できないが、周囲の調査状況と合わせ考えると、遺跡は南 北及び西方向へ広がることが予想される。

○検出遺構

竪穴住居址 13軒(弥生時代中期後半-11、古墳時代前期-2)、掘立柱建物址 6棟、溝址 12条、土坑 17基、Pit 多数 ○出土遺物

弥生土器、土師器、須恵器、中世陶磁器、石器



遺跡遠景(北西から)

遺跡遠景(南から)→



遺跡全景↓



7 大豆田遺跡

所 在 地 佐久市長土呂大豆田 1721-2、仲田 1614-1 外

調查委託者 佐久市高速交通課

開発事業名 臨時交付金事業 市道2-5号線(常田線)

調 查 期 間 平成17年10月17日~平成18年3月20日

調 査 面 積 900 ㎡ (開発面積 4,850 ㎡) 調査担当者 林 幸彦、森泉かよ子



大豆田遺跡位置図(1:50,000)

経過と立地

大豆田遺跡は、佐久市長土呂に所在し、佐久市の北西部に位置する。浅間第一軽石流の堆積と浸食によって形成された田切り地形が発達する。田切りは南西方向に放射状に延び谷地形となっている。台地上には原始から中世の人々の痕跡が多く残されている地点である。標高は704m内外を測る。この付近は圃場整備、高速道路、新幹線、佐久平駅周辺の土地区画整理事業などにより弥生時代から中世にわたる遺構・遺物が発掘調査によりすでに検出されている。

今回、臨時交付金事業 市道2-5号線(常田線)の道路工事が計画され、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出され、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、発掘調査を行い記録保存することとなった。佐久市高速交通課の委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が発掘調査を実施することとなった。

調査の概要

今回の調査地点は現状道路常田線の南側拡幅部分の内、東半分にあたるおよそ東西200m、南北4.5mの範囲である。弥生時代後期の遺構は圃場整備時に削平され、生活していた床面は壊され、柱穴だけが残っている住居址があった。現状道路部分は削平されておらず、現状道路部分の調査においては遺構が良好に検出されるであろう。

自然現象として、地盤のズレが確認された。弥生時代後期の住居址は検出面から30cmほど下で第一軽石流が10cmほど北にスライドして押し出され、さらに下の地盤も北方向によじれていた。地震などによる地盤への影響が見られた。奈良時代や中世の遺構には見られない。

○検出遺構 竪穴住居址-8軒、掘立柱建物址-4棟、溝址-14条、土坑-12基(井戸址4基)、Pit-30基

○出土遺物 弥生土器、土師器、須恵器、石器、鉄器、古銭、陶磁器



寒冷期の調査であるため遺構密集地点にビニールハウスを建て調査



発掘調査地点全景

須釜遺跡 8

所 在 地 佐久市蓬田字蓬田

調查委託者 佐久市土木課 開発事業名 道路改良工事

調 査 期 間 平成17年12月12日~平成18年3月31日

調 査 面 積 66.5 m²

調査担当者 富沢 一明



須釜遺跡位置図(1:50,000)

経過と立地

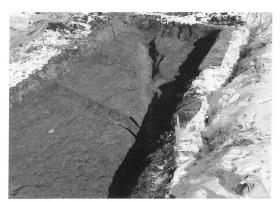
須釜遺跡は佐久市蓬田に所在する。遺跡は御牧ヶ原台地の東側縁辺丘陵の西斜面に立地する。

今回、市道改良の為の拡幅工事に伴い佐久市土木課より予定地の遺跡有無について照会があった。佐久市教育委員会では計 画路線に接して須釜遺跡及び須釜古窯址群が存在することを回答し、試掘調査を行うこととなった。結果、以降が発見されたため、 保護協議の後に記録保存目的の発掘調査を行う事となった。

調査の概要

調査の結果、古代の溝状遺構及び土坑が検出された。今回の調査範囲は道路幅ということもあり検出された遺構の性 格は把握できないが、遺跡は東西方向へ広がることが予想された。また、今回の調査範囲では須恵器古窯址に関連する 遺構は未発見であったが、今後の開発に際しても十分な注意が必要な地域である。

○検出遺構 溝状遺構-5条、土坑-1基 ○出土遺物 土師器、須恵器



北地点 溝状遺構全景(南より)



北地点 調査風景(北より)

円正坊遺跡VI 調査報告書 ーその1ー

所 在 地 佐久市岩村田塚本 1298-2

調查委託者 中沢 敦子 開発事業名 集合住宅建設

調 查 期 間 平成 14 年 7 月 15 日 ~ 9 月 25 日

調 **查 面 積** 850 m (開発面積 1,700 m)

調査担当者 林 幸彦 森泉かよ子 三石 宗一 小林 眞寿

冨沢 一明 上原 学 出澤 カ



円正坊遺跡VI 位置図(1:50,000)

例言・凡例

- 1. 本書は、中沢 敦子が行う集合住宅建設に伴う、枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Mの発掘調査報告書である。
- 2. 本報告書の作成は小林が行った。
- 3. 本書及び当遺跡出土遺物等の全ての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
- 4. 遺構の略記号は住居址ーH、掘立柱建物址ーF、土坑ーD、溝址ーM、PitーPである。
- 5. 挿図の縮尺は遺構- 1/80、遺物- 1/4 である。例外は挿図中に縮尺を記した。
- 6. 遺構の海抜標高は各遺構毎に統一し、水糸標高をスケール上に「標高」として記してある。
- 7. 土層の色調は1988年番「新版 標準土色帖」に基づいた。
- 8. 遺物挿図番号、遺物写真番号、遺物観察表番号は一致する。
- 9. 調査区グリッドは公共座標の区割りに従い、間隔は4×4mに設定した。
- 10. 遺構の分類・住居の分割名称、遺物の器種分類等については聖原遺跡の分類に従っている。
- 11. 挿図中における網掛は以下のことを表す。



















地 山

柱 痕

里色処理

経過と立地

円正坊遺跡VIは円正坊遺跡の西端部に位置し、標高 700mを僅かに越える。調査地の西南方向には低湿地が広がり、 遺跡は台地の端部に立地している。地山は浅間火山の第1軽石流の堆積層である。過去において、当遺跡では、5次 に及ぶ面調査が実施され、いずれの調査においても、弥生~中世に係わる遺構・遺物が数多く検出されてきた。

今回、中沢敦子により、集合住宅建設が計画されたため、平成14年4月24日~5月15日まで試掘調査を実施した。 その結果、表土下 20~40 cmで、竪穴住居址(弥生~平安時代)40 軒以上、掘立柱建物址2棟、土坑13基、溝址5 条、ピット12基が検出された。また、これらの遺構に伴い、弥生土器(後期)、土師器、須恵器、灰釉陶器などが出土した。

保護協議の結果、建物の基礎部分と2箇所の出入口部分については、工事により遺構が破壊されるため、調査を実 施し、他の部分については埋土保存されることとなった。

調査概要

竪穴住居址-37(弥生時代後期~平安時代) 掘立柱建物址-4棟 壺棺墓-1基 土坑-26基

溝址-2条 Pit - 126 基

弥生土器 (後期) 土師器

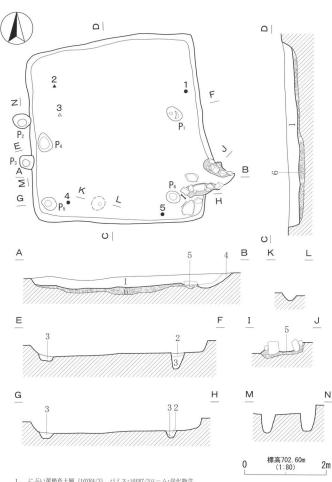
須恵器

陶器 (灰釉·緑釉) 金属器 (銅鏃・鉄器)

石器 (石包丁等)

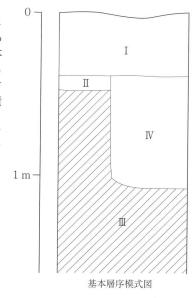
基本層序

第 I 層は耕作土であり、20~40cmの堆積が認められる。遺構の検出は、こ の耕作土下の第Ⅱ層上面で可能である。第Ⅱ層は所謂「ローム漸移層」であ る。黒褐色(10YR2/3)を基調とする色調を呈し、若干の粘性を有する。 本 層が手低地に堆積し、湿地化をすると、黒色(10YR1.7/1)の色調を呈する 粘質土層となる。また、本層の堆積が薄い場所では褐色(10YR4/4)を呈 す る。パミス・ローム粒子を含有する。第Ⅲ層は浅間火山第1軽石流の堆積 層ーP1である。この層が本遺跡の地山層である。実際の調査に際しては、 本層の上面が遺構検出面である。これは、第Ⅱ層が調査区の全面に堆積して おらず、その分布が低地に片寄ることや、遺構覆土と色調・土質が近似して おり、検出作業が難しい事に起因している。第Ⅳ層は遺構覆土である。



- 1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) パミス・10YR7/3ローム・炭化物含。
- 2. 灰黄褐色土屬 (10YR5/2) 灰含。
- 3. 10YR5/3·10YR2/2·10YR6/6の混在土層。 ローム含。
- 4. 灰黄褐色十層 (10YR5/3) 10YR8/4ローム含。カマド構築十二
- 8. にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) パミス・10YR7/3ローム・炭化物含。
- 7. にぶい黄橙色粘土 (10YR6/4)

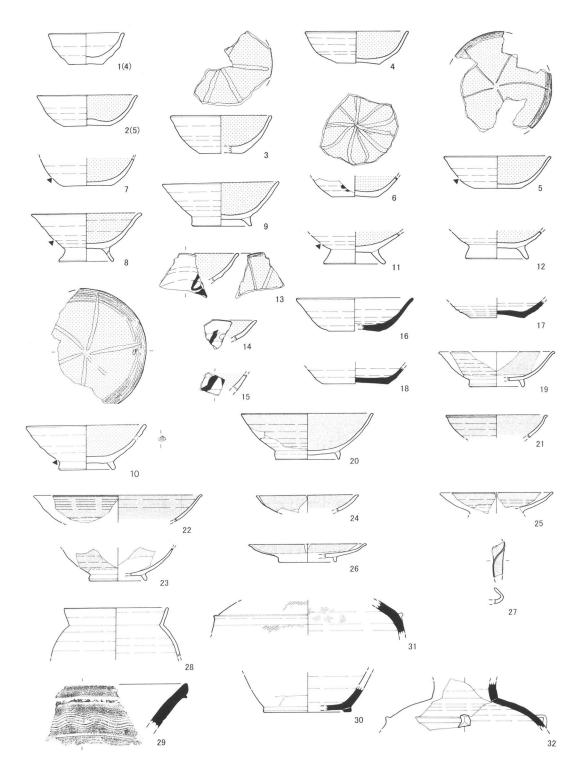
第1図 H1号住居址



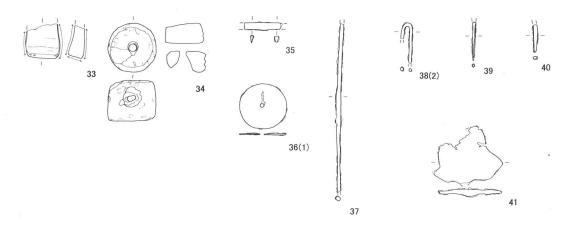
遺構と遺物

〇H1号住居址ーお5グリットで検出さ れた。H9、H18号住居址を切る。主柱 はP1~P3とP6の4基と思われる。カマ ドは東壁の東南隅よりに石芯を粘土で被 覆して構築されていた。N-5°-Wに 長軸方位をとり、長軸長-3.8m、短軸 長-3.6mの隅丸方形の平面プランを呈 する。壁残高は28cm、平面積-18mの規 模を有する。

出土遺物には土師器、須恵器、灰釉陶 器、石器、鉄器が認められる。土師器に は坏、碗、甕の器種が存在する。坏は、 C1が主体であるが、1のようなA4や、 3・6・5のようなC2も存在する。 碗 は、A1、A2、A8、A9が認められる。 また、判読できる状態のものはないが、 墨書土器も坏・碗の中に4点認められ た。甕は28のロクロ甕Bが1点出土して いる。須恵器には坏、甕、壷の器種が認 められる。坏はCのみが存在し、甕は B、壷はA形態のものである。 灰釉 陶器 には碗、皿、耳皿が認められる。施釉方 法には刷毛と漬け掛けが認められ、形態 特徴からも光ケ丘1号窯式と、大原2号 窯式の2種類が認められる。石器には砥 石と軽石製品が認められ、鉄器には刀 子、紡錘車、鎹、釘、素材などが認めら



第2図 H1号住居址出土遺物(1)



第3回 H1号住居址出土遺物 (2)

れる。

以上のような出土遺物の様相は聖原遺跡の時期区分ー奈良平安時代W期に該当し、9世紀後半の実年代が想定される。

〇日2号住居址一え6グリットで検出された。日9、H21号住居址を切り、N-0°-Wに長軸方位をとる。長軸長-3.28m、短軸長-2.88m、壁残高-32cm、平面積-12.1㎡の規模を有する。主柱穴は有さない。カマドは北壁の中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されている。

出土遺物には、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄器が出土している。土師器には坏、碗、甕、羽釜が認められる。坏はC2、C3、碗はA2・A5・A8が存在し、碗の高台は足高である。甕はロクロ甕であり、羽釜19は叩目が認められる。須恵器には坏、甕が認められる。坏はCで内外に炭素の吸着?が認められる。灰釉陶器は碗、皿が認められるが、口縁部片である。緑釉陶器も破片であるが、2点共に碗であり、東濃産であろう。

以上の土器様相は聖原遺跡の時期区分ー奈良平安時代四期に該当し、10世紀前半の実年代が想定される。

○H3号住居址ーい5グリットで検出された。H16号住居址を切る。壁残高-36cm以外の規模等は不明である。主柱も判然とはしないが、P2からは柱痕が確認された。また、堀方から2基のPitが検出されている。

出土遺物としては土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄素材がある。土師器には、坏、碗、甕が認められる。坏にはA1、A3、B2、C1、C3形態が存在するが、主体はC3である。碗にはA2、A8が存在する。甕はロクロ甕Bである。坏、碗には墨書が認められるものが、7点存在し、「任」、「有」は判読できるが、他のものは全体が不明である。須恵器坏は存在せず、甕、壷の破片が出土しているにすぎない。灰釉陶器はすべて碗であるが、破片である。

以上の土器様相は聖原遺跡の時期区分ー奈良平安時代四期に該当し、10世紀前半の実年代が想定される。

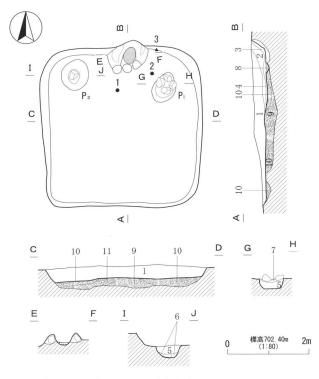
〇日4号住居址ーき7グリットで検出された。日8、H22、H23号住居址を切る。N-85°ーEに長軸方位をとる。長軸長-3.24m、短軸長-2.8m、壁残高-32cm、平面積-11.5㎡の規模を有する。カマドは、北壁の中央やや西寄に石芯を粘土で被覆して構築されている。主柱穴は認められない。堀方より4基の土坑、Pitが検出された。

出土遺物には、土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、白磁、石器が認められる。この内の、弥生土器、白磁、石器(打製石鏃)は混入品であり、本址に伴うものではない。なお、白磁は14世紀の雷文が施された皿片である。

土師器には坏A1、B1、C1、I1、碗A1、甕A2、武蔵甕C、壷が存在するが、坏I1、甕A2、壷は本址には伴わない。 須恵器には坏C、甕が存在する。灰釉陶器は口縁部片である。

以上のような土器様相は、聖原遺跡の時期区分一奈良平安時代VI期に該当するし、実年代は9世紀後半が想定される。

〇H5号住居址ーさ8グリットせ検出された。H27、H37号住居址を切り、D1、D4号土坑に切られる。N-8°



- にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6ローム粒子含、炭化物小含。
- 2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 灰·焼土含。
- 3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 灰・焼土・炭化物含。
- 4. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) 炭化物含。
- 5. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR6/6ローム小含。
- 6. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR6/6ローム多含。
- 7. 黄褐色土層 (10YR5/6)
- 8. 10YR5/3・10YR8/4ロームの混在土層。
- 9: にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR6/6ローム多含、パミス小含。
- 10 10YR5/3・10YR3/2の混在土層。 10YR7/3ローム含。
- 14: にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) ローム主体。
- 焼土 灰·炭化物多含。 黄褐色粘土 (10YR5/6)

第4図 H2号住居址

ーEに長軸方位をとる。長軸長-3.12m、短軸長-2.92m、壁残高-44cm、平面積-11.2mの規模を有する。カマドは存在しないが、D4号土坑により破壊された部分に存在した可能性はある。主柱穴は有さない。

出土遺物には、土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、石器、鉄器が認められる。弥生土器、土師器甕、甑、壷、須恵器は混入品であろう。本址に伴う遺物としては、土師器坏D1、碗A1、A5、鉢。灰釉陶器碗、敲石、鉄素材などが存在する。土師器坏には4点に墨書が認められるが、判読はできない。

以上のような土器様相は聖原遺跡の時期区 分一奈良平安時代W期に該当し、10世紀前半 の実年代が想定される。

○H6号住居址一う8グリットで検出された。F1号掘立柱建物址に切られ、H25号住居址を切っている。調査区外にのびるため、壁残高一20cm以外の規模等は不明である。カマドは東南隅近くの東壁に石芯を粘土で被覆して構築されていた。床面状に複数の柱穴が確認されたが、主柱は判然としないが、P1、P3がその可能性が高い。

出土遺物には土師器、灰釉陶器、石器が認められるが、石器(打製石鏃)は混入品である。土師器には、坏D1、碗A1、A2、A6、A7、ロクロ甕、武蔵甕D?、円筒型土器?が存在する。灰釉陶器には碗、皿、壷が認められる。大原2号窯式期のものであろう。また、15は転用硯の可能性が高い。

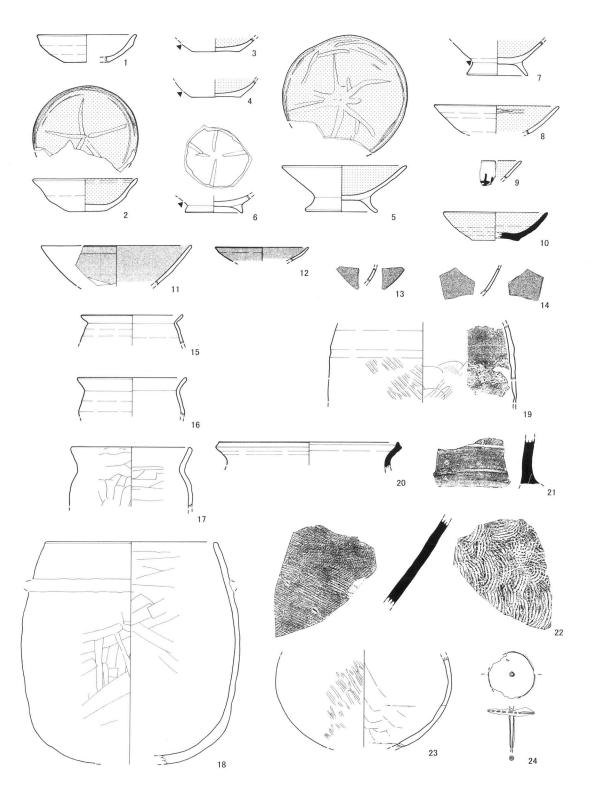
以上のような土器様相は聖原遺跡の時期区分一奈良平安時代W期に該当し、10世紀前半の実年代が想定される。

〇日7号住居址ーけ5グリットで検出された。H32号住居址に切られ、H35号住居址を切る。壁残高8 cm以外の規模等は不明である。カマドは北壁の中央西寄りに構築されているが、構築材は残存していなかった。主柱も判然としない。カマド東脇から、東壁には周溝が巡らされている。

出土遺物も少なく、土師器が6点出土しているにすぎない。坏A3、C1、C2、碗A1、武蔵甕B?、ロクロ甕Bなどである。きわめて少量の出土遺物から、本址の時期を判断するのは危険ではあるが、土器様相からは、聖原遺跡の時期区分一奈良平安時代W期に該当し、10世紀前半の実年代が想定される。

〇H8号住居址ーき6グリットで検出された。H14、22号住居址、D25号土坑を切り、H4号住居址、D20号土坑に切られる。N-4°-Wに長軸方位をとる。長軸長-5.0m、短軸長-4.84m、壁残高-24cm、平面積-27.2㎡の規模を有する。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構築されていた。P1~P4の4基が本址の主柱穴であり、4本が、方形に均等配置されている。P4から検出された柱痕は ϕ 12cmであった。

出土遺物には土師器、縄文土器、弥生土器、石器が認められるが、土師器1、2、9、縄文土器(楕円押型文土器)、弥生土器、18の磨製石鏃は混入品である。本址に伴う遺物としては、土師器高坏、鉢、甑などが存在する。



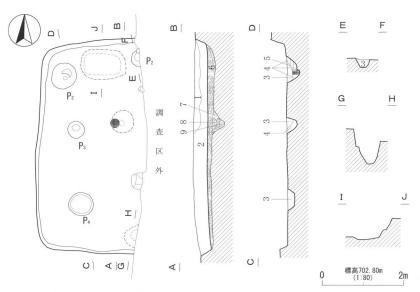
第5図 H2号住居址出土遺物

以上のような土器様相は聖原遺跡の時期区分-古墳時代Ⅲ期に該当し、6世紀中葉~7世紀初頭の実年代が想定される。

○H9号住居址-え5グリットで検出された。

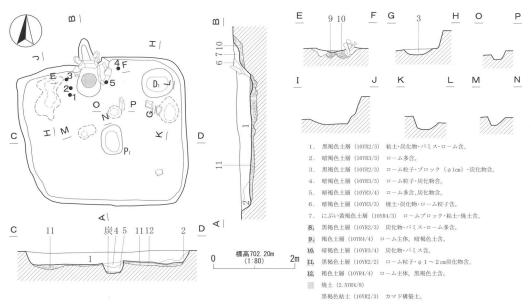
H1、2、18、20号住居 址、D 4号土坑に切られ、H 26 号住居址を切って構築さ れている。N-13°-Wに長 軸方位をとり、長軸長一 5.52m、短軸長-5.36m、壁 残高-32 cm、平面積-33.7 mの規模を有する。カマド は北壁中央に石芯を粘土で 被覆して構築され、主柱は 4本が方形に均等配置され ていた。主柱の規模はφ16 ~ 24 cmであり、西壁を除き、 壁下には周溝が巡れされて いた。また、北東隅のP5周 辺の床面は平面方形に周囲 より低くなっており、P5は 所謂「貯蔵穴」と思われる。

出土遺物には、土師器、 須恵器、灰釉陶器、緑釉陶 器、青磁、石器、鉄器、古 銭が認められる。14 の土師

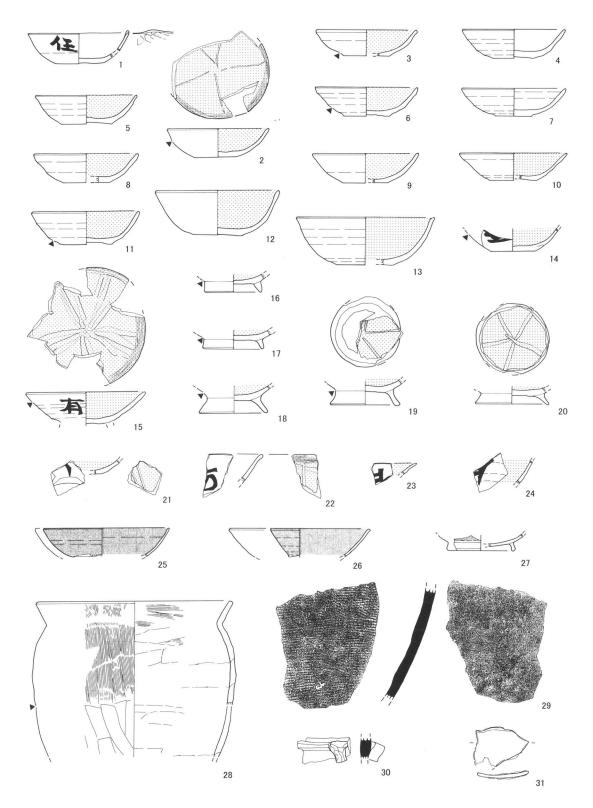


- 1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 炭化物多含。
- 2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR6/6ローム・炭化物少含。
- 3. 里褐色+屬 (10VR3/2) 10VR6/6ローム含。
- 4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR6/6ローム少含。
- 5. 明黄褐色土層 (10YR6/6) ローム主体。10YR3/2少含。
- 6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR6/6ローム・パミス少含。
- 7. にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) 10YR7/3ローム・パミス含。
- 8、10YR4/3・10YR8/4ロームの混在土層。 パミス含。
- 9 浅黄橙色土層 (10YR8/4) ローム主体。パミス含。

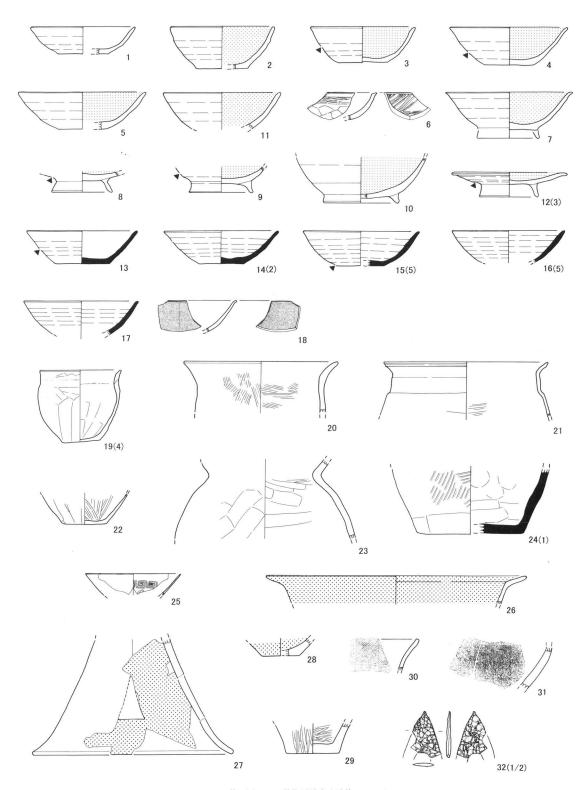
第6図 H3号住居址



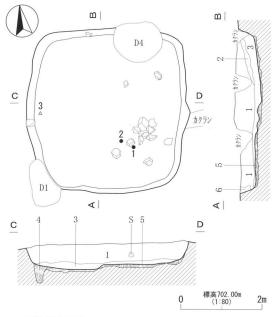
第7図 H4号住居址



第8図 H3号住居址出土遺物



第9回 H4号住居址出土遺物



- 1. 暗褐色土層 (10YR3/3)。
- 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 10YR5/3プロック多含。
- 3. 暗褐色土層 (10YR3/3) 10YR5/3プロック・ø1~2 cmパミス少含。
- 4. 黒褐色土層 (10YR2/3)。
- 集: 暗褐色土層 (10YR3/4) 10YR6/4プロック多含。
- 6. 明黄褐色土層 (10YR6/6)。

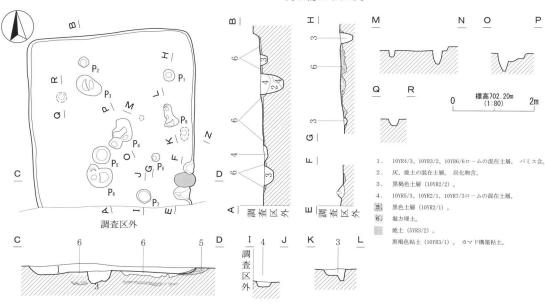
第10図 H5号住居址

器坏、27の土師器ロクロ甕、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁、 鉄器(特に鉄族は、聖原遺跡の分析では平安時代の形態 的特徴を備えている。)、古銭(貞観永寶は佐久地方にお いて今回の出土例が初例となる、皇朝十二銭である。) は混入品である。本址に伴う遺物としては、土師器坏 E、G1、G2、H、K、甕 A1、B1、壷、甑 A1、須恵器坏、 坏蓋 D、凹石、軽石製品、編物石が存在する。

以上のような土器様相は聖原遺跡の時期区分一古墳時代I期に該当し、5世紀後半~6世紀初頭の実年代が想定される。

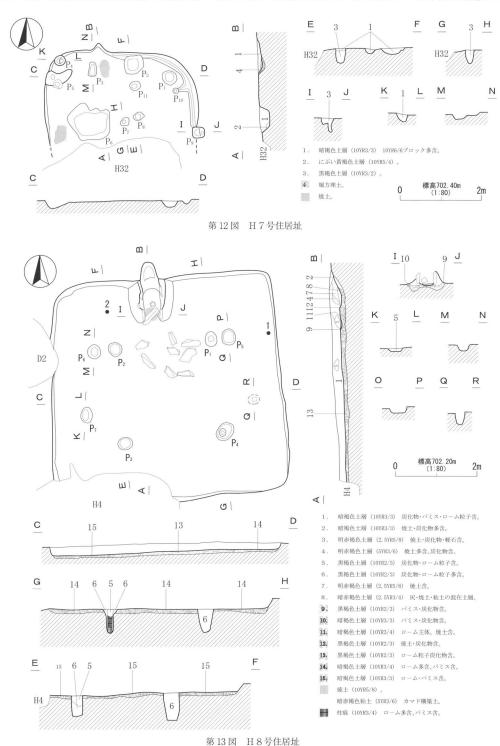
〇H10号住居址-こ6グリットで検出された。H35号住居址、F4号掘立柱建物址、D5号土坑を切る。N-1°-Wに長軸方位をとる。長軸長-4.16m、短軸長-3.32m、壁残高-44cm、平面積-17.6㎡の規模を有する。カマドは、東南隅に石や須恵器片の芯を粘土で被覆し、天井部のかけ穴付近に、須恵器片を張って構築されていた。東南隅を起点とした周溝が、壁よりも1m内外小回りに巡らされており、周溝の外側はベット状の高まりを成している。P1、P3、P4と、堀方から検出された1基のPit の計4基が主柱穴と思われる。柱そのもは確認できなかった。

出土遺物には土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、石器、鉄器が出土している。弥生土器は混入品、須恵器はカマド構築材として使用されたものである。土師器には、坏 C2、D1、碗 A8、A9、甕 B1 が認められ、灰釉陶器には碗、皿、長頸瓶、石器は砥石、鉄器は紡錘車、釘が認められる。



第11図 H6号住居址

以上のような土器様相は聖原遺跡の時期区分-奈良平安時代価期に該当し、10世紀後半の実年代が想定される。

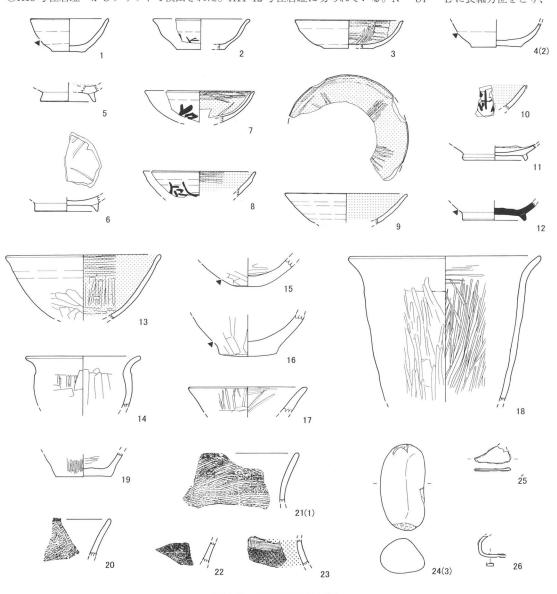


〇H11・12 号住居址ーき5グリットで検出された。平面プラン等から2軒の住居址の重複と捉えたため、このような遺構名になっているが、遺構の残存状態が悪く、重複の有無は確認できなかった。D9号土坑に切られ、H13 号住居址を切っている。壁残高8cm以外の規模等は不明である。カマドは東壁の中央?に石芯を粘土で被覆して構築されていた。柱穴は存在しない。

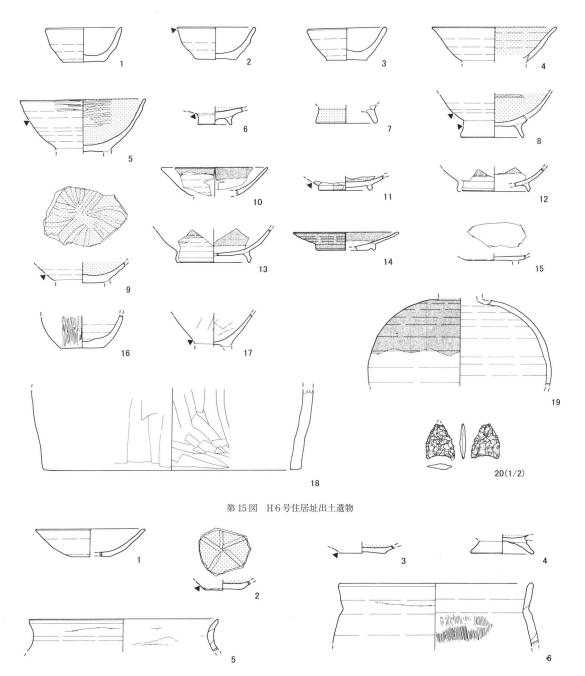
出土遺物としては、土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、縄文土器、銅製品が存在する。この内、27の土師器甕、須恵器、弥生土器、縄文土器(後期-堀之内)は混入品である。本址に伴うものでは土師器坏 B1、C2、C3、D1、碗 A1、A2、A9、皿 B、ロクロ甕 A、B、羽釜 A、灰釉陶器碗、皿、銅金具が認められる。

以上のような土器様相は聖原遺跡の時期区分一奈良平安時代\|期に該当し、10世紀前半の実年代が想定されている。

〇H13 号住居址ーか5 グリットで検出された。H11·12 号住居址に切られている。 $N-84^{\circ}-E$ に長軸方位をとり、



第14図 H5号住居址出土遺物



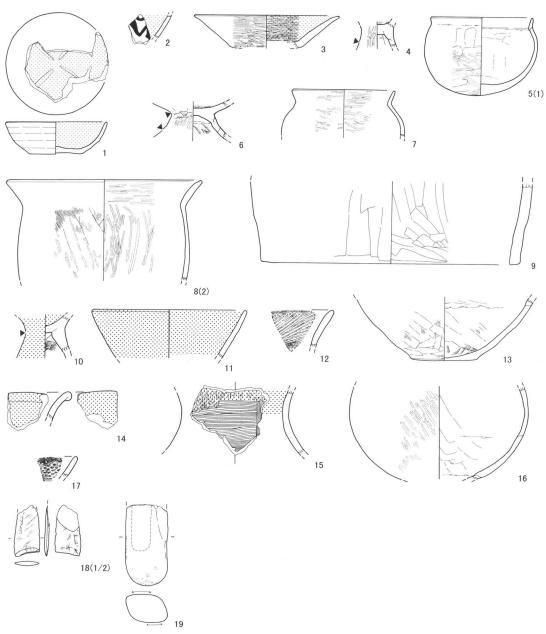
第16図 H7号住居址出土遺物

長軸長 $-3.96\,\mathrm{m}$ 、短軸長 $-3.68\,\mathrm{m}$ 、壁残高 $-16\,\mathrm{cm}$ の規模を有する。カマドは東壁の中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されていた。主柱は判然としない。

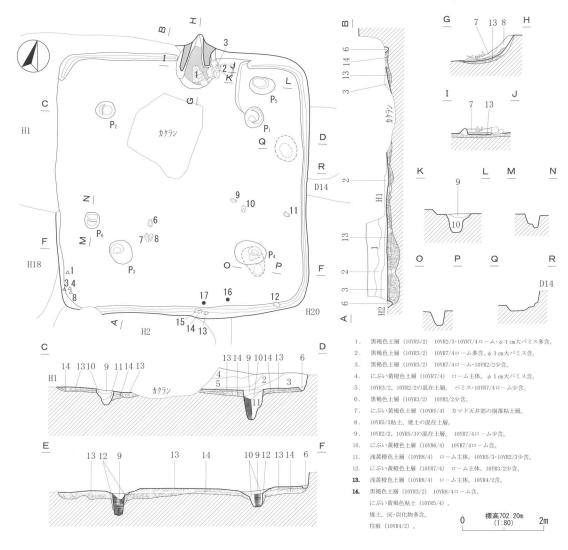
出土遺物としては、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、弥生土器が存在する。7の土師器高坏?、弥生土器は混入品である。土師器には、坏 A1、C3、D1、碗 A3、A5、ロクロ甕 B、B2、須恵器甕 B、灰釉陶器碗、緑釉陶器片(東濃産の碗か皿の高台片) 認められる。

以上のような土器様相は、聖原遺跡の時期区分ー奈良平安時代W期に該当し、10 世紀前半の実年代が想定されている。

〇H14 号住居址ーく 5 グリットで検出された。H18 号住居址、D 3、20 号土坑に切られ、H22 号住居址を切る。N - 20° - W に長軸方位をとる。長軸長 - 3.56m、短軸長 - 3.28m、壁残高 - 28 cm、平面積 - 14.3 ㎡の規模を有する。カマドは北壁の中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されている。主柱は南壁下を基準に、4 本が均等に配置される。柱は ϕ 16 cmの規模であった。カマド部分を除く壁下には周溝が巡らされている。



第17図 H8号住居址出土遺物



第18図 H9号住居址

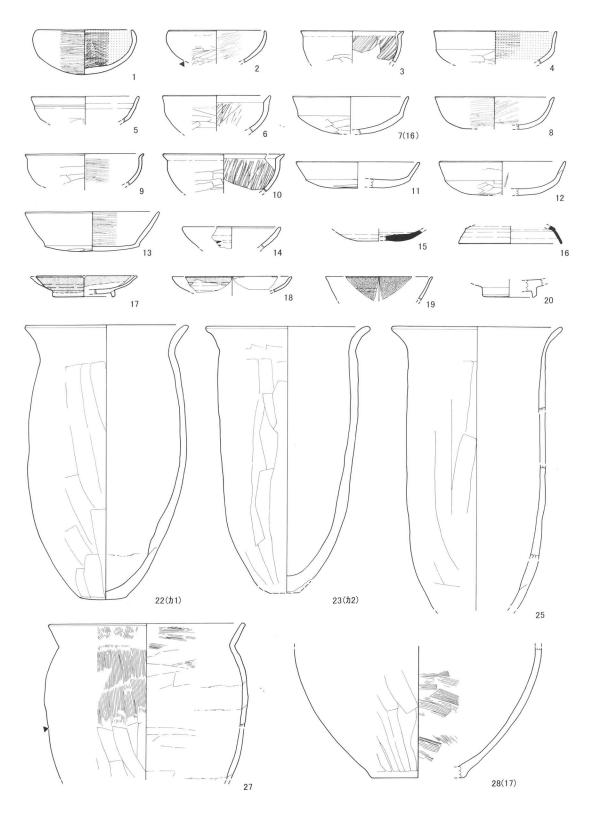
出土遺物としては、土師器、土製品、石器・石製品、鉄製品、弥生土器が出土している。弥生土器が混入品の他は、すべて本址に伴う遺物と思われる。土師器には坏 E、G1、H、鉢、甕 A1、C、が存在する。土製品は丸玉が2点、石製品としては、臼玉、紡錘車、石器は敲石、鉄器は刀子等が認められる。

以上のような土器様相は、聖原遺跡の時期区分ー古墳時代Ⅲ期が該当し、6世紀中葉~7世紀初頭の実年代が想定されている。

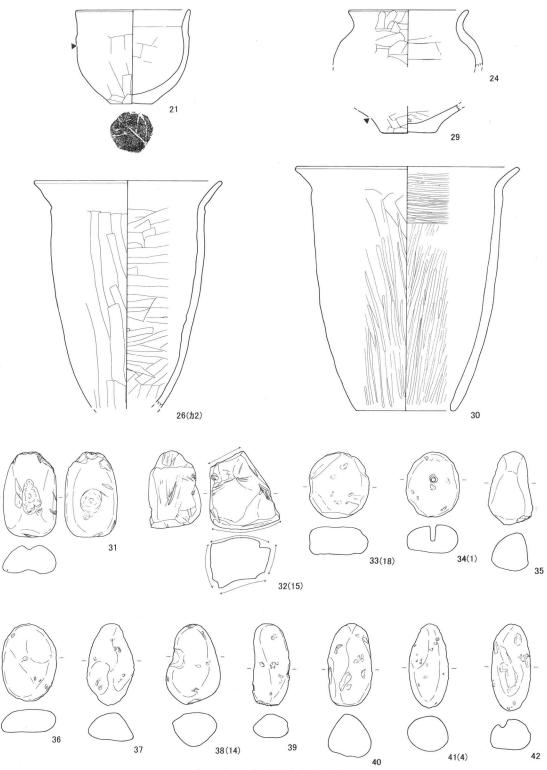
○H15 号住居址-き8グリットで検出された。H23 号住居址を切り、D7号土坑に切られる。壁残高 20 cmの他は規模等は不明である。カマドは北壁の中央やや西寄りに存在するが、煙道の堀方が残っている以外キレイに破壊されている。主柱、周溝も有さない。

出土遺物としては、土師器と弥生土器が認められる。圧倒的に量が多い弥生土器が混入品で、1点のみ出土した土師器 (本) が本址に伴うものと思われる。

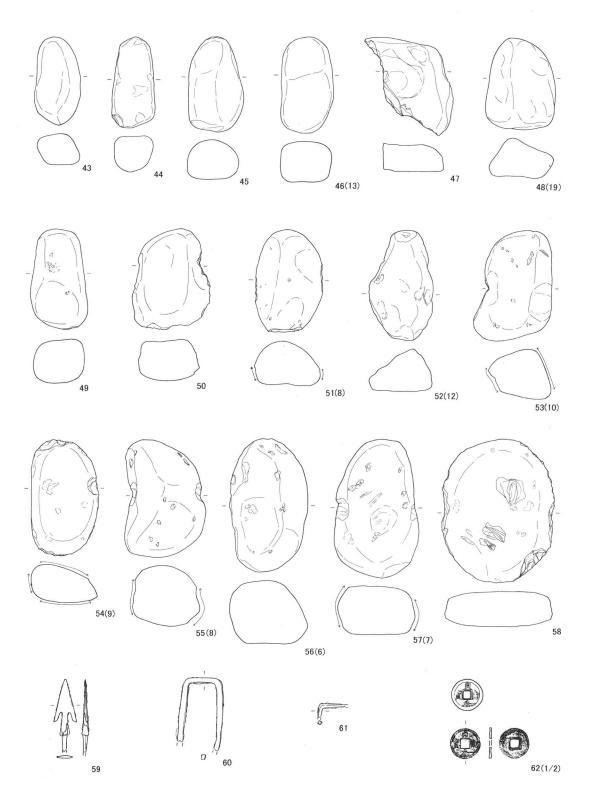
時期については、平安時代という、大きな枠組みの中で捉えておきたい。



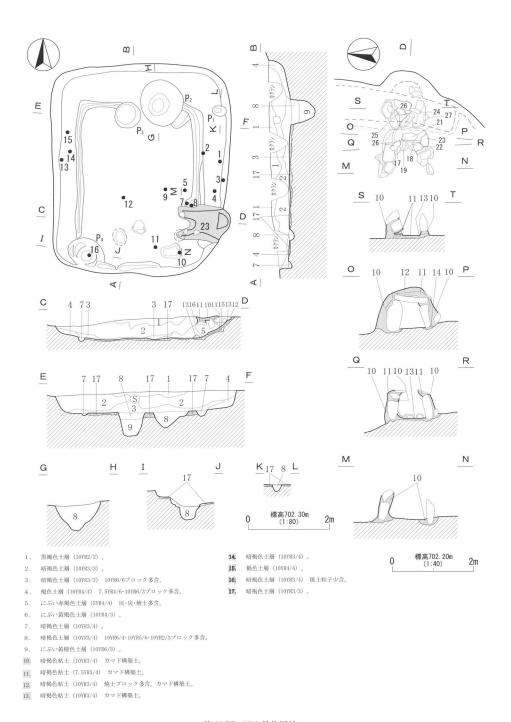
第19回 H9号住居址出土遺物(1)



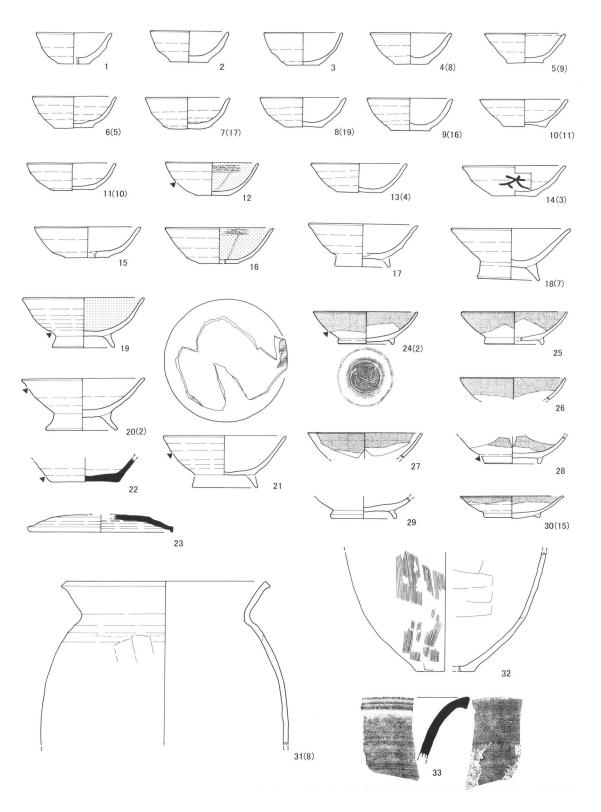
第21図 H9号住居址出土遺物(2)



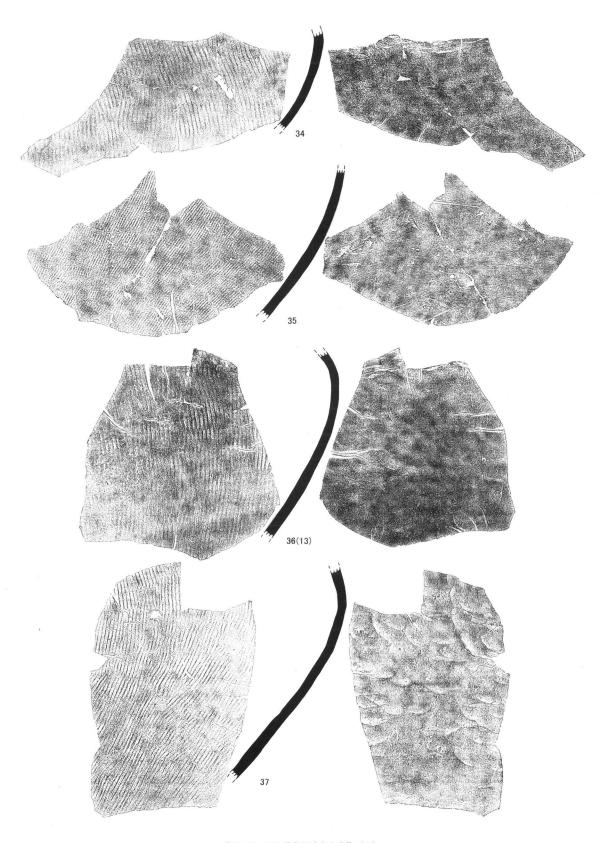
第20図 H9号住居址出土遺物 (3)



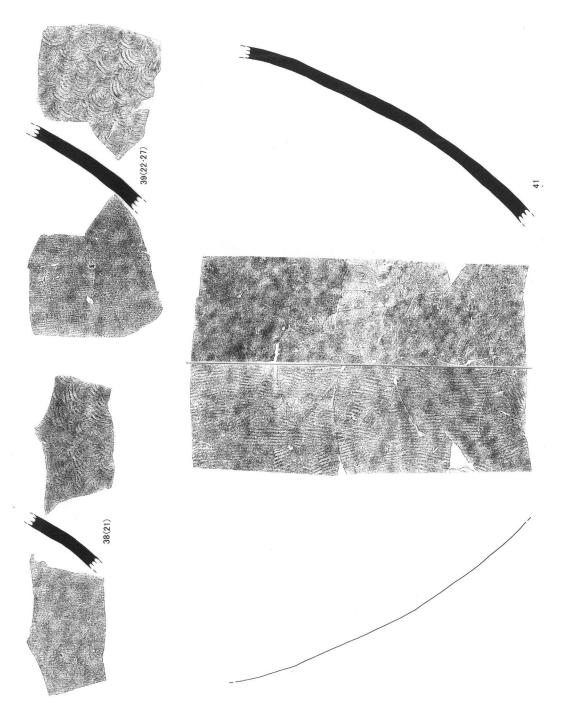
第 22 図 H10 号住居址



第23回 H10号住居址出土遺物(1)



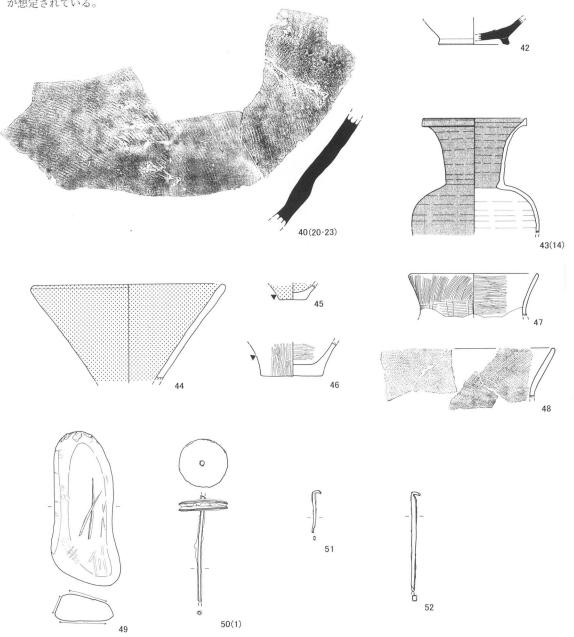
第24図 H10号住居址出土遺物(2)



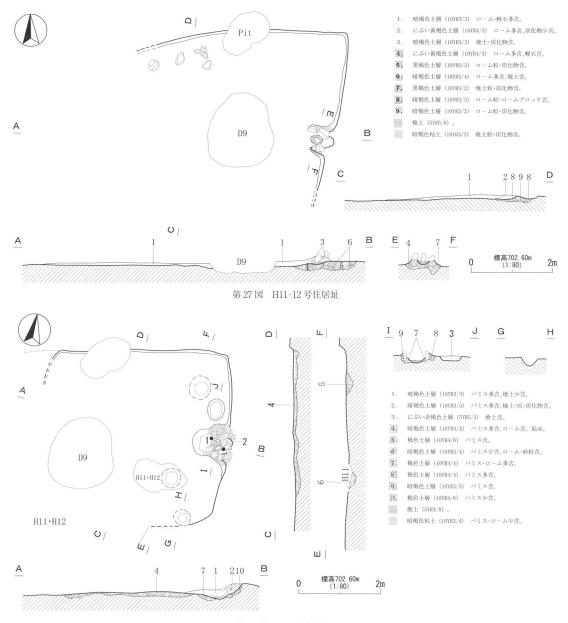
第25図 H10号住居址出土遺物(3)

〇H16 号住居址ーう5グリットで検出された。H3、H20 号住居址に切られる。壁残高 32 cmの他は、規模等は不明である。カマドは調査範囲には存在しなかった。P1~P4の4基のPit が主柱穴と思われ、 ϕ 16 cmの柱が確認された。南西隅の床面には山状に編物石が集中していた。出土遺物の大半は上記の編物石である。無加工のものも多いが、打ち欠きにより、抉りを作り出しているものも認められる。その他に、土師器坏、高坏、甕、壷、須恵器坏 D、瓶、磨石、敲石などが認められるが、1~3の土師器坏は混入品である。

以上のような土器様相から本址は聖原遺跡の時期区分一古墳時代Ⅲ期に該当し、6世紀中葉~7世紀初頭の実年代が想定されている。



第26図 H10号住居址出土遺物(4)

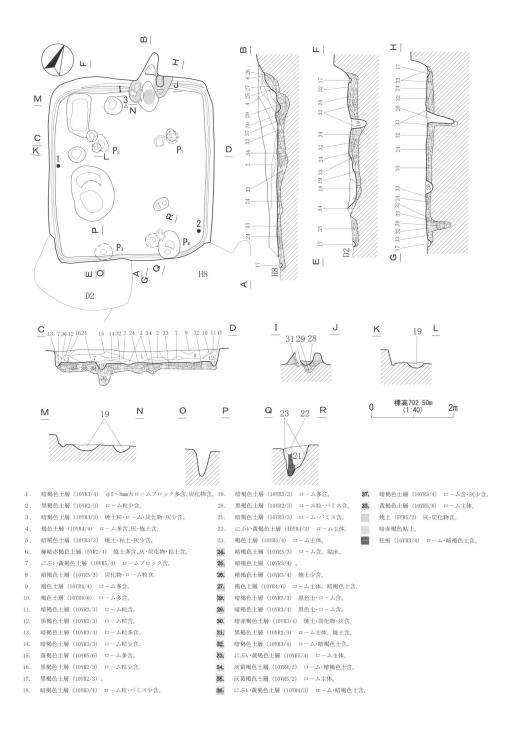


第 28 図 H13 号住居址

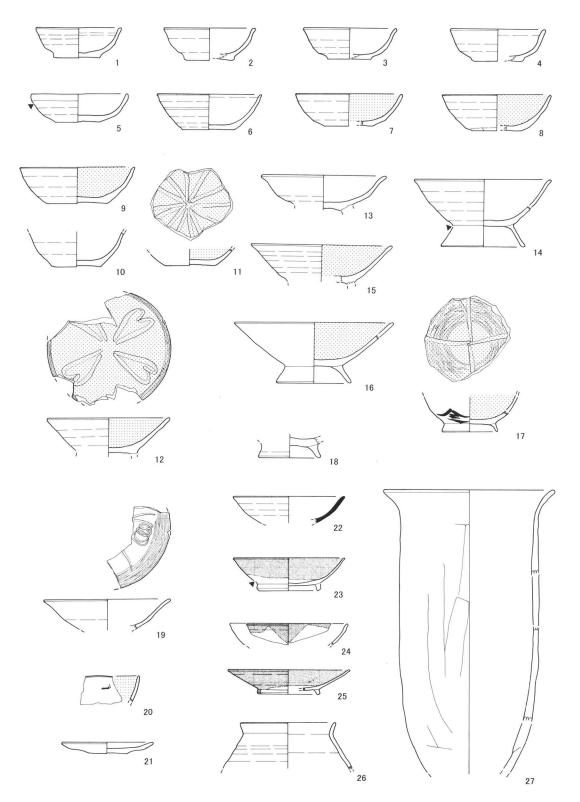
〇H18 号住居址ーお6グリットで検出された。H1号住居址、D21 号土坑に切られ、H9、21 号住居址を切る。N-8°-E に長軸方位をとる。長軸長ー 4.56m、短軸長ー 3.0m、壁残高ー 20 cm、平面積ー 16.4 ㎡の規模を有する。カマドは東壁の東南隅寄りに石芯を粘土で被覆して構築されていた。主柱穴は4本が4隅に均等に配置されていたが、柱そのものは確認できなかった。周溝は有さない。

出土遺物には、土師器、灰釉陶器、石器、鉄器が認められる。土師器には坏 D1、碗 A9、ロクロ甕、壷、羽釜、円筒型土器が存在し、灰釉陶器には碗、皿、小瓶が、石器には敲石、鉄器には鋤が存在する。

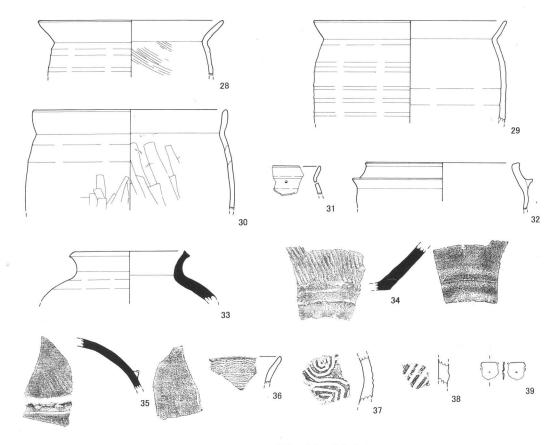
以上の土器様相は、聖原遺跡の時期区分一奈良平安時代Ⅷ期に該当し、10世紀後半の実年代が想定される。



第 29 図 H14 号住居址



第30図 H11·12号住居址出土遺物 (1)



第 31 図 H11·12 号住居址出土遺物 (2)

〇H19号住居址ーう 7 グリットで検出された。H20号住居址を切って構築されている。N - 78° - E に長軸方位をとり、長軸長 - 2.6m、短軸長 - 2.28m、壁残高 - 60 cm、平面積 - 7.3 mの規模を有する。カマド、柱穴、周溝等は一切存在せず、平面形も隅丸台形を呈しており、住居址とは異なる性格の遺構である可能性も強い。

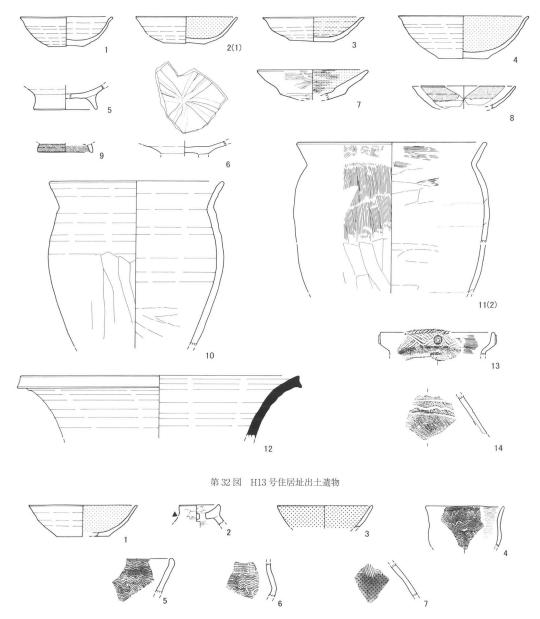
出土遺物としては、土師器、須恵器、灰釉陶器、石器が認められる。土師器には坏 C1、C2、D1、碗 A1、A7、A9、皿 A1、高坏、ロクロ甕 B、甕が存在するが、高坏(10)、甕(20)は混入品である。また、皿 A1には、「子室」、坏片 9には「中」?の墨書が認められる。須恵器には坏 C と坏片が存在し、坏片には「尺」?の墨書が認められる。灰釉陶器には碗、皿が存在する。石器は敲石が存在する。

以上のような土器様相は聖原遺跡の時期区分-奈良平安時代Ⅲ期に該当し、10世紀前半の実年代が想定される。

〇H20 号住居址ーう6グリットで検出された。H9、16号住居址を切り、H19号住居址に切られる。N -8° - W に長軸方位をとり、長軸長 5.16m、短軸長 -2.92m、壁残高 -8 cmの規模を有する。カマドは北壁の中央やや北寄りに石芯を粘土で被覆して構築されていた。主柱穴は4基が方形に均等配置されていた。周溝は有さない。

出土遺物には、土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、石器、鉄器が認められる。土師器には坏 C2、碗 A9、甕 B1、B2、ロクロ甕 A、B が存在する。須恵器には甕が、灰釉陶器には碗、弥生土器には甕、土器片円盤、石器には磨・敲石、鉄器には鏃が存在する。この内弥生土器は混入品である。

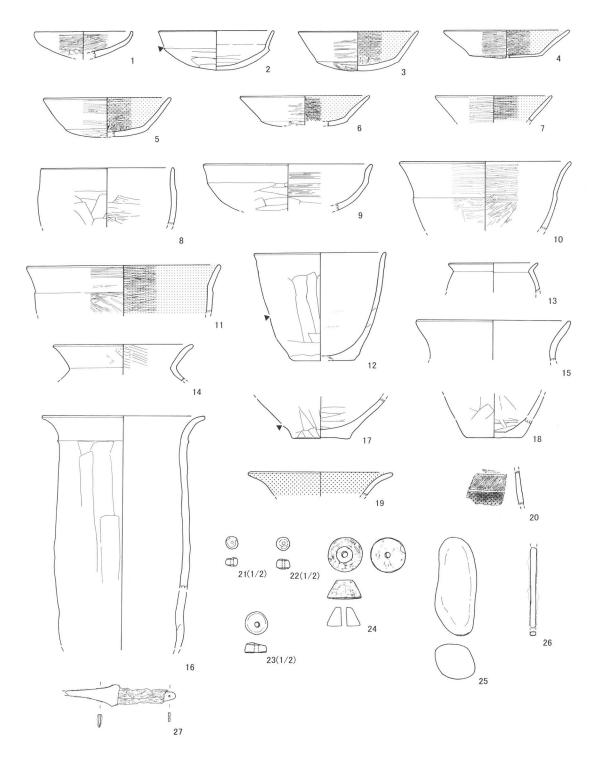
以上のような土器様相は聖原遺跡の時期区分ー奈良平安時代Ⅷ期に該当し、10 世紀前半の実年代が想定される。これは、土器だけでなく鉄鏃の形態からも矛盾がない。本址と H19 号住居址については時期的な差異はほとんど認められらず、積極的に同一の遺構として捉える考え方も必要かもしれない。そのように捉えるならば、H19 号住居址の特徴的形態についても理解が可能となる。



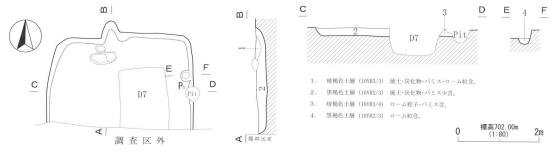
第 33 図 H15 号住居址出土遺物

〇H21 号住居址ーお7グリットで検出された。H2、9、18 号住居址、F2号掘立柱建物址に切られ、H25 号住居址を切る。N-10°-Eに長軸方位をとり、長軸長-8.36m、短軸長-5.12m、壁残高-28 cm、平面積-42.7 ㎡の規模を有する。調査範囲内には炉址は存在しなかった。P1~P4の4本の主柱は方形に均等配置されている。柱そのものは確認できなかった。P5、P6の2基のPitは出入口施設と思われる。棟持柱、周溝は有さない。

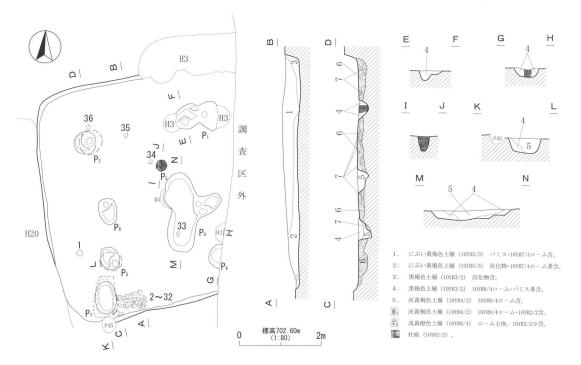
出土遺物には、弥生土器と鉄器が存在する。鉄器(刀子)は混入品であろう。弥生土器には鉢、高坏、甕、壷の器種が認められる。高坏口縁部が水平に開くこと、壷の体部下半の屈曲、口縁部文様帯を有するものの存在、頸部文様帯に横擋簾状文以外に波状文や、格子目文が施されること、甕の波状文があまり重複しないことから、本址の時期は弥生時代後期「箱清水式」の古い段階と思われる。



第 34 図 H14 号住居址出土遺物



第 35 図 H15 号住居址

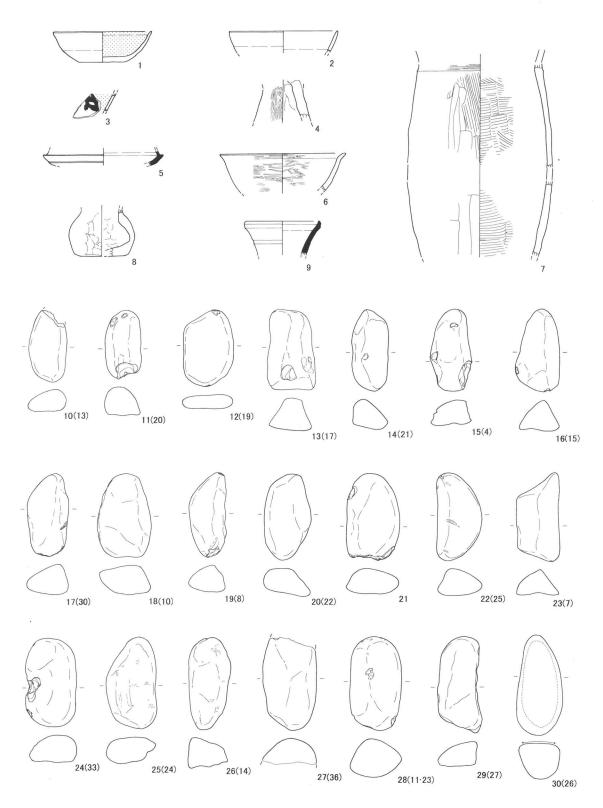


第 36 図 H16 号住居址

〇H22 号住居址一き 6 グリットで検出された。H4、8、14 号住居址に切られる。N -2° - W に長軸方位をとる。長軸長-6.16m、短軸長-4.2m、壁残高-32cm、平面積-28.8 mの規模を有する。炉址は地焼炉で、方形に均等配置された主柱穴 P1 \sim P4 の 4 基の内の P1、P2 の中間に構築されていた。平面形は不整な楕円形で長軸は南北である。南辺には炉石が 1 ヶ据えられていた。主柱そのものは、板ないし半割丸太ような形状が少なくとも柱痕部分からは観察される。 18×8 cmほどの規模である。北壁下中央付近で堀方から検出された Pit の存在から憶測すると、棟持柱を有していた可能性が強い。周溝は有さない。

出土遺物としては、弥生土器だけが認められる。すべてが本址に伴うものであろう。器種としては、鉢、高坏、甕、 壷が存在する。時期的には弥生時代後期の所産である。

〇H23 号住居址ーき8グリットで検出された。H4、5号住居址、F2号掘立柱建物址に切られ、H24号住居址を切る。壁残高ー 48 cm以外は規模等は不明である。主柱穴は1基が調査区外に存在するため、未確認であるが、P1~ P3の3基が該当するものと思われる。炉址は P1と P2の中間に構築されており、不整な楕円形を呈する地焼炉である。

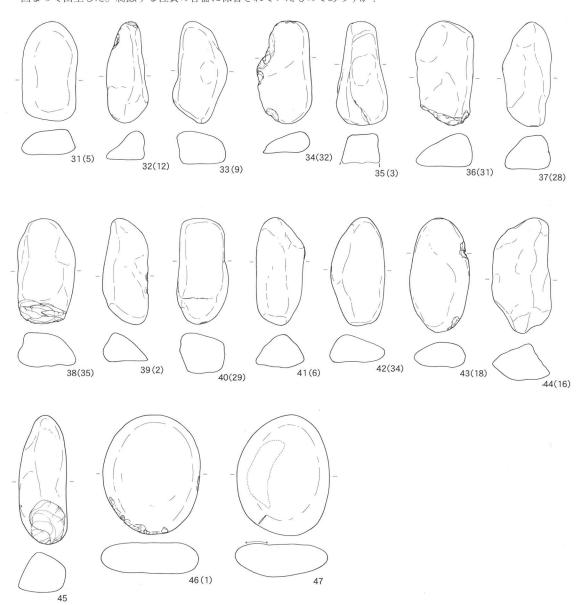


第 37 図 H16 号住居址出土遺物 (1)

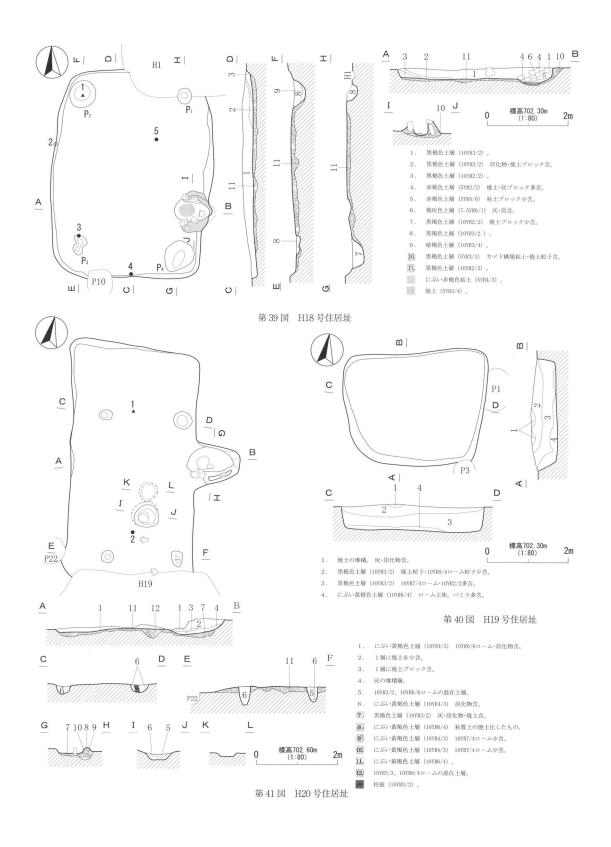
柱そのものは φ12 cmの規模であった。棟持柱、周溝は有さない。

出土遺物は弥生土器である。器種的には鉢、高坏、蓋、台付甕、壷が認められる。台付甕を除くすべてが赤彩されている。壷体部下半の屈曲などから、本址の時期は弥生時代後期「箱清水式」期であろう。

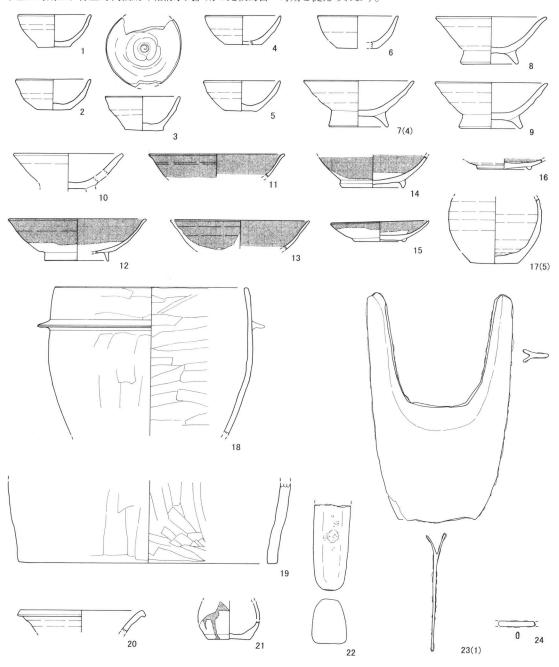
〇H24 号住居址一か8グリットで検出された。H23 号住居址、F2号掘立柱建物址に切られる。壁残高 32 cmの他は 規模等は不明である。主柱は F2 号掘立柱建物址による破壊や、本址が調査区外にのびる等の理由から、P1 以外に は検出されていない。主柱の規模は ϕ 18 cmであった。炉址は P1 東の南北中心線上に存在し、南辺に 1 ϕ 0炉石を持つ土器敷炉である。棟持柱は有さず、周溝は北西隅部分にのみ認められた。また、北東隅の壁下床面には赤色顔料が 固まって出土した。腐蝕する性質の容器に保管されていたものであろうか?



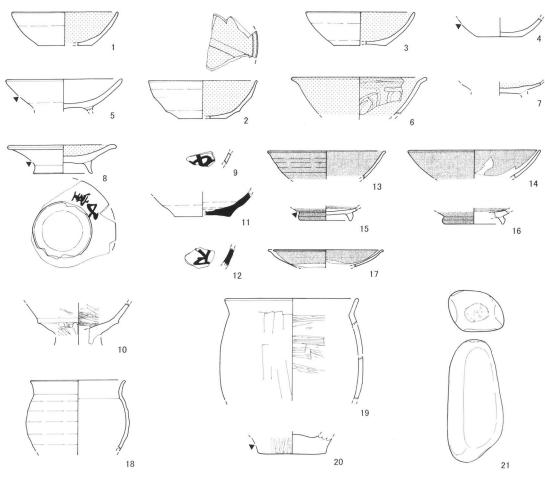
第38図 H16号住居址出土遺物(2)



出土遺物としては、弥生土器、縄文土器、石器が認められる。縄文土器は混入品であるが、それ以外の遺物は本址に伴うものである。弥生土器の器種としては鉢、台付鉢、高坏、甕、壷が存在する。石器には石包丁と敲石が存在する。出土状況が特異なものとして、2の台付鉢の中に24の石包丁が内包されていた。高坏の口縁部が水平に開く形態であることや、脚が長脚であること、壷の体部下半の屈曲、頸部文様帯の綾杉文や縄文、簾状文と波状文の混在等から、本址の時期は、弥生時代後期「箱清水式」期の比較的古い時期と捉えられよう。



第 42 図 H18 号住居址出土遺物



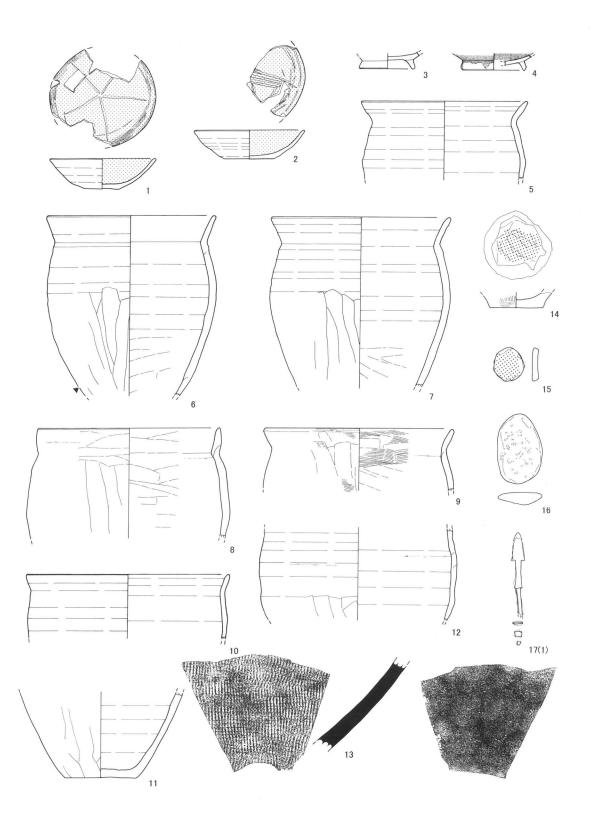
第 43 図 H19 号住居址出土遺物

○H25 号住居址ーお8グリットで検出された。H16、21 号住居址、F1、2号掘立柱建物址に切られる。壁残高 40 cm の他は規模等は不明である。主柱穴は P1、P2 の2基が該当する。調査区外に存在するであろう他の2基と共に、方形に均等配置されているものと思われる。炉址は P1とP2の中間に位置し、不整な円形を呈する土器敷炉である。P7 は棟持柱の可能性を有する。周溝は東壁下にのみ存在する。

出土遺物には、弥生土器、石器、鉄器が認められる。すべてが本址に伴うものであろう。弥生土器には鉢、高坏、甕、 壷の器種が、石器には敲石と磨石、鉄器には鉄鏃?と不明品が存在する。鉄鏃には木質が残存していた。本址の時期 については、壷に赤彩されるものとされないものが存在すること、口縁部文様帯を有するものの存在、頸部文様帯の 綾杉文と体部下半が屈曲するなどの特徴から、弥生時代後期「箱清水式」期の古い段階が想定される。

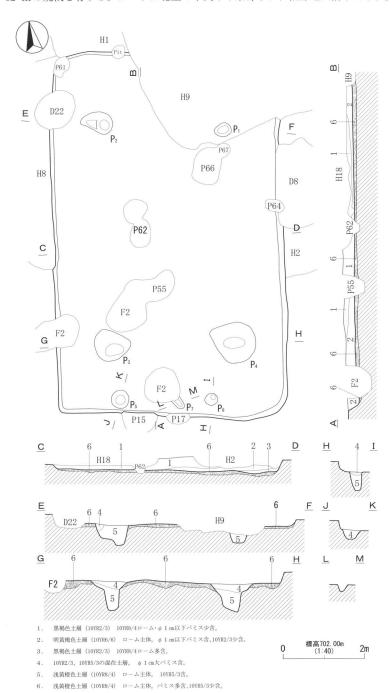
○H26 号住居址ーう5グリットで検出された。H9号住居址、D14 号土坑に切られる。壁残高 20 cmの他は規模等は不明である。Pit は4基検出されたが、性格は判断できない。

出土遺物には土師器、須恵器、石器が認められる。土師器には、坏 A5、C3、鉢?が、須恵器には坏 C、石器には 砥石が存在する。本址の時期については、遺構の重複関係から、5世紀後半~6世紀初頭に位置付けられる、H9号 住居址に先行する時期でなければ矛盾が生じるが、出土遺物の内の1、2、4は明らかに平安時代の土器であり、本 址に伴うものではないこととなる。また、3、5については、H9と同時期か若干新しい時期の可能性も否めない。調査時点で重複関係について誤った判断を行った可能性も含め、現時点では本址の時期については不明としておきたい。



第 44 図 H20 号住居址出土遺物

○H27 号住居址-さ7グリットで検出された。H5、10 号住居址、F4号掘立柱建物址、D1、4号土坑に切られ、H33、37号住居址を切る。N-25°-Wに長軸方位をとり、長軸長-5.2m、短軸長-5.08m、壁残高-48cm、平面積-32㎡の規模を有する。カマドは北壁の中央やや東寄りに、袖部地山削りだし、焚き口部分に石芯を用い、粘土で被



溝の存在から、本社は北東隅から南西隅を結ぶ対角線を基準にして、南西に拡張していることが判明した。掘方から検出したP6~P9の4基の柱穴が旧住居の主柱穴である。なお、カマド東脇のP5は貯蔵穴である。出土遺物には、土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、土製品、石器、鉄器が認められる。土師器碗(9)、須恵器甕(29)、灰釉陶器、弥生土器を除いた遺物は本址に伴うものであろう。土師器には坏 E、

覆して構築されていた。主柱穴は P1~P4の4基であり、方形に均

等配置される。カマド部分を除く 壁下(南壁部分は壁下ではなく、

壁から1m内側)には周溝が巡り、 主柱穴に向かい所謂「間仕切り」

溝がのびている。掘方の調査に

より確認された、西壁の古い周

以上のような土器様相は、聖原 遺跡の時期区分一古墳時代Ⅲ期に 該当し、6世紀中葉~7世紀初頭 の実年代が想定される。

まって出土したものである。

F、H、手捏、鉢、甕 A1、A2、甑 B が、 須恵器には坏蓋 D、土製品は土器

片円盤 (土師器片再利用)、石器

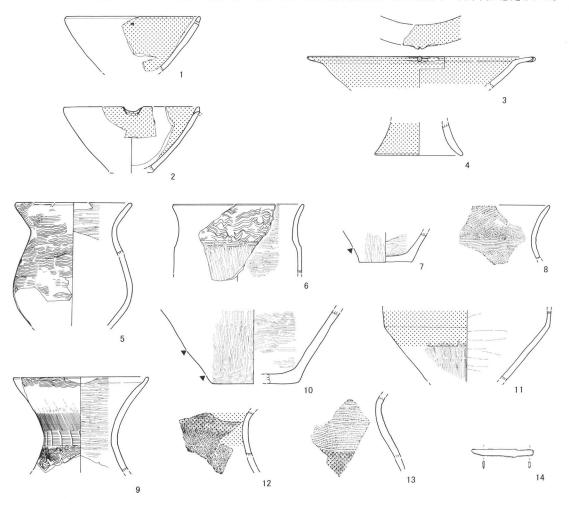
には編物石、砥石、磨・敲石、鉄 器には刀子が存在する。編物石の 多くは P3 の西方の壁下にまと

○H28 号住居址ーけ7グリットで 検出された。F3号掘立柱建物址、 D15 号土坑に切られ、H31、32、 36号住居址を切る。N-4°-W に長軸方位をとり、長軸長-3.96 m、短軸長-3.04m、壁残高-36 cm、平面積-164㎡の規模を 有する。カマドは北壁の中央部分 に石芯を粘土で被覆して構築さ れていたものと思われる。P1~ P4の4基の Pit が主柱穴である。 周溝は有さない。

第 45 図 H21 号住居址

出土遺物としては土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、土製品、石器、鉄器が存在する。25の土師器高坏、弥生土器、50の臼玉以外は本址に伴うものであろう。土師器には坏 A1、A2、B1、C1、C2、C3、D1, 碗 A1、A7、A9、耳皿、ロクロ甕 A、B が、須恵器には坏 C、有台坏、坏蓋、甕 C が、灰釉陶器には碗が、土製品には羽口が、石器には砥石が、鉄器には刀子、鎹が認められる。なお、1の土師器坏には、「本」の焼成後の刻書が認められる。

以上のような土器様相は、聖原遺跡の時期区分ー奈良平安時代Ⅷ期に該当し、10世紀前半の実年代が想定される。

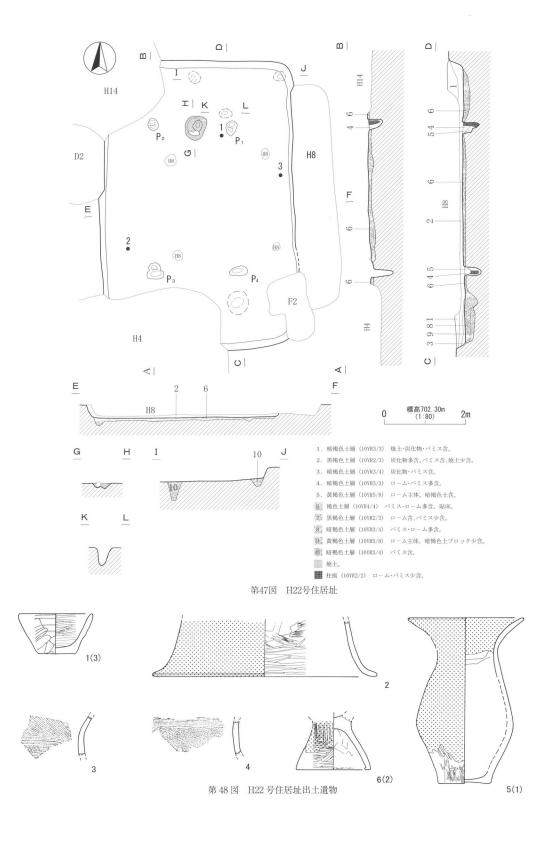


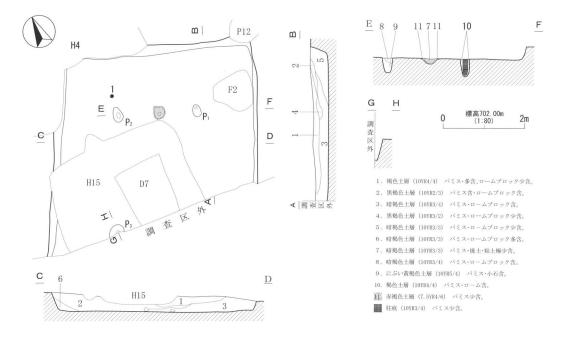
第 46 図 H21 号住居址出土遺物

〇日29 号住居址ーく 4 グリットで検出された。M1 号溝址に切られる。 $N-82^\circ-E$ に長軸方位をとる。長軸長-3.84 m、短軸長-3.44m、壁残高-24 cm、平面積-15.2 mの規模を有する。カマドは西壁の中央部分に構築されており、佐久市の古代住居址のカマド位置としては希有な例である。煙道堀方と火床以外の構築材は一切残されていなかった。主柱穴はカマド両脇の壁に 2 基、床面上に 2 基の計 4 基が方形に均等配置されていた。周溝は有さない。堀方から検出された 4 基の Pit、土坑の性格、時期については不明である。

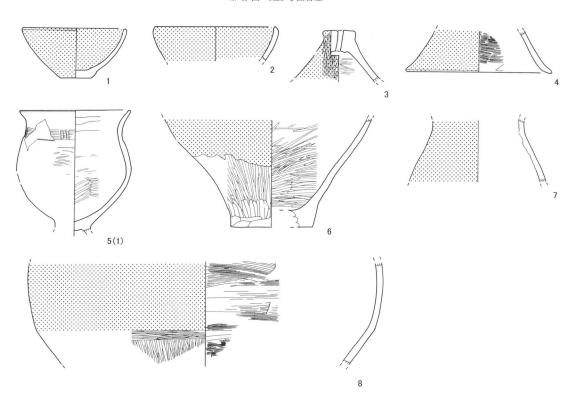
出土遺物には土師器、須恵器、灰釉陶器が認められる。すべてが本址に伴うものであろう。土師器には坏 A1、A3、A5、C1、武蔵甕 C が、須恵器には坏 C、有台坏 B2、甕 B、壷 B が、灰釉陶器には碗、小瓶が存在する。土師器坏? 2 点には墨書が認められるが、判読はできない。

以上のような土器様相は聖原遺跡の時期区分ー奈良平安時代W期に該当し、9世紀後半の実年代が想定される。

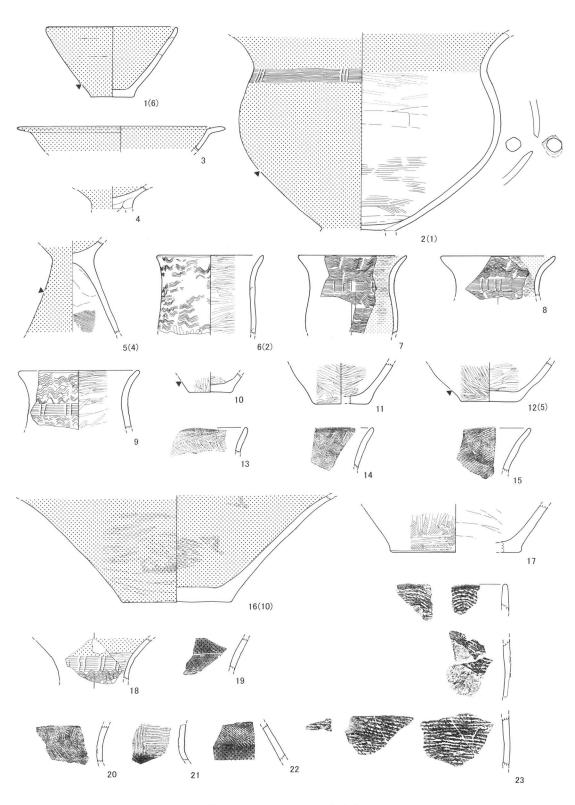




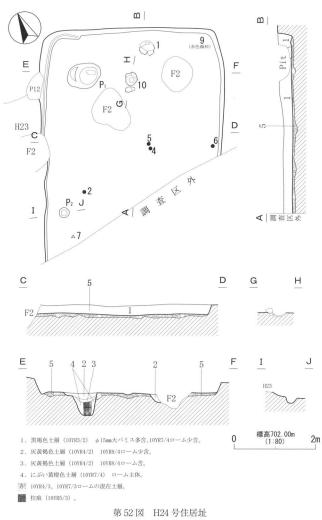
第 49 図 H23 号住居址



第50図 H23号住居址出土遺物



第51図 H24号住居址出土遺物(1)



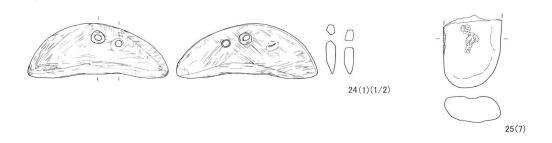
○H30 号住居址ーけ5グリットで検出された。 M1号溝址に切られる。壁残高ー 28 cm以外は 規模等は不明である。P1、P5 が主柱穴、P3、 P4 は出入口施設であろう。炉址、周溝は確認 されなかった。

出土遺物には弥生土器と石器が認められる。 すべて本址に伴うものであろう。弥生土器には 鉢、高坏、台付甕、甕、壷が存在する。石器に は砥石、磨・敲石が存在する。破片資料としては、 頸部に綾杉文が施される壷も存在し、所謂「後 期型の高坏」も存在しないが、本址は「箱清水式」 期の所産であろう。

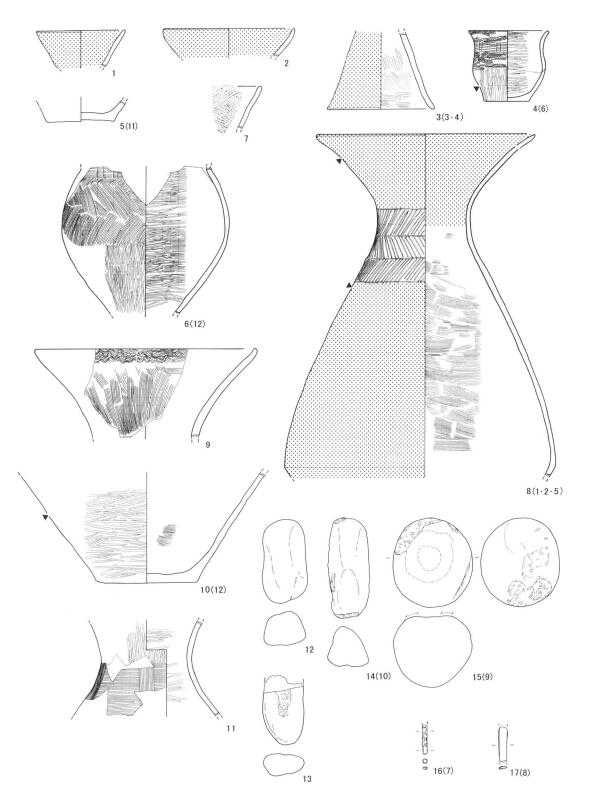
○H31号住居址ーけ7グリットで検出された。 H28号住居址、F3号掘立柱建物址、D2、 6、18号土坑に切られ、H36号住居址を切っている。N-12°-Eに長軸方位をとる。長軸長-6.12m、短軸長-4.08m、壁残高-36cm、平面積-28.1㎡の規模を有する。主柱穴はP1~P4の4 基であり、方形に均等配置されている。柱そのものは確認できなかった。周溝は南西隅から西壁下に存在し、南壁下の端部から北に向かいP3に連結されていたであろう、所謂「間仕切」 溝が存在する。炉址はP1とP2の中間に存在したであろうが、H28号住居址に破壊され残存していなかった。

出土遺物には土師器、弥生土器、土製品、石器、 2m 鉄器、銅製品が存在する。土師器以外のすべて が本址に伴うものと思われる。弥生土器には鉢、 甕、壷、甑の器種が、土製品には臼玉、石器に は砥石、スクレイパーが、鉄器は不明品、銅製 品には銅鏃が認められる。弥生時代の銅鏃は佐 久市内で3例目となる。全県でも 24 点の出土

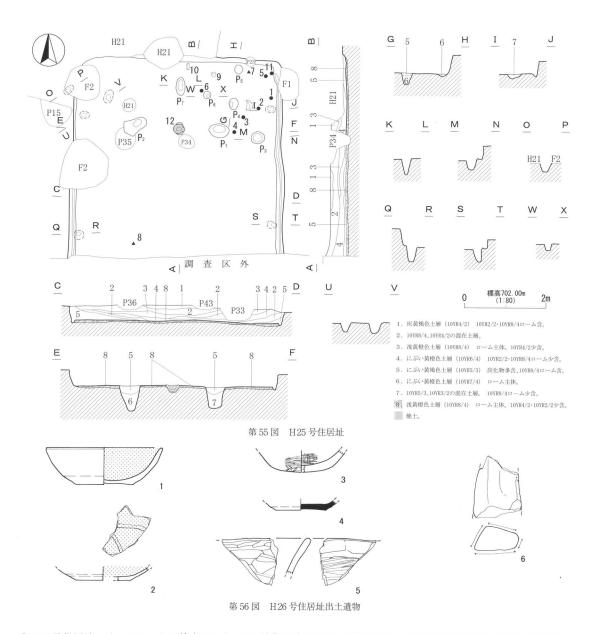
例しかなく、貴重な発見といえる。特徴としては、県内出土の他のものと比べ大型品であり、残存状態が良好なこと、脚が返っていること、茎の断面が四角であること、再加工されていないこと等があげられる。鉄器は器種が不明であるが、2枚が重なった状態で錆により接着している。1枚は1辺に刃部が作り出されているようにも観察される。壷の口縁部が比較的短く、強く外反する形態などから、本址の時期については、弥生時代後期「箱清水式」期の中でも新しい様相を呈しているように思われる。



第53図 H24号住居址出土遺物(2)



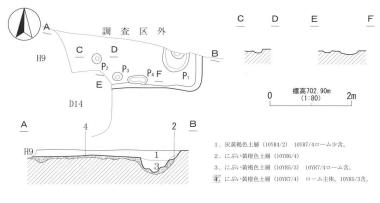
第54図 H25号住居址出土遺物



〇H32号住居址ーけ6グリットで検出された。H28号住居址、D15号土坑に切られ、H7、35号住居址を切る。壁残高ー24 cm以外の規模等は不明である。複数の Pit が床面上で検出されたが、主柱穴は判然としない。カマドは北壁の中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されていた。周溝は有さない。

出土遺物には土師器、須恵器、灰釉陶器、石器、鉄器(未実測細片)が存在する。土師器には坏 C1、碗 A1、鉢、ロクロ甕 B が認められる。須恵器には坏 C、甕、壷が、石器には砥石が認められる。以上の内、土師器鉢 9、10 は本址に伴うものではない。また、土師器坏、碗の3点には墨書が認められ、内2点は梵字「マ」と思われる。須恵器坏4の内面には、炭素吸着と思われる処理が施されている。このような須恵器は佐久市内幾つかの遺跡で散見される。以上のような土器様相は聖原遺跡の時期区分一奈良平安時代Ψ期に該当し、10世紀前半の実年代が想定される。

○H33 号住居址-し6グリットで検出された。H27 号住居址、D5号土坑に切られる。本址は Pit のみが残存しており



第 57 図 H26 号住居址

その特徴的な配置から、弥生時代後期の住居址であることが判明した。 P1~P4の方形に均等配置される4基が主柱穴であり、P5、P6が出入口施設、P7が棟持柱である。炉址はP1とP2の中間に位置し、不整形な平面形を呈し、内部には土器が敷かれていた。また、本址は建替が行われており、P1~P4にP10~P13が、P5、P6にP14、P15が、P7にP18が対応しており、規模的には旧住居よりも新住居は縮小されている。炉は位置を移動していない。上記のような理由から、本址の出

土遺物は炉に敷かれていた壷の体部片1点である。弥生時代後期「箱清水式」期の所産である。

○H34 号住居址-さ4グリットで検出された。M1、2号溝址に切られる。壁残高 12 cm以外の規模等は不明である。 床面上で4基検出されたPit の性格は判断できない。カマド、周溝は調査範囲には存在しなかった。

出土遺物は土師器のみである。器種的には坏 A3、B1、C1、C2、碗 A1、ロクロ甕 B が認められる。すべて本址に伴うものであろう。以上の土器様相は聖原遺跡の時期区分-奈良平安時代 π 期に該当し、 π 10 世紀前半の実年代が想定される。

〇H35 号住居址—こ6グリットで検出された。H7、10、28、32 号住居址、D15 号土坑に切られる。壁残高 8 cm以外の規模等は不明である。P1、P9が主柱、P2、P5は棟持柱であろうか?炉址は P1の西脇に存在する。不整円形を呈する地焼炉である。周溝は有さない。

出土遺物には土師器と弥生土器が認められる。土師器は混入品である。弥生土器には高坏、甕が器種として存在する。 すべてが断片的な資料ではあるが、弥生時代後期「箱清水式」期の所産であろう。

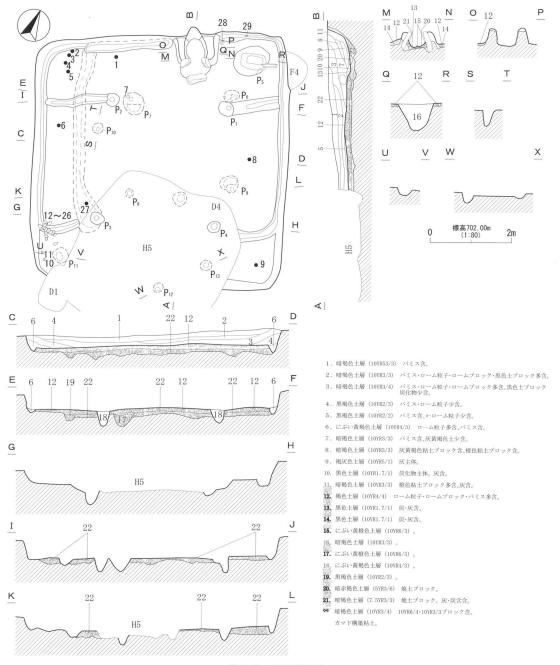
○H36 号住居址-こ8グリットで検出された。H28、31 号住居址、F3号掘立柱建物址、D15、18 号土坑に切られる。 壁残高-24cm 以外の規模等は不明である。P1~P4の4基の Pit が主柱穴であり、方形に均等配置されている。主柱 そのものは、板ないし半割丸太状を呈しており、長辺で24cmの規模であった。 炉址は P1と P2の中間に位置しており、土器を埋設した地焼炉であり、平面円形を呈している。 本址の炉は埋設土器を入れ替えており、その際に古い土器をそのまま埋めて、新しい土器を埋設している。 南壁下の細長い Pit 2基は出入口施設である。 周溝は有さない。 西壁下の中央やや南よりの床面からは、赤色顔料が固まって出土している。

出土遺物には弥生土器、石器、鉄製品が存在する。弥生土器には甕、壷、石器は性格不明な石製品、鉄器は長方形で、 長辺の両端に近い中央部分の円孔に釘?が穿たれた状態で残存しており、一部には木質が認められる。弥生土器の内 の2の甕が新炉体、5の壷が旧炉体である。本址の時期は壷頸部の綾杉文や、波状文の多段施文等から弥生時代後期「箱 清水式」期の比較的古い段階と思われる。

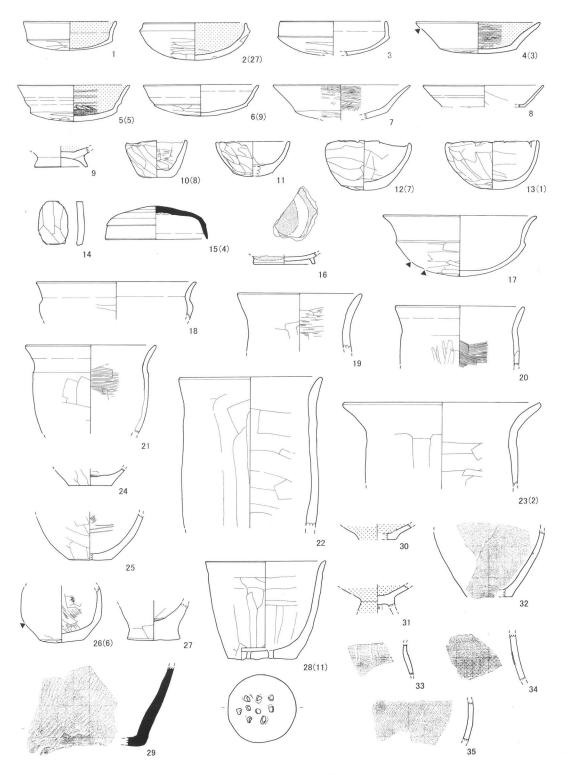
〇H37 号住居址ーこ8グリットで検出された。H5、27 号住居址に切られる。H5、27 号住居址による破壊のため、極めて小範囲が残存していたにすぎず、本址が住居址である確証も乏しいが、壁下の堀方から Pit が 1 基検出されている。出土遺物は皆無であり、時期は H27 号住居址が 6 世紀中葉~7世紀初頭の所産であるから、これを下限とする時期である。

○F1号掘立柱建物址ーう8グリットで検出された。H6号住居址を切る。N-5°-Wに長軸方位をとる。桁行長ー3.84m、桁行柱間寸法ー $1.6\sim2.16$ m、梁間長ー3.64m、梁間柱間寸法ー $1.68\sim2.04$ m、平面積ー14.0mの規模を有する。柱そのものの規模は $\phi20$ cmである。

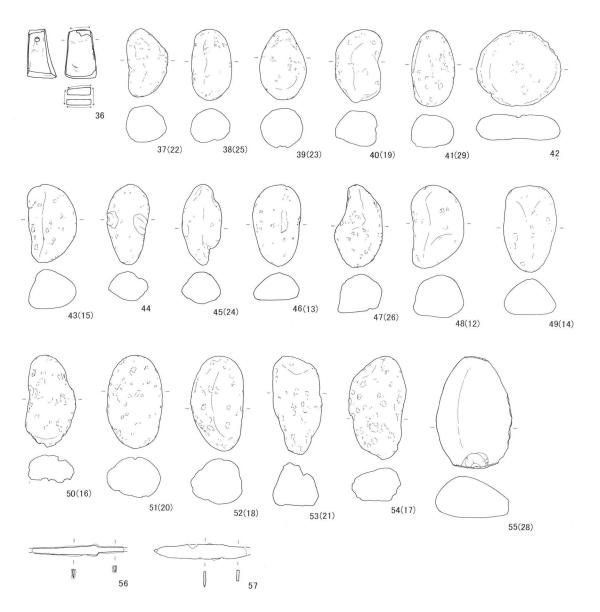
出土遺物は、須恵器高坏か高盤の脚部片が1点出土している。時期はH6号住居址の10世紀前半が上限となる。



第 58 図 H27 号住居址



第59図 H27号住居址出土遺物(1)

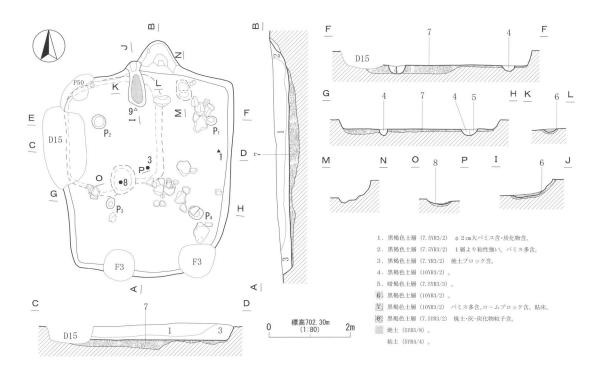


第60回 H27号住居址出土遺物(2)

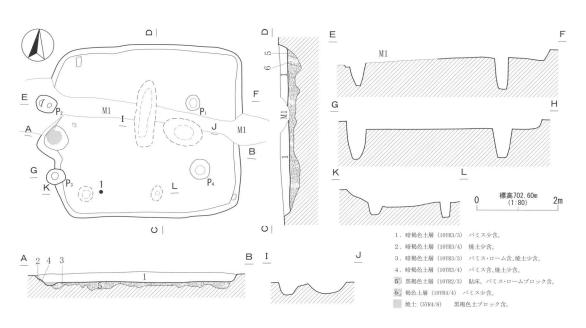
〇F 2 号掘立柱建物址ーか8 グリットで検出された。H21、22、23、24、25 号住居址を切り、H 8 号住居址に切られる。 N-86°-Eに長軸方位をとり、桁行長-5.84m、桁行柱間寸法-1.84 ~ 2.08m、梁間長-4.16m、梁間柱間寸法-1.84 ~ 2.2m、平面積-24.3 ㎡の規模を有する側柱式の掘立柱建物址である。柱そのものは確認できなかった。

出土遺物は皆無であるが、遺構の重複関係から本址の時期は古墳時代6世紀中葉~7世紀初頭が下限、弥生時代後期「箱清水式」期が上限となる。

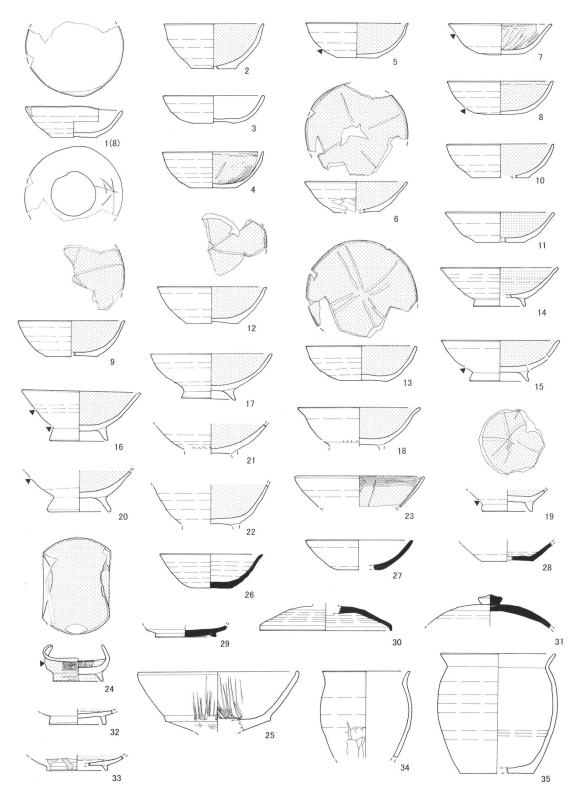
〇F 3 号掘立柱建物址ーけ8 グリットで検出された。H28、31、36 号住居址、D18 号土坑を切り、D6 号土坑に切られる。N-82°-Wに長軸方位をとり、桁行長-6.0m、桁行柱間寸法-1.4~2.2m、梁間長-4.44m、梁間柱間寸法-2.0~2.56m、平面積-26.6 ㎡の規模を有する、総柱式の掘立柱建物址である。柱の規模は ϕ 40 cm近くある。



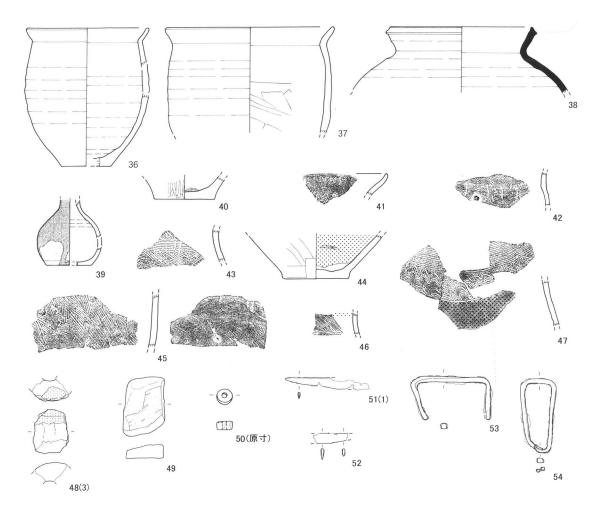
第 61 図 H28 号住居址



第 62 図 H29 号住居址



第63図 H28号住居址出土遺物(1)



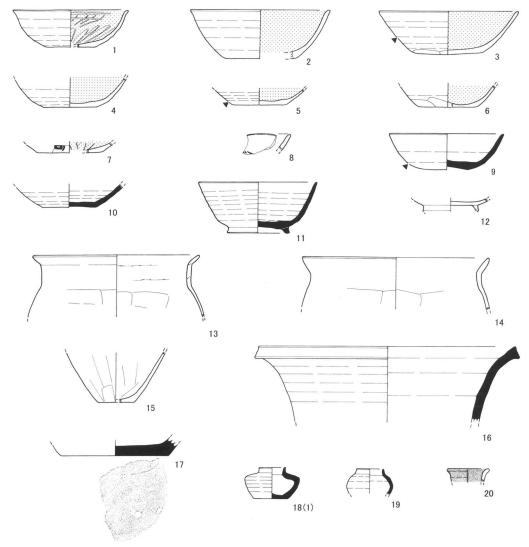
第64回 H28号住居址出土遺物(2)

本址とF2号掘立柱建物址は、東西方向に長軸を合わせ配置されており、規模もほぼ同一である。ただ、一方は側柱、本址は総柱式の違いが認められる。

出土遺物には、土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、銅製品が認められる。この内、3、4、6、7は検出面からの出土であるため、本址の時期比定に用いることは出来ない。1はP4内の出土であり、かつ完形品であることから、本址の所産期に極めて近い資料である。そう考えると、8の弥生土器の鉢は除外され、5の須恵器坏蓋、9の銅製品(腰帯飾金具巡方?)が本址に伴う遺物の可能性が高くなる。これらの遺物から、本址の時期を類推すると、聖原遺跡の時期区分一奈良平安時代以期に該当し、9世紀後半の実年代が想定される。

〇F4号掘立柱建物址ーさ6グリットで検出された。H10号住居址に切られ、H27号住居址を切る。N-60°ーWに長軸方位をとり、桁行長-4.12m、桁行柱間寸法-2.0~2.12mの規模を有する。H10号住居址との空間的かね合いから、梁間1間×桁行2間の側柱式の掘立柱建物址が想像される。柱そのものは確認できなかった。

出土遺物には、土師器坏 C2、ロクロ甕 B が認められ、坏?と思われる破片には判読不可能な墨書が認められる。以上の出土遺物から本址の時期を比定すると、聖原遺跡の時期区分一奈良平安時代证期に該当し、10 世紀前半の実年代が想定される。



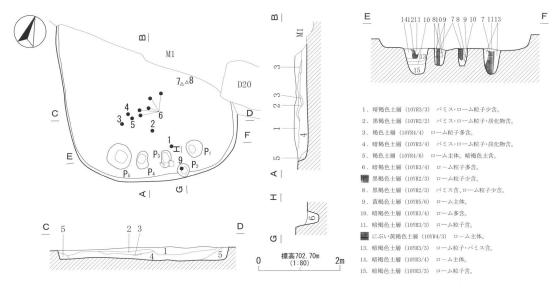
第65図 H29号住居祉出土遺物

○D1号土坑ーさ9グリットで検出された。H 5、27 号住居址を切る。N − 0° − E に長軸方位をとる。 長軸長 − 1.2 m、短軸長 − 0.48m、壁残高 − 24 cm、平面積 − 0.7 mの規模を有する、長方形の平面プランを呈し、断面形状は逆梯形である。

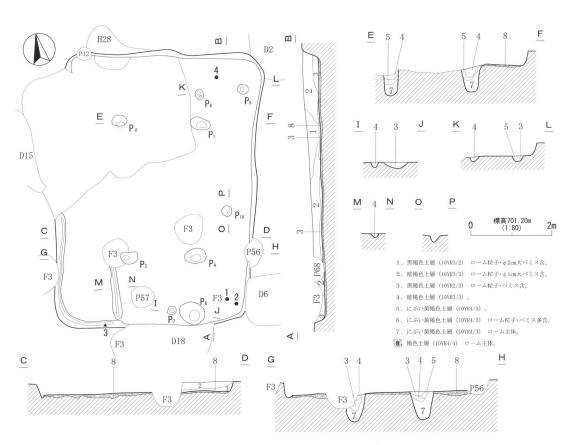
出土遺物は皆無であり、時期・性格は不明である。H 5 号住居址の所産期である 10 世紀前半が本址の上限時期である。

○D 2 号土坑ーく 6 グリットで検出された。H 8、14、31 号住居址を切る。N - 75° - Wに長軸方位をとり、長軸長 - 2.4 m、短軸長 - 2.16 m、壁残高 - 28 cm、平面積 - 3.9 mの規模を有する、楕円形の平面プランを呈し、断面形状は逆梯形である。

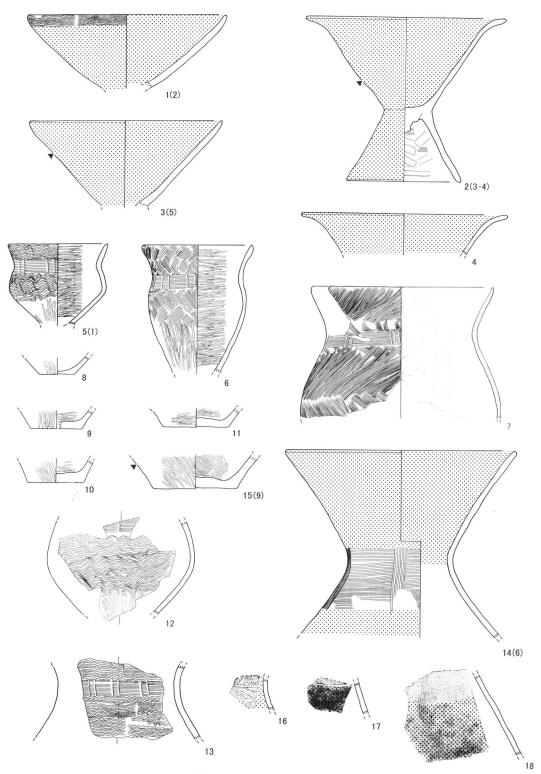
出土遺物には、須恵器坏、甕、弥生土器甕が計 4 点認められるが、遺構の重複関係から、弥生土器はH31 からの混入品の可能性が高い。H8、14 は 6 世紀中葉~ 7 世紀初頭の所産であるから、 1 、 2 の須恵器が本址に帰属する可



第 66 図 H30 号住居址

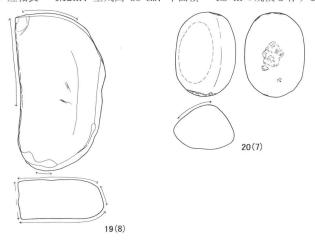


第 67 図 H31 号住居址



第68図 H30号住居址出土遺物(1)

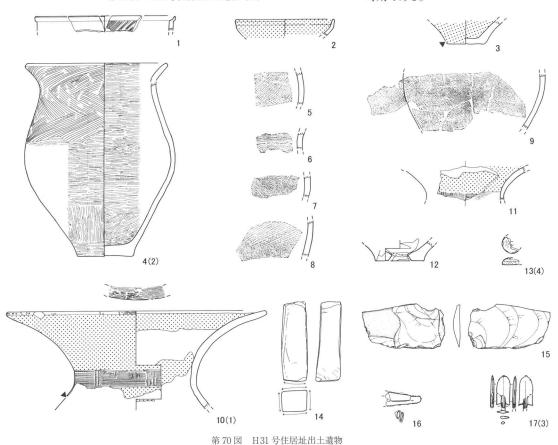
〇D3号土坑ーく5号グリットで検出された。H14号住居址を切る。N-5°-Wに長軸方位をとる。長軸長-1.28 m、短軸長-1.12m、壁残高 36 cm、平面積-1.3 mの規模を有する。平面形は方形を呈し、断面は逆梯形である。



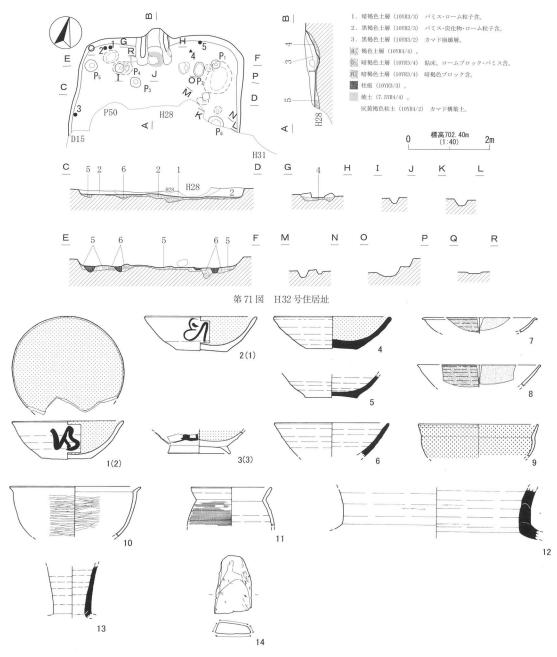
第69図 H30号住居址出土遺物(2)

出土遺物は皆無であるため、本址の時期は不明であるが、H14の所産期である6C中葉~7C初頭が本址の上限となる。

○D4号土坑一さ8号グリットで検出された。H5、27号住居址を切るN-70°-Wに長軸方位をとる。長軸長-1.2m、短軸長-1.04m、壁残高-56cm、平面積-1.0㎡の規模を有する。平面形は楕円、断面は逆梯形の形状を呈している。出土遺物としては、弥生土器の高坏片が1点出土しているが、遺構の重複関係から混入品と思われる。D1同様の理由から10世紀前半が本址の上限時期である。



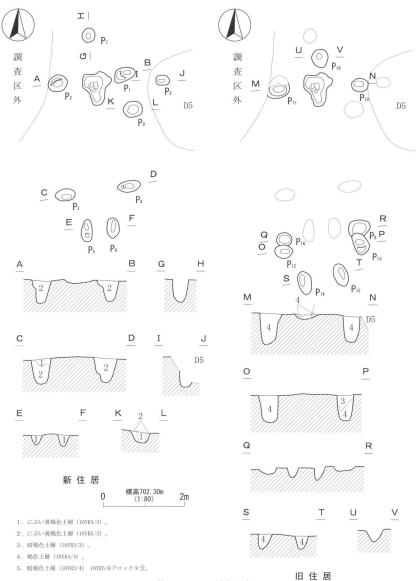
- 71 -



第72図 H32号住居址出土遺物

〇D 5 号土坑ーさ6 グリットで検出された。H33 号住居址を切り、H10 号住居址に切られる。深度ー 1.64m以外の規模等は不明であるが、平面一円形、断面ーすり鉢状の形態を呈する、聖原遺跡での「E 形態土坑」である。

出土遺物には土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、石器が認められる。8の土師器高坏、14の須恵器壷、弥生土器は明らかな混入品であるが、石器(台石、敲石)は判断できない。土師器には坏 C1、碗 A1が、須恵器には坏 C、有台坏、甕が、灰釉陶器には碗が存在する。このような土器様相は、聖原遺跡の時期区分一奈良平安時代 II 期が



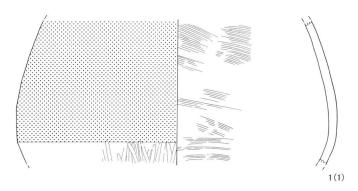
第73 図 H33 号住居址

該当する。

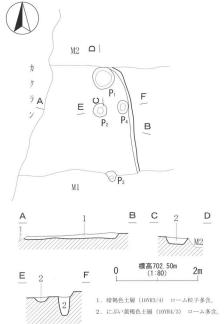
○D6号土坑ーく8グリットで検出された。H31号住居址、F2号掘立柱建物址を切る。N-80°-Wに長軸方位をとり、長軸長ー2.24m、短軸長ー1.44m、深度ー52 cm、平面積ー2.6㎡の規模を有する。平面は長方形のプランを呈する。底面の周囲が低くなって周溝状に取り巻いており、木棺墓の可能性を有する。

出土遺物は須恵器坏Cが1点認められるだけであり、時期は不明である。

〇D7号土坑ーき8グリットで検出された。H15号住居址を切る。N-0°-Wに長軸方位をとる。調査区外にのびるため、長軸長は不明である。短軸長-1.36m、深度-60cmの規模を有する。平面長方形、断面逆梯形の形態である。土師器、弥生土器、羽口、鉄素材が出土している。時期・性格は不明である。



第74図 H33号住居址出土遺物



第 75 図 H34 号住居址

 \bigcirc D8号土坑ーえ7グリットで検出された。H2号住居址に切られる。 $N-11^\circ-W$ に長軸方位をとる。長軸長ー 2.12m、短軸長ー 2.08m、深度ー 20~cm、平面積ー 3.5~mの方形の平面プランを呈し、断面は鍋底状である。

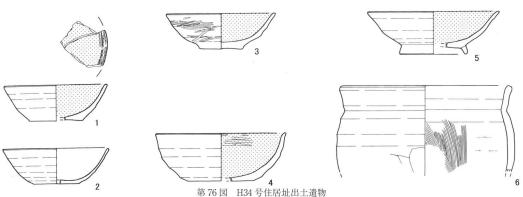
出土遺物には、土師器坏 C2、甕の2点が認められる。本址を切る H2が 10 世紀前半の所産であるから、本址の時期はこれが下限となる。

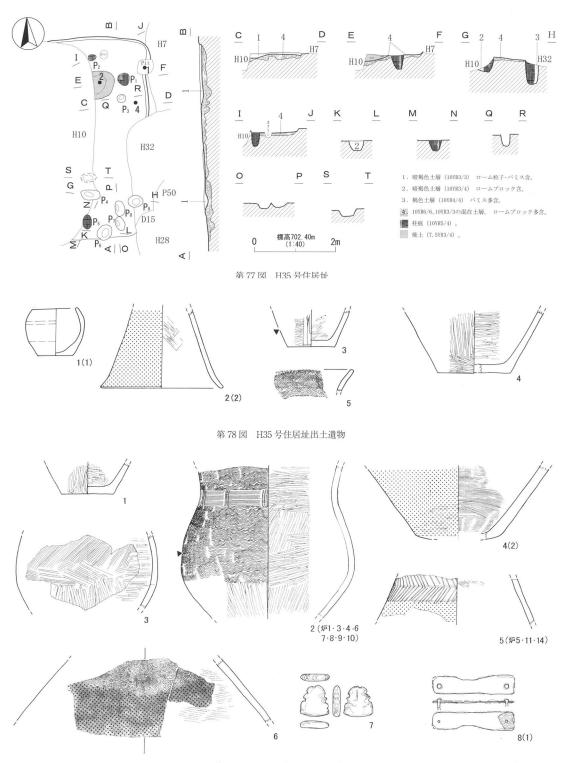
○D9号土坑ーき 5 グリットで検出された。 $H11 \cdot 12$ 号住居址を切る。 N -10° - E に長軸方位をとる。長軸長-0.84m、短軸長-1.6m、深度-24 cm、平面積-2.4 mの楕円形の平面プランを呈し、逆梯形の断面である。

出土遺物は皆無であり、時期・性格等は不明である。

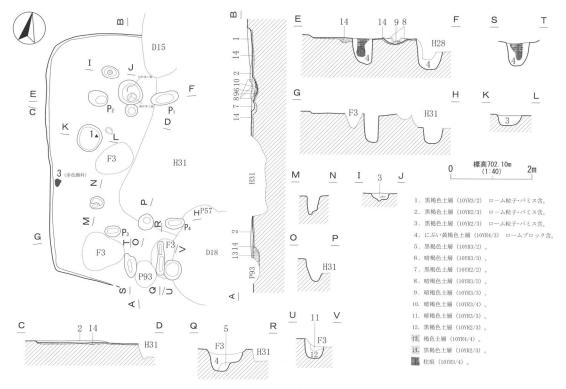
 \bigcirc D13 号土坑ーか8グリットで検出された。H24 号住居址を切る。N -83° -W に長軸方位をとる。長軸長-96 cm、短軸長-92 cm、深度-32 cm、平面積-0.8 mの円形プランを呈し、断面は逆梯形である。

出土遺物としては、弥生時代後期の甕片が1点出土しているが、 重複する H24 が該期の住居址であるため、この土器をもって、本址 の所産期とすることは出来ない。弥生時代後期「箱清水式」期が本 址の上限である。

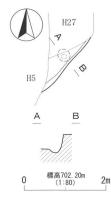




第79図 H36号住居址出土遺物



第80図 H36号住居址



第 81 図 H37 号住居址

○D14 号土坑ーう 5 グリットで検出された。H9、26 号住居址を切る。 $N-78^{\circ}-W$ に長軸方位をとる。長軸長-2.0m、短軸長-1.64m、深度-24cm、平面積-3.1dの長方形の平面プランを呈し、逆梯形の断面である。

出土遺物は土師器碗 A1 が 1 点出土しているが、細片であり、これを以て本址の時期とするわけにはいかない。H9 号住居址の 5 世紀後半~ 6 世紀初頭が本址の時期の上限である。

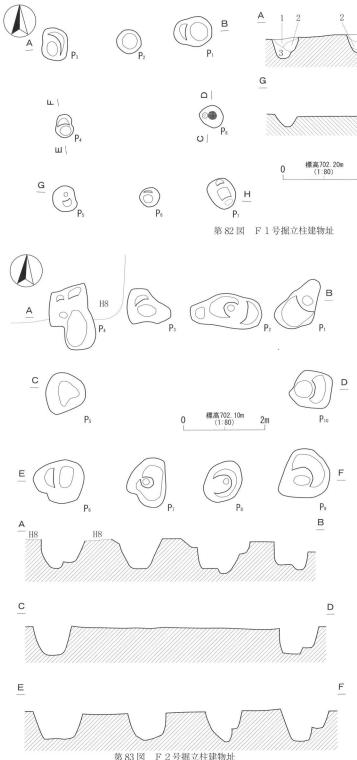
○D15 号土坑ーこ7グリットで検出された。H28、32、36 号住居址を切る。N-7°-Wに長軸方位をとる。長軸長-1.76m、短軸長-0.88m、深度-40cm、平面積-2.0mの長方形の平面プランを呈し、逆梯形の断面である。

出土遺物には、土師器坏 A1、C1、G1 が認められる。この内の坏 A1、C1 は H28 号住居址に本来帰属する可能性が強い。本址の時期は H28 号住居址の 10 世紀前半が上限である。

〇D16 号土坑ーさ5グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-25°-Wに長軸方位をとる。長軸 長ー1.24m、短軸長ー1.2m、深度-48 cm、平面積ー1.2 mの円形の平面プランを呈し、逆梯形の断面である。

出土遺物には弥生土器と石製品(臼)が認められる。本址は重複関係を有さないことから、本址の時期は弥生時代の可能性が高い。

〇D17 号土坑ーこ4グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。 $N-52^\circ-E$ に長軸方位をとる。長軸長ー1.4m、短軸長ー1.321m、深度ー48cm、平面積ー1.6mの円形の平面プランを呈し、逆梯形の断面である。出土遺物には弥生土器の高坏が1点認められる。本址の時期は弥生後期の可能性が高い。



○D18 号土坑ーけ8グリットで検出された。H31、36 号住居址を切り、F3号掘立柱建物址に切られる。N-34°-Eに長軸方位をとる。長軸長-2.48m、短軸長-2.12m、深度-40 cm、平面積-4.0 mの楕円形の平面プランを呈し、逆梯形である。

C

Н

灰黄褐色土層 (10YR5/2) 10YR7/3ローム・パミス少含。
 灰黄褐色土層 (10YR5/2) 10YR7/3ローム・パミス多含。

3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR8/4ローム少含。

4. 黒褐色土層(10YR2/2)。 5. 10YR5/3、10YR7/3ロームの混在土層。

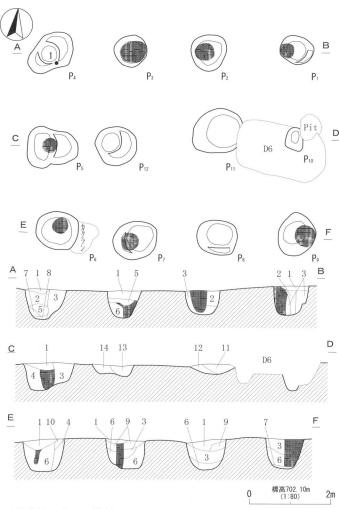
2m

出土遺物には、土師器坏 C2、碗 A1、ロクロ甕、須恵器高盤、弥生土器、石器(磨製石鏃、磨石)が認められる。弥生土器や石器は重複する、弥生時代の住居址からの混入品と思われる。また、4の須恵器も他の土師器とは時期が異なる。1~3・5の土師器が本址に伴う可能性が強く、本址の時期は聖原遺跡の時期区分一奈良平安時代W期が該当し、10世紀前半の実年代が想定される。

○D19 号土坑ーき 4 グリットで検出された。M1 号溝址を切る。N-4° -E に長軸方位をとる。長軸長-1.4m、短軸長-0.88m、深度-40 cm、平面積-1.2 ㎡の長方形の平面プランを呈し、逆梯形の断面である。

出土遺物には、土師器坏 D1、弥生土 器甕、鉄器 (不明) が認められるが、時期・ 性格共に不明である。

 \bigcirc D20 号土坑ーけ4グリットで検出された。M1号溝址に切られる。 $N-80^{\circ}-E$ に長軸方位をとる。長軸長-1.12m、短軸長-1.08m、深度-32cm、平面積-1.08m



- 1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子多含。
- 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子少含。
- 3. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒・ブロック含。
- 4. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒・パミス含。
- 5. にぶい黄褐色土層 (10YT5/3) ローム主体。
- 6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム多含。
- 7. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム多含。
- 8. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。暗褐色土少含。
- 9. 暗褐色土屑 (10YR3/3) ローム多含。
- 10. 灰黄褐色土層 (10YR6/2) ローム主体。
- 11. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒・バミス少含 。
- 12. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム粒・パミス少含。
- 13. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・パミス少含。
- 14. 褐色土層 (10YR4/4) ローム多含 暗褐色土含。
- 柱痕 (10YR2/3)

第84図 F3号掘立柱建物址

○D24 号土坑ーか6グリットで検出された。他遺構との重 複関係は有さない。N-6°-Eに長軸方位をとる。長軸 長- 1.24m、短軸長- 1.08m、深度- 20 cm、平面積- 1.1 mの楕円形の平面プランを呈し、逆梯形の断面である。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

○D25 号土坑ーか7グリットで検出された。H8号住居址、 F2号掘立柱建物址に切られる。N-0°-Eに長軸方位を

1.1 ㎡の方形の平面プランを呈し、逆梯 形の断面である。

出土遺物は皆無であり、時期は不明 である。

○D21 号土坑ーお5グリットで検出さ れた。H18 号住居址を切っている。 N-0°-W に長軸方位をとる。長軸 長-1.6m、短軸長-1.24m、深度-48 cm、平面積- 1.8 ㎡の長方形の平面プ ランを呈し、断面は逆梯形である。

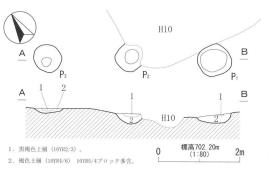
出土遺物は、土師器坏 A5、須恵器坏 C が認められ、本址の時期は10世紀前 半と思われる。

○D22 号土坑ーお5グリットで検出さ れた。H18 号住居址に切られる。N-40°-Eに長軸方位をとる。長軸長-1.08m、短軸長-0.96m、深度-24 cm、 平面積- 0.7 ㎡の楕円形の平面プラン を呈し、逆梯形の断面である。

出土遺物には土師器坏 D1 が1点の み認められたが、重複するH18号住居址 の混入遺物の可能性が高い。よって、 本址の時期は下限が10世紀後半であ る。

○D23 号土坑ーし4グリットで検出さ れた。一部分が調査区外にのびている。 調査範囲においては、他遺構との重複 関係は有さない。N-0°-W に長軸 方位をとる。長軸長-1.72m、短軸長-0.8m、深度- 28 cmの長方形の平面プ ランを呈し、逆梯形の断面である。

出土遺物は皆無であり、時期は不明 である。



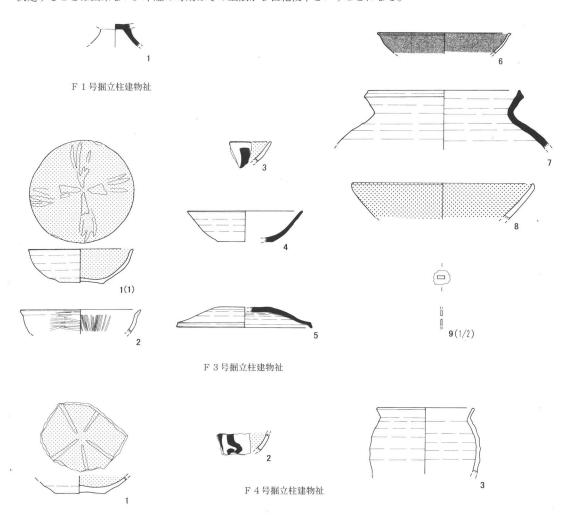
第85図 F4号掘立柱建物址

とる。長軸長-1.68m、短軸長-0.8m、深度-28 cm、平面積-1.21 ㎡の長方形の平面プランを呈し、逆梯形の断面である。

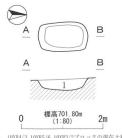
出土遺物は皆無である。本址の時期は下限が6世紀中葉から7世紀初頭である。

〇D26 号土坑ーさ3グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。 $N-80^\circ-W$ に長軸方位をとる。長軸長-1.44m、短軸長-1.32m、深度-1.4m、平面積-1.7mの方形の平面プランを呈し、長方形の断面である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

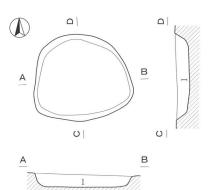
○M1・2号溝址ーか~し4グリット(M1)、さ・し3グリット(M2)で検出された。H29、30、34号住居址、D20号土坑を切り、D19号土坑に切られる。ほぼ東西方向に走る溝であり、M1、M2の2条がセットになっている。2条の間隔は2.4mで併走している。深度は40 cmほどである。性格的には水路などではなく、区画のための溝であろう。出土遺物には土師器坏 D1、碗 A1、ロクロ甕、甕 B1、須恵器坏蓋、甕 B、壷 B、石器(砥石)が認められる。M1−4を除き平安時代−9世紀後半に位置付け可能な遺物群であるが、重複する住居址− H29も同時期であること、未調査部分において、M1−4も含めた時期の遺構との重複もあり得るため、本址の時期をこれらの遺物群によって決定することは出来ない。本址の時期はその上限が9世紀後半ということになる。



第86図 掘立柱建物址出土遺物



1. 10YR4/3、10YR5/6、10YR3/2ブロックの混在土層 D1 号 土坑

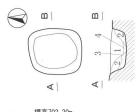


標高702.30m (1:80)

2m

D2号土坑

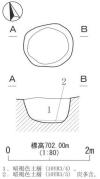
1. 暗褐色土層 (10YR3/3) 炭化物・バミス・ローム含。



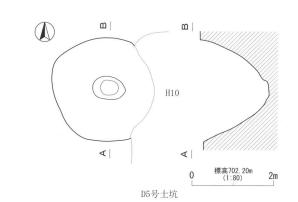
70 標高702.20m 2m (1:80) 2m

- 1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・パミス少含。
- 2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒・パミス多含。
- 3. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒・パミス少含。
- 4. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒少含。

D3号土坑



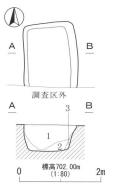
D4号土坑





- 1. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒少含。
- 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒・パミス・赤色土粒含。
- 3. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒・パミス含。
- 4. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒多含、パミス含。

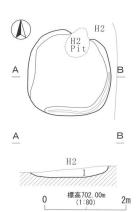
D6号土坑



- 1. 暗褐色土層 (10YR3/3) 焼土・炭化粒子少含、ローム粒子・バミス含。
- 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物多含、ローム・パミス含。
- 3. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームプロック多含。

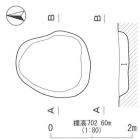
D7号土坑

第87図 土坑(1)

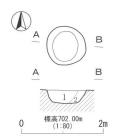


1. 10YR5/3、10YR3/2の混在土層。 10YR7/3ローム含。

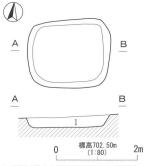
D8号土坑



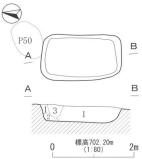
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物・パミス・ローム含。 D9号土坑



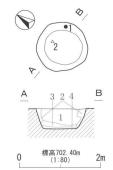
- 1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子・パミス多含。
- 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含、バミス少含。 D13号土坑



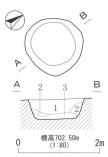
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR8/4ローム・炭化物含。 D14号土坑



- 1. 暗褐色土層 (10YR3/4) パミス·炭化物含。
- 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) バミス・炭化物含。
- 3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム多含、灰含。 D15号土坑

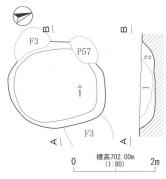


- 1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 10YR5/6プロック少含。
- 2. 暗褐色土層 (10YR3/4) 10YR5/6プロック多含。
- 3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 。
- 4. 暗褐色土層 (10YR3/3) 10YR5/6プロック少含。 D16号土坑



- 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)。
- 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 10YR5/6プロック多含。
- 3. 黑褐色土層 (10YR2/2)。

D17号土坑

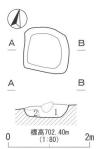


- 1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス・炭化物含。
- 2. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多含、パミス含。

D18号土坑



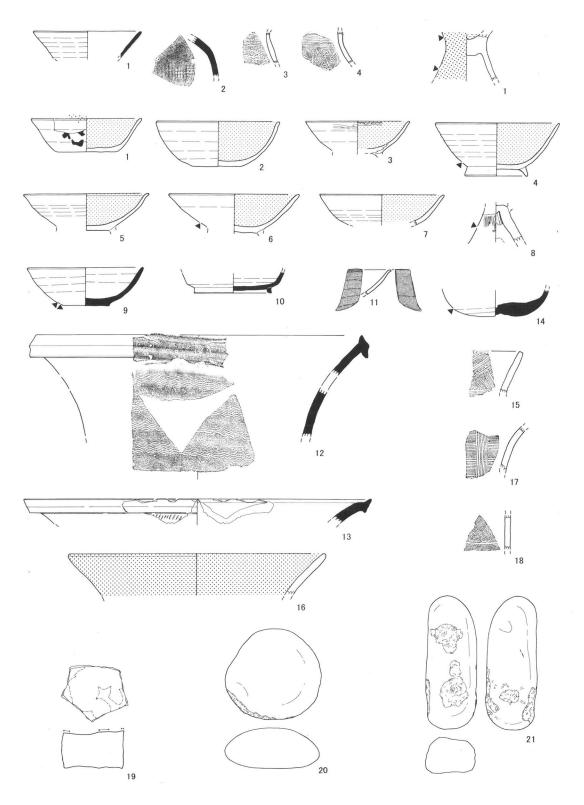
- 2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム多含、パミス・黒色土含。
 - D19号土坑



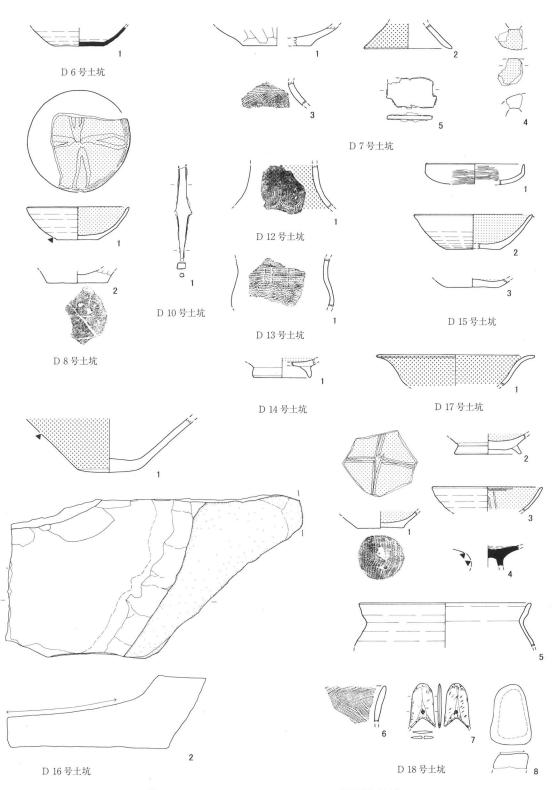
- 1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子・パミス含。
- 2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム多含。

D20号土坑

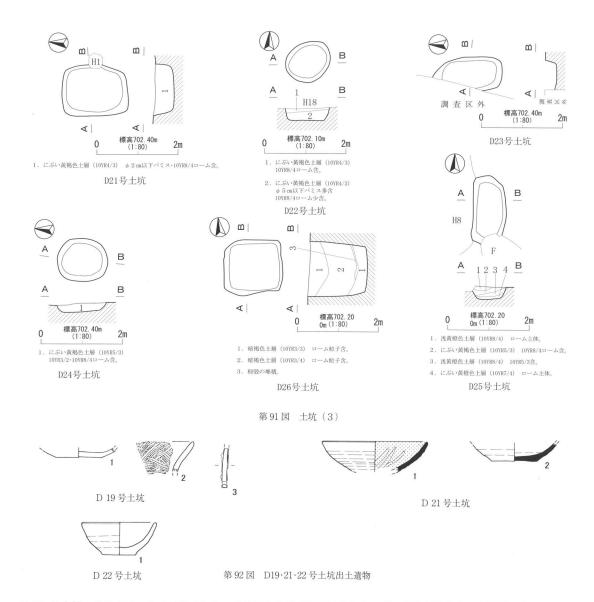
第88図 土坑(2)



第89回 D2·4·5号土坑出土遺物



第 90 図 D6 · 7 · 8 · 10 · 12 · 13 · 14 · 15 · 16 · 17 · 18 号土坑出土遺物

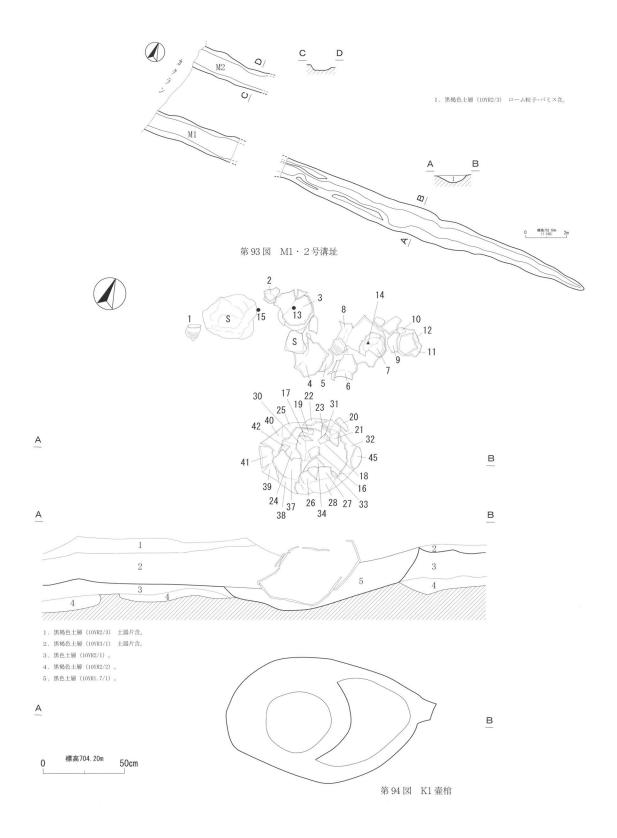


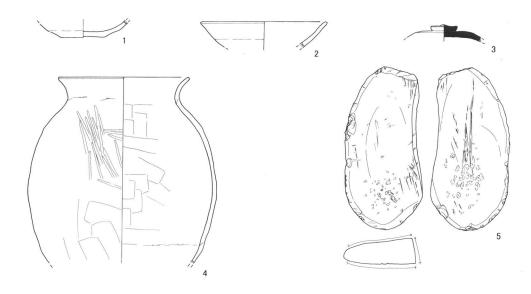
○K1 号壷棺ーさ2グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さないが、本址が構築された場所は台地から低湿地への変換点にあたり、おそらくは投棄された土器が堆積した包含層中であるため、多くの遺物が伴出したが、本址に帰属するものか否かは判断できなっかた。

出土遺物の内、1、2、3が壺棺本体の土器である。1の土器を3にはめ込み、3の土器に1、2を合体させた土器をはめ込み、横位に楕円形の土坑内に設置している。長軸方位は $N-68^\circ-E$ である。その他の $4\sim17$ の土器は壺棺の北から一括出土したものであり、積極的に評価すれば並べられていた(供献?)ものである。無論、消極的に捉えれば、上記したように投棄されたものとなる。

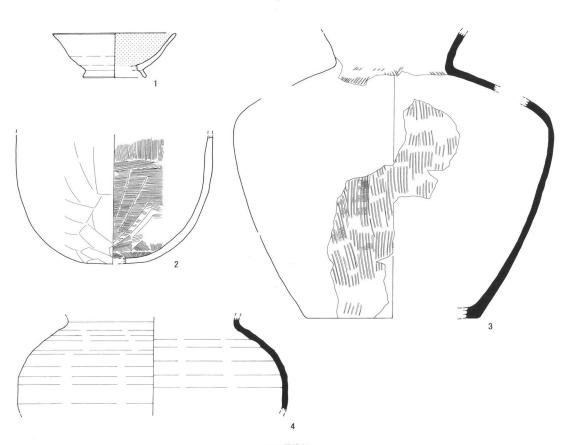
すべての土器が時期的には弥生時代後期「箱清水式」期のものであり、時間差は認められない。なお、壺棺を設置した土坑の規模は長軸長 - 1.3m、短軸長 - 0.75mの規模であり、断面は鍋底気味の逆梯形である。

●その他のPit、試掘、グリット等の出土遺物については、図化可能なものは図・写真・表にまとめてある。参照されたい。



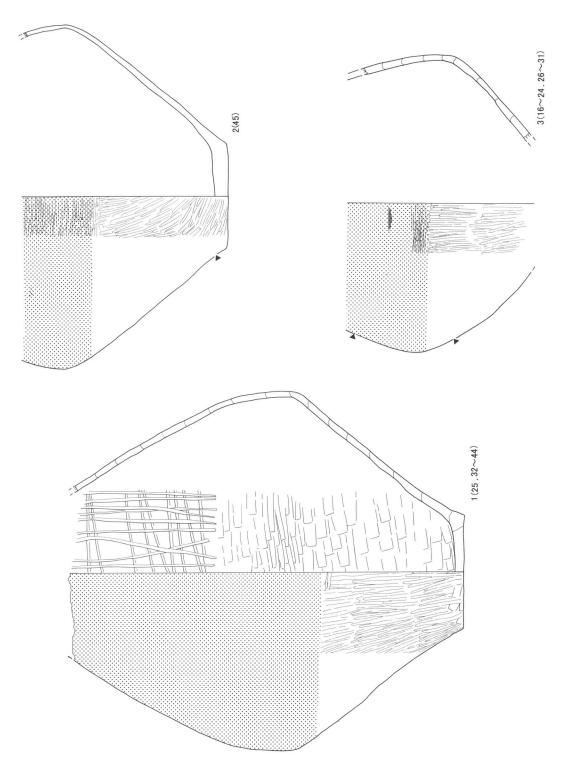


M 1 号溝祉

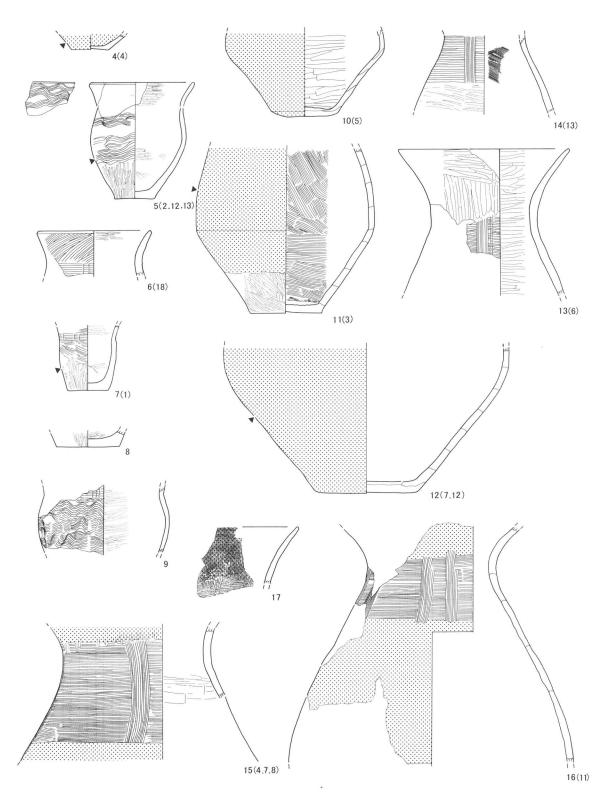


M 2 号溝祉

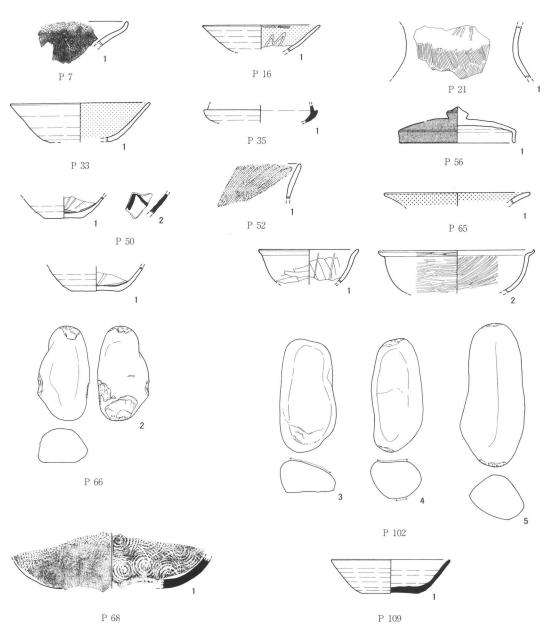
第 95 図 M1·M2 号溝址出土遺物



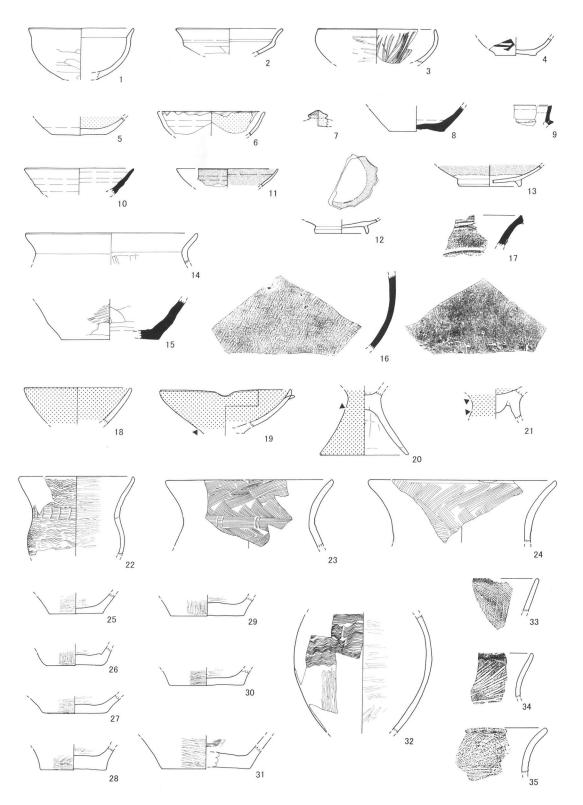
第96図 K1 壷棺出土遺物 (1)



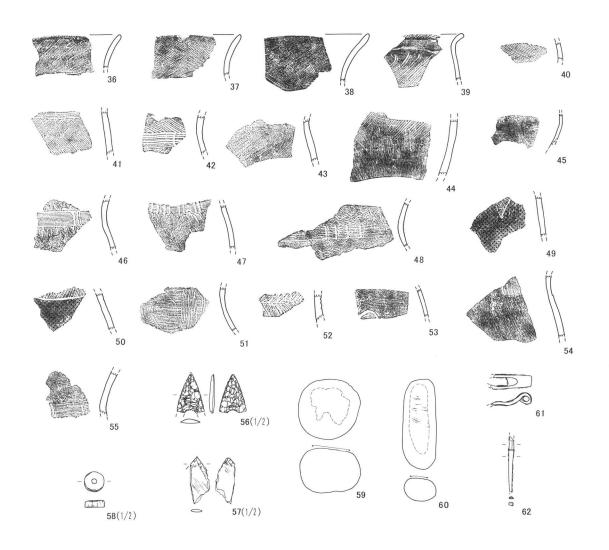
第97図 K1 壷棺出土遺物 (2)



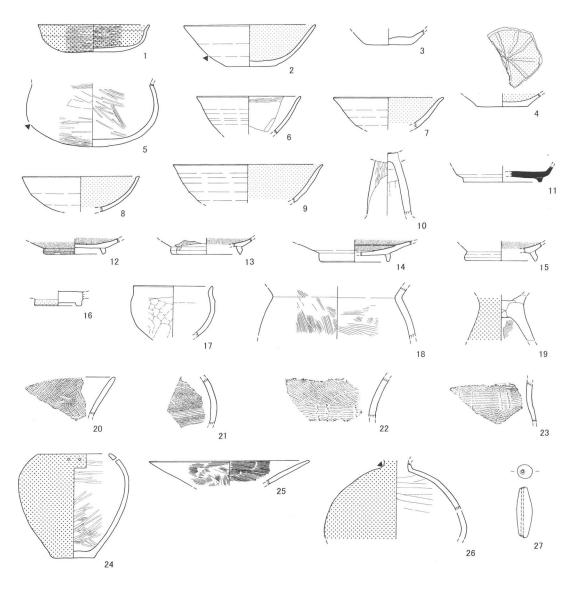
第98図 Pit出土遺物



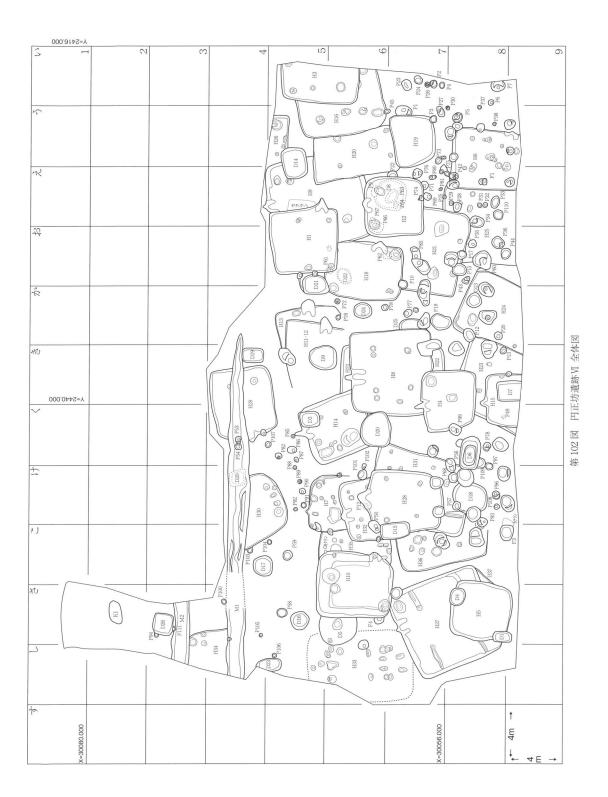
第99図 遺構外出土遺物(1)



第100図 遺構外出土遺物(2)



第101図 試掘調査出土遺物



			_	_		_	_		_	_	_		_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_		_											-		_		_		_	_	_	_	_		_					_
\$ 88 + + 3	+	国区1周	IVK I ME	IVK I 層・カマドボリ	11公1階 4つ、対路V件	は日本 / 一世の日日	ケン・H9ケン	試攜文住	NK1層・カマド・カマドホリ	1区1層・ケン	試糖AA件	記標 文件	試響文件			IK·NK本リ	47	IVK 186	□区1層・ⅢKトレ1層・NK1層・ケン	IK1層・H21Kホリ・IVK1層	I N N	INT	試觀文佳	Ⅲ区1層·D21	D 21	IMトレ	ケン・エー・	1830		45 t m - 10 545 5	1区1層・ホリ	1区1層	Ⅱ医1層	ケン	11.6.1.6	TR 1 M	7 1 1	IVIX 1 MM	試攜文佳	IX1M·P2	1517	115.2	11区1層	II医赤り	工区本リ	1区1層	1818	INC. I MA	NK188		IVIX 1 層	国区トレ	Z 7 1	I 区 1 層 ・ 国 区 ト レ 1 層 ・ 力 マド・ケン	I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	
術學	I	四転実制、No.4	国作业 Mark Sun Company Sun Com	1 Mary And	完全失調	回転実測	完全実測	完全奖測	完全実測	完全実測, 穿孔(焼成後)有り	完全実測	回転実測	破片実測	破片埃測	破片実測	回転実測	回転実測	回転実測	回転実測、大原2号	回転実測、光ヶ丘1号	帳実測, 大原2号	回転実訓、光ヶ丘1号	回転実測、大原2号	回転集測、大原2号	回転英間、大原2号	回転表調、光ケ丘1号	取几类组入际 2 与国际学出	四颗大锅 像上生油 如木	MX / 文vid · n. i. i.	回転実測	回転実測	上部欠損、砥面数5、細かい線状痕有り、流紋岩	中央下面穿孔(径1.0)有り、軽石、No.3	平适 7、「啊」 38 0 46 %、1	45年 0.40、M. I 職在場 90 6	次(1) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (5) (5) (5) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6	现存長 4.4	現存長 3.4	のむり	回転美別 完全全選測: № 2	が上入れています。	完全実測	完全実測、No.1	完全奖測	元全奖制	四年宋訓	7.1 大司 1.1 大司 1.1 大司 1.1 大司 1.1 大司	日本大学	回転実測	破片実朗、東濃産	破片実測、東濃産	回帳実過	国际实现	回転実測	回転実測、拓本	
	顧太	+ほらハフケ人リ 右回転参加り		Ω		、器書「?」						中年前中							縮釉 (つけがけ)	・付高台、施軸 (ハケ塗り)			(ナかいナ)			「 「 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3		福福設状文(6本単位) 注急文	χ.1	搭贴付	突帶貼付回	4.	0 1	 	第 元		强	強	田之原名	5				切り→付高台	公司 口	方) 里角机理。	つけがけ)			施物				回	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		ヘラミガキ→里角処理	暗文→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	暗文→黒色処理	暗文→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理		ヘラミガキ→黒色処理	暗文→黒色処理	黑色则理	ヘラミガキ→黒色処理	暗文→黒色処理	へラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理		The state of the s	火棒	発釉(つけがけ)、重焼痕	%軸(ハケ梁り)	Na (方法不明)	路番(ハケ州リ) 技術((しまれき)		高番(しいかけ) 格等(しは女は)		品箱(パン出り) 格響(しけがは)				当具痕		6	0.					23.6		暗文→黒色処理	ナデ→黒色処理	ナデー黒色処理	ナデ→暗文→黒色処理・フーナー	ナデー語文十二十二二日の日田	1 万十 瀬田珍田 十里 中国	ノケノ音×ノボロが出		施輪(つけがけ)	施輪(つけがけ)	器 2	26.40		14.4	14	当具痕	
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	(30)	(3.9)	(4.8)	4.0	(4.1)		1	(6.1)	d.c	(2.7)						(4.2)			(4.5)	(9.6)					(9.3)	(0.5)						成人序(1.9) (44.0)	4.9 81	DESCRIPTION OF THE PROPERTY OF				52	L	4.1			5.8				(3.5)									
が (事) 砂 柚 (事) 砂	(96)	(12.8) (5.9)				(0.0)		(14.0) 7.0			87	(8.0)				(14.8) (6.5)	(0.7)				(13.0)	(02/		(145)	(15.0) (7.0)		(13.2)		(11.0)		1+ E (49) EL+66 (49)	成へ取(生の) 成へ物(生立)	0.0	円盤径 5.7						13.0 4.9	5.9		15.5	0.8	(156)	(100)	(13.0) (5.8)	(18.8)	(11.6)		(196)	(13.6)		(21.4) (23.2)	10000/	
4 4 4	17. A 4	器 坏 C1	*	2	* !	± 1	× 1	£ 8	100	E 2	E 1	£ 1	£ 1	£ !	* !	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	£ !	£ 1									0	影			A A		117 117					然数品 鉄素材	六	器 坏 C2	*	* 1	E 12	E 18	* *		*						號田	器 羽裳 A		
連構名 No. 臨	-		_	_	_	_		を 一 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日			10 LANGS		_	14 上門路			17																					41 鉄製		01			の日間の	_	_					13 蒙古福昭 14 34666				18 上海器	19 土時器	

出土遺物観察表1

	班十華女	7.7	1区2番 田区1番	1区1層	医学1層 W株計19層	W#18	五半2個	E 平 Z 層・N 半示り W※19 隔 たい	11.1.2 間 シン田・1.1.2 間 シン	W 半 2 層	W 苯 2 層	E 半 2 幡・W 半 ホリ	D キ 2 層・W キ 2 層 W 米 9 層・ケン	E 半 2 層・H 16 I 区	7	E 半 2 層・W 半 2 層・トレ	10年1日 10日 10日		W半1層	P 4	E 祥 2 圖	7 . 7	1,1	77	N 牛 2 酒 F 米 2 園	L十二 W 半 2 層	医半2層	W半本川	試攜R住	IIK	1区・力マド	ПК	ナン	7	ハ 十	試攝R住	IK	カマド	カンド・ネジカマド	カマド・1区	力マド・Ⅱ区	山区・カマド	成搬R住 1.12	1 IS ケン	IK·WK为マド·IKホリ	Ⅰ医赤リ	ケン・H 15ケン 11区	A 사 자 자	カマド	IK· IK
	鐵	戦片実測、拓本 い出き記。 デエ	80万 朱阳,704 四新大师,18、 H11 と住居址間接合 - 丁本生命。 。	L P 監審欠級、M23	九五夫前	完全失測	口転送商	が発生を設	回転奖測	回帳実測	回板英調	国版次明 完全宝灏	完全失測	回転来測	完全実測	(工夫別 全生強	完全大説	完全実測	完全集測	元至美國駐出生	IX.7. 失院 BBH-実過	破片実測	破片集測	回転実測	コート では 回転実調	回転実測、H9、H11、H13と住居址間接合	级片奖调、拓本 路片发谢	4-H-2002 17	回転装測	口戰夫別。	元主六四	回転突測	极作英調	ルルエグVivi 記完全実施	完全実測	回転実測	回療状態のからから	元王夫朗、Mt.3 完全実謝	完全实測、No.2	完全実測、No.5	回転実測、No.5	回転失過降失少量	3. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	回転実測	回転突測	回転実施	D版文明 回版実際、N. 1	回転実測	回転実測	版表朗、ヘルン化(4 華星)
数	が 圏	へう描沈線、幡猫波状文 弱間 十三 コード		七回転公担の 黒鉄 [元]	う、寒音 '圧」 ラケズリ		国転送から 石画観送かり		84JD		ペクケスリ 回転を担け	0			石回転添切り、墨書「?」 に ※ ※ がおっ、 4 字 か 画事 「 4 。		*付高台		在 高古 在 由 由			番書 [5]		る を (し か な な)	寸高台、施軸(つけがけ)	ハケナデ、下半部ヘラケズリ	*** *** *** *** *** *** *** *** *** **		方向不明回転糸切り	古回転糸切り、底部路線ヘラケズリ 守			ペンテスリーペン・カキ 右回転※約カー仕組合			回転ヘラケズリ→付高台	回転参加の上仕事合			方向不明回転糸切り		2000年	n n			ハフケ人リ	ヘラケズリ		〈ラニガキ→赤彩 ◇コニガキ→赤彩 ◇コニナキ」キッ	単独制 紀本 り
说	乃断	(E)	デナルく		暗文→黒色処理	黒色処理	ナデ→黒色処理	ナデ→黒色処理		アナ→黒白処雄へつき、ガオ→田の加田	・ ハンスケー派 日本日本 サーボ 日本 サード 一世 年 1 日本 1	ナデ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	(ヘフミガキー)無田処理 勝女 一田 毎 4 日	黒色処理	ナデ→黒色処理	ナデー黒色処理	階又→黑色処理 ● 第二日の周囲	品 ター 乗口 な 中国 かん 単色 な 中国 かん 一番 かん	暗文→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理 ***・(つきまます)	品種(シケかり) 簡単(シけがけ)		叩き成形、ナデ(ハケ目残る) ** 日歌 + デ	当条像、フケナデ		日 世 安田 日 田 安田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	(ハンス -	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	祖文へつきガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ペクミガキ→無田処理					世界	ヘラケズリーナデ	ハケナデ	ハケナイ	ンシャナー	当具痕→ナデ	707	ヘラミガキ→赤彩	
	斯斯特		(35.9)	+	(3.5)	3.2)	3.6)	3.6)	3.4)	3.6)	3.3)	4.0)	5.4	5.8)														36.4	(3.3)	4.4)	4.6)	4.5)					30)	(4.0)	4.0)	4.2)			8.7							
***	(産) 姫 器							0		3 5	2 0	3																	3 5		3	٠							3	2										
规	底径(短)		軸橋径(0.4)	6.0	4.9	(5.1)	5.7	5.7	(4.5)	(2.6)	(2.8)	6.4	5.9	(7.0)	500	8.9	7.1	80.0	0.0	200					(7.8)				(6.2)	6.0	6.1	(6.2)		7.4	7.8	(8.3)	7.2	6.7	5.5	(2.9)			4.5		(5.4)	(E)(A)	(13.0)		24.6	
	口径(長)		円繋径(5.6)	12.3	(12.4)	12.4	(12.6)	(12.6)	(12.8)	(12.9)	(13.2)	(13.2)	15.2	(16.9)	146								(12.4)	(17.2)		(24.0)			(12.8)	(12.9)	(14.4)	(15.6)	(15.6)			(13.4)	(14.1)	(13.5)	(14.1)	14.2	(140)	(011 4)	6.6	(18.8)	(20.0)			(11.6)	(31.6)	
連続名 No 器 器 法 法	4 00 de 20	独市路	23 弥生土器 臺 23 鉄製品 紡繕車	上師器 坏	2 上師器	工	上師器 坏	上師器 坏	上師器 坏土婦器	十二年四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	十篇器	土障器 坏	十篇器	十四部 大	8	上師器 察	平	日本部 日本日 日本日	十二年第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	十個器	土 管器 大	十篇器 本	上海路	八相尾 以相尾器	灰釉陶器	上師器	発売器	31 鉄製品	H4 1 上部器 环 D1	干師器	上海器	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	上師器	干師器	上師器	H m m m m m m m m m m m m m m m m m m m	上海器	須恵器	海東器	※単語 出出	が高い	灰釉陶器	上師器	上野路	上師器	上節器		中部	沙井上 弥年十器	

13 十 職 4		皿区・力マド	Z Z	Ⅱ医本リ	IIX	1 N	国区100	IK1M	N区1層	国区1層	N区1層	1区1層・1区1層	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	画 「	1,1	ケン	国区1層	田区1層	V区 1 層	1区3層	ケン	ケン・H 27 No. 10	国区1副	田区1層	IVIX 1 m	1	1000円の100円の100円の100円の100円の100円の100円の100	IIX	11区1層	1区1層・1区1層	1K1M-1K1M-NK1M	H21 面 H21 面 4 小	1区1面・1区1面・1区1面		田区1層	I区1層	V区1層	皿区1層·F1P1	IKIM · NKIM	1 1 2 1 個	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	1	ケン	ケン	1区1層	1区1層・皿区1層・ケン	力不长	- 一	P 9	機士	P 6	X	IK	IK	VX
***		回転実測回転生剤			回解時次数、誤離台 11 12				, 10.2			口壳头盔 口户开始				完全奖測						りの関係表別		版片 天凯、 拓本 III III III III III III III III III			打獲有り、No.3		0	回航装捌		7と同一個体?		完全実測	、4と同一個体?				九田大郎、入京 2 万 回転会選 十四 5 日						、H81区トレ(2片) H18カマド(1片)と住居址間接合	回転表例 I 工程	DARWA X A WINDOWS			高級 一口転送船 一口転送船 一口転送船 一口転送船 一口車送船 一口車送船 一口車				国际误测 1	
ama	7F III	ヘラミガキ→赤彩 ヘラミガキ	(横位羽状)、櫛描横線文	ヘラミガキ、増指波状文	a. Th		、墨書「2」	90007	石回転米切り						○→付高台			、ヘラミガキ				ヘフケスリ、ヘフミガキ		(2)	ます ヘラニガキ→赤彩					回転米切り 右回転参加り		高台(欠損)	付高台 (欠損)				0	ち毛巾、鉛色(しびかけ) 医療ヘルケアニリギが引 特徴 (しょくに)		回転ヘラケズリ→付高台、旅船(つけがけ) 原				ヘラケズリ、摩耶路付(欠損) 3	作ヘルケンコ 有着(しいよびよ)				右回転米切り				日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本		の無合の日本年後、十日
· 光		ヘフェガキ→赤杉 ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	-00			暗又→黒也処埋	くサンガ土一田俗加盟	・ ハン・ハイー派 日卒年十二十二 一部 ウ	かっているのでは、これ	温色処理	暗文一黑色処理	ヘラミガキ→黒色処理	落盤(つけがけ)		ヘラミガキ→黒色処理	アナイン	K 1	ナナ	インドルナー トラッチャ	ノノ、ベンニルキナー・ハラニガキ	シン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ハンニがキ	機器	ヘラミガキ→赤彩						黑色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	果色 <u>処理</u>	無色の性 一次 一次 一	四人 一手口が指 新作品 () によれば) 無格点	高首(フリン・リン・単名) 検撃(しけなけ) 無格負	1851年(フロング)	福智(つけがけ)	施軸(つけがけ)	見込み円滑	1	F + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	+((),		黑色処理	暗文→黒色処理	ヘフミガキ→黒色処理	一、シュンナー・東西な年	八ケ目	暗文→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘフミカキ→黒色処理 坏部へラミガキ、脚部ナデ	The state of the s
接 等 第				最大層(03) (11)		(4.0)	(3.7)	(3.4)																			最大厚 4.3 320	7.78	(4.0)	(4.0)	4.0										(2.2)					最大厚 0.4 1.1						(3.9)			-
(題) 報 婦 (選)	141)	(6.4)		場大幅(18) 由大		4.2	(5.8)	(6.0)	(6.6)	(7.8)					(7.5)	7.5		0	0.0	0.7		(6.8)	(2)				最大幅 5.5 最大		(E (I)	5.0	5.0			4.0	7.1	e.)		6.2	(8.6)	(8.8)	(8.9)	-	(5.4)	(316)	(0.10)	最大幅 1.8 最大		4.5	0.0	(0.1)		(6.4)			
口径(長) 底谷				長大長(28) 最大艦	_	(9.6)	(11.8)	(7.61)			(13.4)	(13.8)	(15.0)				(19.0)	(14.0)		(144)	(23.6)	(0.00)					最大長 10.6 最大		(6.0)	(9.6)	9.7	15.2	(15.4)				(130)	(0.01)			(12.8)					最大長(2.2) 最大(\vdash			(23.0)	(23.8)	(12.4)	(122)	OTT.	
数数数	**	弥生土器 號	寄生土器 變	7年上帝 18	種子	上師器 坏 D1	± 1	: 15	傷	() ()	×	9		×	灰釉陶器 碗		# 1		N H	N HB		100				超	厳石	数数品 数条码 条数 人田	- 12	十二世界 大 口 1	*	Œ	塞;	SE 1	基 2	E 48	2 25						上面部 ログロ場 7	上師器 内能別十器?	文档陶器 長知巻	石鏃	0.1		上師器 路 41				上師器 坏 ?		1
通義名 No.		29			33																							25 88 88		2																		2 0			9		+ +		

19 19 19 19 19 19 19 19														T																																						
## 1	搬	IK	NK	1KhV 14.1K·2/4 1 IKhV	ПК	I K	IVK#U	IIK	1区・1区本リ	IK. IKNK.H11	IIK	INK	IN	I I N K I M	H21 5 2 P 35	X W E	II X	I区·模乱	H 21 5 2	NK	H 21 IVK	H 21 52	H 21 7 7	18	IK・ⅢK・H2カマド	試掘2住	IIK	IVK	47		ケン	IK·NKh7F	142F	77 F . 1 K	カンド			IVK	1区・1区ホリ・1区ホリ	IVIX	IVK	国区	日日	7 7 7	出	IVE	IVK	I N L	ケン	ケン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	- 1 A A A A A A A A A A A A A A A A A A	NK
19	壓	完全集閥、N.1 完全集閥	回転状態回転を強い	「転入場」、 11 日 1 区 1 層 (2 片) 日 18 カマド (1 片) と住居址間接合	元全集副日本中華	旧和次的 被片尖测	回転実測、割れ後被熱	破片実測	回転実測	回転実測、H2皿区1層(1片)と住居址間接合 1444年11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	被行決測、早期 生認如在提	Now the North Table 1997年 一部分語 下層に 新角 下網 Page 1997年 1	本語作 No 1	日転実測	完全実測	回転実測	回転実測	回転実測	回転実測	回标表创、No.16		回転次回回転分割	回転交通	回転失測	回転実測	回転実測	回転送過回転送過	三年 1985年 198	回転実調、大原2号		回転尖測	完全実別、	元王夫朗、ルペト30.1 会今生到 十つにかっ	7.五类的、7.4 F.机.2 同転実測		回転実測、カマド%。2	回転実測、H3W半2層(2片) H11(1片)H13%2(1片)カマド(7片)覆土(1片)と住居址間接合 回転な効 8, 17	日朝次朝, 30.17 完全宴選		表面凹径 4.3 × 2.3 × 0.55、奥面凹径 3.0 × 2.6 × 0.6				75 Mills (-)-1		左側に抉り、上下に剥離痕、軽石、No.14	右則及び下強即剥離投 スコリア	軽石、164	正面に削られたような平坦面軽石	地震語の大学	上端部に設打状の剥離、Na.3	No. 13
## 1 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 1	外圈	上半部ナデ、下半部ヘラケズリーヘラミガキ 鉢部ナデ、脚部ハケナデ、ヘラミガキ	へラミガキ ハケナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ	ヘラミガキ→赤彩	樹描斜走文、櫛描簾状文	ハケナデ	ヘンニガキ→赤彩 野神神の一 野神神・一	魯苗機線又、摩猫垂下又ヘラミカキ→赤彩。	ペラミカキ	信力を表入			ヘラミガキ	手持ちヘラケズリ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	手持ちヘフケスリ	ハフミガキ 手持ちヘラケブリ	ナポシ・ソン・ペッ	テンス・ステスプ	手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	6 神祇	ツン番○→回覧へフケスン	切り難し→付給台、複雑(つけがはけゃ)	施権(つけがけ)	施釉	切り離し一ケズリ出し高台、施権	成却~体部ヘラケスリ、木業板 成却・体担ヘニケデ!	ASB - 14日、ノンベン 所第一体部へカケブニ	ペラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	叩き込が、ハケナナ、トキ部ヘフケスリ 麻器~体部ヘッケアコ	ペラケズリ ヘンペン	ヘラケズリ、ヘラミガキ													
## 126	極	ヘラナデ 鉢部ヘラミガキ、関部ナデ、ハケナデ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘンサナー	小部へフェガキ→亦彩、関部ハケナテ へラニガキ→赤彩	ヘラミガキ	ハケナデ	〈少…ガキ→赤彩 「当台・ロンゴキ・井県 トラは十月 田田井井・	エキ部ペフミガキ→赤杉 ト半部アア、器国荒れるヘニナゴ	ヘララガキ	+777			ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	ナデ、暗文	ヘラミガキ→黒色処理			り チャラミガキ	ハンニルナ	ナデ・勝文	ナナ	ナデ、暗文?	ヘラミガキ			協権(つけがけ?)	施権(つけがけ)	施和	温楽	ハフケ人リ、アナ	ヘラケズリ、ナデ	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	ヘッケズリ、ナイ 日本を見 ナイン・イロ語を入	wekkが、テイハリ目後の) ハケ目 ナデ	ヘラケズリ、ナデ	ヘラミガキ													
	排										(1.58)	(310)																												325	717	78.1	210	96.2	121.6	126.4	134.2	128.8	370	370	009	280
# 1 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 1	高(原)	9.6									最大原(0.2)	(3.6)		(5.4)									(3.2)	(4.1)	(4.8)			(2.6)	in and a second		(2.5)	33.6							(29.7)	最大厚 3.7	0.0	品大国 3.5	4.6	3.0	3.6	4.I	5.3	4.3	20 K	4.5	5.1	5.2
本 2 大 2 大 2 大 2 大 2 大 2 大 2 大 2 大 2 大 2	斜土			(31.6)			(8.0)				1大幅 (1.6)	(2.2)		(12.7)	111.1		(12.4)	(11.0)	(1001)	(11.6)	(0.11)		(12.7)	(14.0)	(11.5)	(0.0)	(0.0)	(7.0)		10.00	(2.8)	0,0						9.9	(11.6)	最大幅 6.4	0.0	6.7 日本語 6.5	5.5	9.9	5.7	0.0	5.5	4.9	8.4.8	5.3	6.9	6.5
本 2 大 2 大 2 大 2 大 2 大 2 大 2 大 2 大 2 大 2	(長)	12.6	(12.7)		(18.9)						最大長(3.1) 服	(6.6)		(11.6)	11.8	(12.6)	(13.0)	(13.2)	(13.2)	(146)	(14.6)	(14.8)	(15.1)	(15.6)	(16.4)	(12:0)	(12.6)	(13.0)	(14.6)	(13.0)	(140)	19.8	19.9	(14.6)	(20.8)	(22.8)	(11.1)				0.0			9.4	9.9	10.0	10.0	10.4	10.6	11.4	11.9	12.0
		7杯鉢?	§ A?	簡型上器?		- نيو	day	5N	ng 14-	30			6.5							2 2 2			E	F E	H .	o- o		Ľ		GP -		8 B 1	(A1	E B 1	£ A1	A A I	K o	gg-r						Y	K (2 0	A	Y	A A	0	υ.	A
在工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工																				- FEEE 53 42																																
田	TO.		1111	TIR	N RE	35 3	S A	西南	1	· 55	, NJ	NJ		111	щ.	П.											466			保力	pt +	1 1	-	T	т.	17					4 14	- 14	· Ni	14	4	ti M	H	No.	to H	No	H	

		T																													_																			_	_						_	70"	
	田十編在	ケン	2 × ×	IVK	ケン	田区	NK	IVE	IVK	国区	田区	田区	ケン	7	ケン	ケン	撥土	1区3層	I区・カマド	口区3階	보고 K	1 1 3 1 1 1	11区3層	지수ト	가스ド	P 4	N区 2 層	IVIX 2 M	1	1区4層	1区4層		17区3番		1区3個・1区1個	1838	田区2層・トレ	1区2層	1区2層	113.2	1 1 2 2 m	後日	11人3個	2 N	1123	カマド・1区2.3層	1 × 3 mm	カマド	1 区 3 層・IV区 2 層	1区2層・カマド	11区3層	1138	7 × ×	カマド	カマド	IVK3FF	田区3層	1 区 2.3 層・11 区 3 層・11 区 11 2 層・11 35 No. 4	IVIX 3 mm + 11
	in the second se	欠損状態で使用?	No. 19	下端部と正面に軟打痕、No.11	右側の剥離は抉り?		NO.12	左侧抉り、石及心装面は平坦面、右上部条痕、10.10	石間と上下強部に破打状剥離、表現及び左側擦面、1/6.9	内侧に決り、終石、No.8	数数有り 9、No.6	国側に挟り、止曲側られたような画、髪右、No.7	同囲に破打状の剥離、正面削られたような条痕、被熱有り?	両丸造り、関篦被關抉有り、蘇身長 5.4、頸長 2.9			貝観水費。 口紅作器	日代大郎	と日本の	九世天朗 李人在劉 N. 10	九三大四、10.1.10 (4.人分割 12.0)	なる作績 Man	77世天内、18.5 ひかかか 17.5 かかかか 17.5 かかか 17.5 かかか 17.5 かかか 17.5 かかか 17.5 かかかり 17.5 かかかり 17.5 かかかり 17.5 かかり 17.5 かり 17.5	//(上大的) N. 1/ 学会企画 w. 10	元王夫内、10.1.9 会 4.4.5 m - 3.5	7万土 天明 1 1 1 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	た王夫郎、NO.11 少な分割 11.10	元王夫郎、M. 10 小公会事業	70年次四	元王美國、NG4 少公在第一年 5	元王类d1、70.3 国机会当	日本大田	回転失過回転集測	完全家期, 56.7	完全奖測	完全实測、No.2	完全実測	完全実測	回転送剤	元五类例、M. 1.2 同标字测		1000000000000000000000000000000000000	お全実剤		完全奖测, No.15	回転実測、No.8	回転実測	破片実測	被片尖测	破片実測	吸片実制,No.13	収1 夫郎 は上生難 15-21	版片実開、No.22.27	破片実測、No.20.23	回転実測, No 24.25.36	回転尖測	完全実績、No 14	回転災到	九主失的 完全実測
類 類	※ 顧																十位子田回社 公田 D	カードが当転が到り	石田県水勢り	古田内水野の大田市外加り	古世代があり 本国情 公古	七回に終わり	も回転があった。	な口情が占り	石田権があり	古四本代別シ	石回転水割り 七回転を石口	右回転外がある	石田市公立	右回転水切り 日報「十二	石田転送のフ、銀油「木」回転参加り	古代大学の大田田市参加り	カロを必りり→付高台	右回転糸切り→付高台	右回転糸切り→外周回転ヘラケズリ→付高台、黒色顔料付着	右回転糸切り→付高台	右回転糸切り→付高台	右回転糸切り、火棒・	右回転來切り、火俸 七回杆炎治り「仕古人 故幹	占回転送が、 10回口、高在 右回転送がり→付着会 複雑	福智(しただけ)	福催(つけがけ)	右回転糸切り→付高台、縮釉	回転糸切り→付高台、施箱(つけがけ)	右回転糸切り→付高台、施釉	ヘラケズリ、ナデ	ハケ目		半行叫等	#\$P\$#	本日が出	が記され	平行印改	平行叩き	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	回転ヘラケズリー付高台	別語 へはいは、 本は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ヘフェガキ→赤彩 ヘラニガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩
	絕																											暗文→黒色爪理				職文→黒色処理			黑色処理		媒体 一	大學	次降 斯佐拉			加格	施輪、重焼痕	施輪、重焼痕	施釉	2. 经股票	ヘラナデ		当兵根→ナア・	出来版→十十	当気後はノイ	当县栋(同心四文)	当具痕(同心円文)	当具痕→ナデ	当具痕→ナデ	and the same that the fall	に蒙~説明諸雄	ハフェルキ→赤杉へラニガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩
1	* ●	260	760	83.5	020	760	470	890	535	750	610	1300	1300			-	1																																										
		3.6	8.0	5.7	7.6	0.0	5.9	4.7	9.2	0 00	6.2	0. 49	4.0 4.0	原均平 0.30		0.14	(3.8)	00	40	58	3.7	3.9	6.60	3.6	40	3.4	e er	(4.0)	3.6	3.7	(3.7)	(4.3)		6.3	(0.1)	(6.3)		0.00	(40)	(2.0)					2.6														
担良	既 径 (知)	11.1	0.7	1.7	9.6	80	2.6	8.4	10.1	2.6	10.5	140	W fade 2 o	5.4 5.4	4	A 88 0 50	(3.8)	4.6	4.0	4.3	4.4	4.2	4.3	4.6	4.9	65	4.7	4.2	5.3	5,4	(5.2)	(4.8)		7.6	7.6	8.8	0.0	2.8	89	(7.2)			7.0	(2.8)	7.0	1000	(7.4)								100	(8.6)		3.4	9.7
(0) 0)		12.2	12.4	196	19.7	13.8	13.8	14.5	15.6	16.6	17.3	180	_	9.0	_	市28 1 02	╀	9,5	2.6	10,0	10,0	10.3	10.3	10.5	10.6	10.8	10.9	(11.4)	11.8	12.7	(13.0)	(13.2)	(13.4)	14.7	(14.9)	(15.0)	(15.0)	(16.8)	(12.8)	(13.0)	(13.0)	(14.0)			12.6	(25.3)										201	(23.8)	(Second)	
38 編 88 形	7-80 6667	4 職物	1 th	九郎 館物口	九路 額智力	石器 編物石	石器 編製石	石器 編物石	石器 編物石	石器 編物石	石器 編物石	石器 編集石	400 444	0 祭製品 祭	は独立	報節日	十年時景	上飾器 坏	土師器	土師器 坏	土師器	上解器 坏	上師器 坏	上師器 坏	土師器 坏	上師器 坏	土飾器 坏	土師器	土師器 坏	土飾器	上	土師器 坏	_	平 路場	十二	出版部	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	公	灰釉陶器	反舶陶器	灰釉陶器	灰釉陶器	灰釉陶器	灰釉陶器	反軸陶器 目	Times -	出土の		が発	が出	_		須惠器	須恵器	※ 単語	須明語 日本語品	次在直路		弥生土器
遺構名 No.		H 9 47	76	102	5 15	52	53	54	55	56	57	200	202	09	.9	69	H 10	_	80	4	5	9	7	80	6	16	11	115	15	14	15	16	17	118	15	77 0	200	23	24	25	26	27	28	55	36	200	35.00	80 80	2 6	38	37	38	38	40	41	42	44	45	46
_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	-	_	_	_	_	_	_	-	_	-	_	-	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	$\overline{}$

											_				_									_		-									_	T					_	_		_				
\$ 88 + 3		1区3階	10.1 2 12.13 日 12.13 日 12.13 日 12.13 日 13.13 日	1区4層	1 K 2 MB	カマド	後十十つと、年間17年	カペト・政策し仕試験工作・試施工件	With the second of the second	優土	湖	H ++	₩±.H13	搬土	Y DR	対緒り住	覆土	カマドホリ	1	カマド	選手	政務 1 任 獨十	2000年十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	20T	H ++	(業土) I 区ホリ・Ⅲ区・カマド	瀬井	(A)	1	機士	瀬上.	カマド・H 13 細十	1 世	H 22 IIK	試搬工住 七乙以上	ガントが5 優土・試視U住	カマド	カマド・H11 萬十 計画11	は無丁作品の田は郷丁作	极土·H11	試鑑U住工民士出	福士をから	IK	カマド・H 11 キマド	がえた	試掘り住	政権之任 コ区 12 瀬	NK·H877F
**		回転実測	展面数3、上部に破打痕	上下帕棒欠損、輪二重、軸棒最大径 (0.4)、50.1		完全実測同年の副	国际实现	日本大説	完全実測	回転集制	四京 法被 四京会	回転失調	回転突測	元全実測	九生夫朗回転集測	完全英測	回転来測	回戰夫國 宗全建劃	完全英調	回転換測	破片契調	元主夫の同転表測	完全奖訓、大原2号	回転表謝・「阿っ三	国転表別、人味とう	回転実測、H9カマド(16 片)と住居址間接合	回転突測	四板英調	破片英測	回転実測	回転送過 計士	双八夫尚、伯 张片実測、拓本	破片実測、拓本	破片実測、柘本、龍文後期	极行美凯、拓本、飓又俊娟 升径 0.15	回板夹测	完全奖測、加.1	元王英説 回転虫淵	回転失測	回転実測	四颗块部四颗块部	回転実測	回転実測、H 16 ケン(1 片)H 20 カマド(4 片)N半(1 片)と住居址間接合	回転決節、H 3 W 辛 Z 瘤 (2 片) H 9 ケン (1 片) と任居垣間接合M 2 回停虫論	日本大郎 日本大郎	极片误测 回标准测	完全実調、加.1	回転実測
	æ	梅福斜走文、梅插簾状文 植描斜非文(椿位刻状)				右回転糸切り 右回転糸切り			0		回転氷切り回転氷切り→休園へラケブコ			右回転糸切り回転糸打り一件着ぐ		3	在	刃り→付高台、暴書「?」			最著 1.9.1 大回転多切り		付高台、施釉(つけがけ)	簡単()ひけがけ) 回作ヘッケアニ→付声か 指袖()はがけ)		ヘラケズリ		ヘラナデ)ii + + **	、凸蒂貼付	櫛描波状文				右回転米切り 十回門を担い	転ヘラケズリ		切り離し→存縮中(欠損)			下半部ヘウケズリ コイナニ・ペーケブニ		調文、ヘラ指山形文、ヘラ擂斜走文、貼付文、梅描簾状文			手持ちヘラケズリ、ヘラミガキ
· 浴	Z 47F	ヘフェガキ ヘラミガキ							***	族(六) 十八, 田 各 至 田	ノケー派巴珍年ナデ→国色処理	ヘラミガキ→黒色処理	and the late was	階文→無色処理 辟文→異色処理			ヘラニガキ→黒色処理	、ノング 派した4 暗文 夕果色 処理	开十	ナイナー語文・ロッカー・ロックは、	パフェルキ→巣田処理			級番(シケかけ) 搭盤(シナがけ)	7 C 4 C C C C C C C C C C C C C C C C C	1	NY B	ヘラナデ		9	1+ 1-	当月痕→ナデ	ヘラミガキ				ナナ→黒色処理田名加盟	※ころを ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	雅文	シンスト ボロな年 衛生(つけがけ)	施幣	下半部ナデ 日本・十三(ハケ日縣)	146 . 7 3 (712 H7X)	ハケナデ、ナデ	ハラミガキ		ヘラミガキ→黒色処理
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	新 H (水) (xi		最大厚 3.6 715	厚 0.35 3.2	0.55	3.7	(3.8)	(3.9)	(3.4)	(4.3)	(4.4)	(4.4)				(8.2)	(2.3)				1.4		(4.0)	(3.0)												(3.7)	(3.4)	(5.4)									(4.8)	(4.8)
/ (里) 乾 他	H		最大幅 8.4	幅 0.33	0.63	5.6	(5.4)	(6.4)	5.4	(6.4)	(6.0)	(7.2)	(0.0)	0.0		(10.0)	(80)	9.9	7.2		4.7		(0.7)	(7.2)											厚 0.07	(4.6)	5.2	(0.0)	(8.0)	(8.2)		(0.7)					12.9	(10.0)
(金) (金)	1		最大長 18.8		残存長 12.2	(11.2)	(11.4)	(11.6)	(11.8)	(12.0)	(13.3)	(14.0)		15.0	(15.3)	(16.7)	(194)			(15.5)	11.2	(13.6)	(13.6)	(14.4)	(11.6)	(20.8)	(22.4)	(23.7)		(18.6)	(10.0)					(11.7)					(13.0)		(22.0)	(35.0)	(14.5)	(12.0)	(14.2)	(14.0)
線		文 版	展石 B1J	1000年出		1 D							1 D D 2	A A S	96 A 9	88 Y 8	86 A 1	M A 2	6 V W	× ×	B	~ *					1000 A B B B	口7口簿 B	口7口號 ?	差 別 A	(泰	1834	歌	a 世 地	第金具	1 D 1	2 0	K A1	a A 3	施 本 な な な な な い	继		ロクロ製 B				年 20日	TI TI
No. 職				51 鉄製品		2 上智器				2 上面器			10 上路器				20mm CT			19 上部路				25 灰釉陶器			29 十二階級			32 上智器 33 治世界		35 須恵器	36 弥生土器	38 編7十四	39 解製品	1 上解器	3 十個器		_	の 上国器 4	_				13 弥生土器 14 弥生十器		2 上海器	⊣
遺構名	H 10	01 11			11.11	H																														H 13										H 14		Ī

	± 33 + 33	1 18	IVE	IN K. Z. M.	H N	1 1	IVE	□医本リ・H81区	IK	IIK · IIK · IVK	11 × X	7 × V	1 K - WG - WG - K - + + 7 K - HEOF - D 2 U 17 K -	15 45 15 17 77 77 11 200 11 77 対域を用・Don 11 77 対域の分割を	力	INE	カマド	IK	床上	ПК	床上	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	11年	ケン	IX	山区	IX	川区	機士	IIIX	NR	イン	14 N	IK·Ⅲ区	本リ	II区·ホリ・H3W半制	1 K · II K	M 2 2 200	日本 日	国区 2 層	田区 2 層	Ⅲ区2層	国区2層	国区2 mm	日 日 ス ス 日 田 田 区 ス ス 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	国区区	国区2層	P 2	Ⅲ区2層	国区2階	IVK5 m	日本 2 個	□区3面	国区2層	国	国区2層
	**																			1. 四	MCD.																																			
		用中山区	回転米部回手投票を	回転実測	回転実測	回転実測	回転実測	巨壳米园	回覧末期	日本代表 日本代表	回転送達	回転実施	回転実測	完全実測	回転実測	回転実測	破片実測、柘本	表裏刺離、孔径 0.1	元形、孔径 0.2	元が、九傑 U.3、解台、No.3 無限ヘルン エナモ男爵 書会 200 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	同国、ノスルイ政が後、原接孔径 D.1 下部誌打在右り	LIPPACE STATE TO	平造り、両関	回転実測	完全実測	回転実施	回転実測、拓本	板片英調、各本 异中中部 扩土	取7 夫別、右今 毎十字書 - 左木	完全実測	回転実測	破片実測	回転実測	回転実測	回転送測	回転米湖回転水道	回転送送回	上部欠損, No.13	下部欠損?, 侧面加工痕、No. 20	No. 19	正面に剥離面、No.17	No. 21	右因約購、70.4	下部設打痕、右側多痕塔傷 № 30	No. 10	上下编部に敲打、No.8	No.22	左側剥離面、下部は敵打の剥離	未提供の傷、No.25	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	正面下去了。180.00 正面平坦广楼面 No 24	多孔質, No.14	裏面剥離、上部欠損、No.36	表心酸打有り、No.11.23	F0.2/ 正面禁面、No.26	No. 5
	H 25	4	・ノノバノ、、ノニルコ 手持ちヘラケズリ、ヘラミガキ	手持ちヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ ・ニュゴキ	ヘンドルナ ヘラニガキ	、シンスラ、、シェルナ 底部~体部ヘラケズ:1	11	ドナ		ヘラケズリ	底部~体部ヘラケズリ	底部~体部ヘラケズリ	ヘラミガキ→赤彩	ヘラ描斜走文、ヘラ描平行線文、ヘラミガキ→赤彩							回転糸切り	ナデ、ヘラミガキ	ヘフニカ∔→参参 森神学由十	数量数分/ 大	即相収が入、ハフミルナ	櫛揺丁字文、ヘラミガキ→赤彩	右回転糸切り		題書「?」	ヘラミガキ		ヘクニカチャケート	ナナ																				
t		ガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	トナナバ	イナインコンドキャ	、シェルー	1	ナナ	ナデ		ヘラケズリ、ナデ	ヘラナブ	ヘラナデ	ヘラミガキ→赤彩	ハラナナ							ヘラミガキ→黒色処理	ナテ、ヘラミガキへもこれ・一本%	ハンドム十一手参	ノンコンコ		ナナ	黑色処理	黑色処理	黑色処理	14	4 77 11 11 11 11 11	ンドント	ナナ	自然釉																			
	按器器																	0.0)	000	50.3	376																																		410	
	(版)	(3.4)							(13.1)								日十四(05)	0.6	9.0	2.3	4.4		棟厚 0.25	(4.1)						3.7							10	最大厚(2.7)	3.5	1.7	2.4	3.1	3.8	3.7	3.6	最大厚 3.4	3.0	23.00	3.7	3.9	3.8	4.5	(3.1)	2.9	4.3	3.5
挑	底 径 (焰)	(0.6)	(10.2)	(10.5)		(101)	(12.0)		7.4					7.0	(0.7)		3-4-45 (0.0)	0.0	1.4		5.1		身幅 2.6	(9.8)						5.5			(146)	(14.0)		(9.9)		最大幅 (4.6)	4.4	1.0 0.1	0.0	5.0	5.4	2.0	6.5	成大幅 4.5	7.0	0.0	5.4	6.1	6.1	5.0	(6.5)	5.4	5.5	8.9
	日 径 (長)	(15.3)	(15.6)	(15.8)	(14.4)	(16.4)	(20.8)	(23.6)	(16.2)	(11.0)	(17.2)	(18.8)	(19.8)		1000	0.50	日本臣(08)				12.1	残存長 9.9	1000)	(13.8)	(199)	(102)				12.0	(13.2)			(153)	(000 4)		(8.9)	最大長 (8.8)	8.4	4.9	100	10,0	10.1	10.1	10.2	最大長 10.3	10.6	10.6	10.8	10.8	1111	11.2		_	12.1	_
188	器	林田	本田	五	II X	\$ d	1 25	恭	凝	·~·	- 6	o	M A I	8K 8	8K 8	销档	Si H	1 14	H.	紡錘車	散石	不明								1 th	c- o	74 ×	10 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	- #	2 6 泰	梅	一	簡物石 A	報約白り	新わり A 対象化 A	部都元 A	編物石B	編物石 A	編物石 D	種物石 A	雑念白った	整約在 A 前後れ ロ	雑物石 ロ は は は は は は は は は は は は は は は は は は	編物石 A				着約右 A 消を右 C	編物石 A	編物石 B	編物石 A
-	No. 数		2 工師器								14 上師器											26 鉄製品			3 条件十器																														30 石器	
-	品類心 N	H 14 4							1	-			-	7 -	1 1	- 6	. 6	- 62	61	6/1	64	24	+	er u		7			+	H 16										-	_	-	1	1		1 6	7 6	2 6	2 2	2	52	63 6	7 6	1 61	ń	9

2 大戦	19 19 19 19 19 19 19 19		田土藤存		三	脚 2 公田	四 2 公田	田区 2 職	国区2番	III X 2 AB	11人2 6	国区 2 層	国区 2 層	国区 2 層	1区2層	盟の対	1000円	11人2個	200	国区 2 層	国区	IV区本リ	11天2 個	7, 1	T I	IN THE TREE STATES	15.15.77.16.11.15.18.19.15.18.7J.h	1区下1	1 0	IIK · IIK FL · NK	IIK · IVK		カマド	模士	I 区・H 21 ケン・試掘 AB 住	工区	1区2階	H -	7 × 7	P 1	IV医本リ	77	TK TK	1 × 1	IK·NK	57	IK·H20S#	ケン	IIX IG 60 mm	NG . 7	NA	NA NA		IK	IR	ライ田区の園		* - Julian	IVIX - 7.	INE - T. I K - INK MR F.L
125 67 67 67 67 67 67 67 6	# 1			能够少。 片面岩雕 No 19	NAME OF TAXABLE VIOLEN	摩波した刺鰈面、% 22	一番 第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	1950mm、11,101,111、10.00 1010解1分析行 75,01	DALMERY ORGEL INCOL	19 14 日日 14 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	MANUAL ON WILLIAM	伏リア、M.2	DMC = 7 , 101, 23	報告, No.6	74	挟りと膝き?Nc.18		/ 様本後書詞 の最高の日	はひめ間に、約階で対して	FITTIN WULLWELLE NO. 1	1寮由、条張様の傷有り	以 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	2.大克	2.次3.	京 学 公 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	2.大型型	と 本部 1 か 4	悪い。	55支渕	6.实测	医 按测	5.宾澳洲、虎滨山1号	5.实测	5.実測、転用硯?、大原2号	2.奖测、丸石 2.号	5.英捌、虎璞山 1号	E 失門、W.D.	MACRA HE I 区 1 圏 (9 円) 日 8 1 区 ト レ (9 戸) ア 在 甲 4 町 茶 今	(大) (10 10 10 1 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	5.实别	※有り、上部欠損、正面と下部載打破有り	量 3.2、按厚 2.53、构差込長 16.3、柄差込幅 14.6、No. 1	(2) 第	5.实测	5.失测	2.失测	2.実測	1.大河	5.失成	京 一	大阪	(東海	5.光冽	(安)	(大)	1. 大阪 2. 日本 2. 日本 3. 日本	5.集測	5.失测		回転実測 完全実測
12 12 12 12 12 12 13 13	##		*			143		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	6.98		- +	4 th		右側	No.3	- P	1 9/2	100	130	EACH I																					枚票	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				310	加加22H. 卡拉				ガキ			8回転ヘラケズリ、施釉			り、施釉(ハケ塗り?)			ヘラケズリ 回転 ヘラミガキ 完全 完全 完全 完全 完全 完全 完全 完
The field The			楓																								. 400									* 1	14	14		**			- 公理		. 如理		開東の発音	※ はなりません 単名 日本	ガキ→黒色処理		ヘラミガキ	14				0,00	ハケ塗り?)	11		
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			阙																																																									
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		養) 超	3.5	4.0	2.5	4.1	4.1	4.7	4.	4.6	2.4	4.3	177	200	3.00	4.7	4.6	30	0 6	0.0	1 0	4	3.6	3.7	(4.1,	(5.6,	(5.8)	(5.6)			(5.1,		,	2.7					1	最大厚 (5.6		(4.1	(4.6)	(4.1				(3.5)											
10 10 10 10 10 10 10 10			師	5.0	6.5	6.7	6.2	7.1	6.0	7.0	5.5	6.2	0.00	0.0	9.9	7.3	7.3	5.9	11.7	11.2	3.0	43	4.7	4.6	4.1	(2.0)	7.1	9.9	(7.1)			(7.7)	(4.4)	(4.4)	(6.9)	0.50		(31.6)		5.0	大幅 (4.5)	72 MI 11.0	(6.7)	(2.8)	(6.4)	7.0			7.0			(8.8)			6.2	(7.1)				8.2
0.4 m 4 () 4 () m () m 4 m 4 () 12	の 1 日本 1 日		径(長)	12.3	12.5	12.5	12.7	12.7	12.8	12.9	13.0	13.0	13.2	10.0	13.2	13.9	14.2	15.7	14.5	147	0.0	2.6	9.2	9.3	9.4	6.6	(13.5)	(13.6)	(13.8)	13.4	(16.6)	(16.8)	(17.0)	100	1200		(23.6)			10	(9.0	1.02	(13.0)	(13.3)	(13.4)	(4.4.0)	(14.3)	(0.01)	(13.2)				(144)	(14.4)	(10.2)	8	(14.0)	(11.6)		_
	\$P\$ 100 000 000 000 000 000 000 000 000 00	1		a物石 D	品物石 A	智物石 B	編物石 A	罪物石 C	編物石 A	開物石 C	電物石 B	電物石 C	重都石 B	HT071 D	第初白 A	電影石 B	編物石 A	開物石 C	5石・蘇石	1 14	K D1	K D 1	f D1	f D1	f D1	f D1	ê A 9	@ V 9	& A 9	6 V 3	192 (GP -	SP 45	2 =		10000000000000000000000000000000000000	N签 A	1筒型土器	284				F C1	F C 2	F C1	10 4	6 A 3	8 A 1	I A I	6. 7	5.	F C	6· 4	82° -08	0-	Ç	II work			_

1	口 後 第 口	所 体 (用)	(層) 純 袋	排申報	18		10000000000000000000000000000000000000	五
	1			F # 7	→単色処理	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
級 A 9		8.9	(000)		・ ボロなな ナデ	国教外返り	元主美捌 综合企业	S* · P 2 · H 19 1 K
遊		(7.5)			施袖(つけがけ)、重焼痕	回転ヘラケズリ→付高台	ル土火砂	# # # 0 2
ロクロ髪 A							回転尖刻	1161日 : 米5
D7D数 A					下半部ナデ	下半部ヘラケズリ	完全実測	カマド・N半 H2IK1層H16 IIK・WK
は D 1						下半部ヘラケズリ	回転実測、H13 I区(1片)と住居址間接合	カマド・H 16 ケン
発用り					いれ、ヘフナナ	叩き、ヘラケズリ	回転実測	カマド・ラ7・H 16 IV区
D 7 D 整 A	(24.8)					叫き、ハケ目残るナテ	回転実訓	S # · H 19 1 ⊠
ロクロ髪 ?		(8.7)				ナドゥヘルケイニ	回数次到	S#·H19 1 K
0.7口號 ?					7-7-	アンド、ベンスの下半部へラケズリ	回転失例	瀬士・う7
~ 磁					当具痕、ナデ	和日	拉	11日
機or商		(6.7)			赤色顔料付着	ヘラケズリ、ナデ、ヘラミガキ		III Z III
上器片円盤	最大担	最大幅 3.8	最大厚 0.75		剥落により不明	ヘラミガキ→赤彩		十十三 勝
整石· 敲石		5.5	1.6	98.5			全体円滑、正面影打痕	1 #12/2
鉄廠	残存長 9.7		競身厚 0.23				两九造、閱燈被,關抉有D頭長44 No.1	+
载 古	(16.5)				ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩		国区・ケン
444	(10.0)				ヘフニガエ→参参	ヘラミガキ→赤彩		国区・ホリ
1 1 1 1 1	(0.12)	(10.01)			ハフミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩		IK
が上上路 場 端本十路	19.3	(0,01)			77	ヘフミガキ→赤彩		IIK
W 16	(16.0)				ナイン	學描版状文		IVK
《 册	(4001)	6.4			+7///	御油改れ、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		国区
4 衛		F-00			+7777	ヘフミガキ		IVK
4 核	(165)				\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	●福祉を表する ●福祉を表する ● 本力		IIK
N +60	(100)	(10.5)			ハケナボークランガキ	ロ様及の体部開催波状又、頭部懸循镰状又(10 本) ヘニンガナ		Ⅱ区1層・H18 Ⅲ区
180		(0004)			十八二十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	インドルト 上来館士男	お金英調	国区·IV区
1 1301					// ト半部へラミガキ→赤彩 男面養わデいる	ヘンスルイ、上午時示形 < 54世の行政・ 「本館へコンゴチ、土別		IVIX
180					ナーザ・ソスケー がか、器団がたこと。	(7個年1100条 : 、 7個和10人、 4十号、 7 : 34十事件	教力表別四十五十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	IVK · H 17 I K
刀子	全長 8.0	身幅 1.0	棟厚 0.22	5.9	S. A.	阿田以際人、・・ノニンナー学参	200 日	III.
弥生土器 鉢	0.6	4.5	4.9		ナデ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ		工程の配
が生土器 高水 ?		(27.4)			脚部ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	18
194 A					ヘラミガキ	櫛描斜走文(羽状?)、櫛描横線文	破片実測、柘本	
武士	14.0	6	0 00		ヘラミガキ	櫛描羽状文・櫛描横線文	破片実測、拓本	IM
の題の題か	14.6	9.0	7.07		ヘフナナ、ナナ、ヘフェガキ→弥紗 ヘニ+ゴ +ゴ	ハケ目、ヘラ三ガキ→赤彩 	完全実測、No.1	I 区 2 備・V区・ホリ・カマドホリ・H 22 1区・国区・V区
***	19.8	3.7	6.0		くし、ハントントントントントントントントントントントントントントントントントントント	ベンドルナーボット イン・ゴイ・ボート サード	元全美期,16.2	皿区2層
大 恭	(14.7)	3	0.0		ハンミガキー亦参	ヘフニガキ→亦彩 ヘラニガキ→赤彩	元全実制	IC床・ケン
網					ヘラミガキ	くう。ガキー赤彩	三 全 会 全 新	IIXX
高坏 ?		(17.9)			関係ハケ目	ヘラミガキ→赤彩	の記念部	山区の面
台付號	13.6				ヘラミガキ	櫛描簾状文、ヘラミガキ	完全集團,Mo	TIES IN THE
· 日		10.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	
自神					響家	ヘラミガキ→赤彩		IV区床
9 25	(181)	0.5	(36)		ハケ田 ヘニン 北土 士歌	ヘラミガキ→赤彩		ケン・H 15 1区
弥生七器 合付鉢	(101)	4.0	(0.0)		ハンドルトレボタントナイ マン・ガオ ロ第一部独士党	ヘフケスリ→ヘフミガギ、ヘラミガキ→赤彩 単位番井解井々 ヘーニガキ +県		NK 1 M
	(25.4)				(シンノ・ソノ・、ノスター、口縁・斑叩が参 へラミガキ→赤笏	Xiの間面無休人、、ヘンミルナ→亦参 ヘードガ士→赤珍	元王美朗、焼成俊の学孔作り、io.1 回転分割	1区1層
祖太					ヘラミガキ→赤彩	、シュント・ボターン・ボターン・ガキ→赤彩	国际次的 回标的日龄用利田 9	IIK
高坏					坏部ヘラミガキ→赤彩、脚部ナデ、ハケナデ	ヘラミガキ→赤彩		MK 188
影	13.1				ヘラミガキ	櫛描波状文、下半部ヘラミガキ		170.1 個
選べ 単	(13.2)				ヘラミガキ→黒色処理?	頸部幯指簾状文~幯措波状文		
8K 8	(14.0)				ヘラミガキ→黒色処理	櫛描波状文、頸部櫛檔簾状文	回転換測	IIX
以後	(140)	0.5			ナイナくノルガキナル・ボート	南部設状文、顕宗衛指簾状文 + 1 。 ニ・エキ		皿区 1 層
(番)		(6.4)			ヘラニガキ	ソケ、ヘンニルナ	光光失過回点分泌	NK
搬		7.0			ナデーヘラミガキ	ヘラケズリーナデ、ヘラミガキ	ica Se	NE I
劉					ヘラミガキ	櫛描羽状文、頸部뼥描橫線文		IVIX 1 個 ケン
***					ハケナデーヘラミガキ	櫛指波状文、頸部櫛指横線文		1,1
W 1		400			ヘラミガキ	櫛鴣羽状文		工区
EH 18		(13.4)			ハケナデ→浄彩	ヘラケズリ→ナデ、ハケナデ→ヘラミガキ→赤彩	No. 10	11区1層
26F K		(10,01)			ファ ヘラ:: ガキ→暦線トロト未安	ヘフェガル、赤形白油 ************************************		養土
					CANTON THERE	のはの見を見られる。 は、 一般の	TOTAL CONTROL OF THE PROPERTY	m 17. 1 19.

4 3 4 5	■	覆土 IK・ケン・H 23 IK 3 層・き9 IK 1 層	IK IK	1区4層	1区5個	1	IVE 1階	IK·IK·IK	I K	1区5層	1 区 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国	as you o' lill	<u>-</u> +			目区 国区 3階	新1区・ケンログ4回、第1日	11公4個・利11公	IVK	10000000000000000000000000000000000000	17.7 E	第125	11区3層・新11区	加いる画	口区4階ケン	新工区・新工区	新工区	IIIX	新工区・新工区・EIV区	11次6層		五百五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五	ENK IIK 6層	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	季 1 × × × × × × × × × × × × × × × × × ×	皿区本リ
*	8	被使性激光 指本 被使性衰弱、活本、源本学期 or 前期 汇据形、据的心境损,为任 0.4、No.1.0中	上加大镇、正在国上城村镇、18.1.1 回标埃灣	完全実調、Nc.3.4 完全実調、Nc.6	完全実調、№ 11 回転実調、№ 12	破片埃瀾 完全埃瀾、No.12.5	完全奖制、% 1.2	回転集測	職業が内 正真中央部団状の敵打痕、上部欠損	上下左駆中央部隊打獲、No.10 正面中央部に円滑な整面、上下面敲打簸、No.9	木質有り, No.7 No.8	回転実測	回転表調	回転実調破片実測	被熱有り、上下欠損、全体円滑、低面数4	回転英調 回転実調、NC 27	回転実測 完全表謝、処3	完全実測、No.5	回転実調、26.9	回転突測	回転奖測 完全集團:N. 8	回転実測	完全実制, 26.7	破片尖削	四年表現、20.4	回転来測	四個美潮	回應我選	回転交割	1975年 19	回転失調	完全実別、No.6 同社会選	山縣 次 朗 完全 実 別 、 加	破片実測、 拓本 同些生態	Distriction The state of the st	回転実測、拓本
				ミガキ→赤彩 ミガキ、櫛描波状文、櫛描簾状文(6 本2 連止)	(2 達止) 櫛描斜走文(7 本)	犬) 頭部ヘラ播料走文	ハケ目、鬱描弦状文 ヘラミガキ	ヘラミガキ、櫛猫横線文、籐猫垂下文(11本) [5]			N Z	右回転糸切り 正粋セヘニケブリ	、ヘラミガキ	右回転糸切り ヘラケズリ 報		→黒色処理	手持ちヘラケズリ 手持ちヘラケズリ、ナデ	→黒色処理	非特ちヘラケズリ ヘラケズリ、ナデ、ヘラミガキ ト	トラケズリ			ヘフケスリ、ナテ ヘラケズリ、ナデ		付高台、施釉(つけがけ)	手持ちヘラケズリ 日本 マラケズリ フラケズリ		ヘラケズリ、ヘラミガキ トラケズリ		ヘラケズリ ナデ 日		ヘラケズリ、ナデ	ヘラケズリ	司 は、ナイ ヘ		帰借改状又、ヘフミガキ
4		+2"//	ヘラミガキ→赤彩 ヘラミガキ→赤彩 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ハケナテ ヘラミガキ、赤色顔料付着 ナゴ	ナナ ヘラミガキ	ヘラミガキ ハケナデ、口縁ヘラミガキ→赤彩	ハケ目→ヘラミガキ ハケ目	ヘラミガキ				黑色処理 蘇文→里名処理	サンボート	ナデ、ヘラミガキ	田田田田田田田田田田	ノブ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	## N. 1	ファ→黒田処理 ヘラナデ	14.14	ハフナナ	7.4	ナデ→施釉(つけがけ)	1k 1k +k	ヘラナデ(ハケ目)	ヘラナテ(ハケ目), ナテ ハケ目→ナデ	ヘラナデ	IK IK IK	14	ヘラナデ ヘラケズ!!. ナデ	ナデ→黒色処理、孔あけ	ナデ ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキー赤彩、脚部ヘラナディュニギキ	ハフェルナ
20 日	4	19.3		(8.7)				356	(2.7) (136)			(4.5)			(2)	(4.7)	07	4.6	3)		97	(4)	63	(厚)		7.6							12.4			
報 林 (第)	E	最大厚 0.6 (3.4)		(8)				最大原 4	(2)	. ~		(4			載大厚 (3.2) (3.6)	(4,	d.	4 0/	(2)		d.	(4	. 43	0.8()									112			
州 世	H	最大幅 8.6	0 0	5.5	0.0	i	12.5	最大幅 15.6	(5.0)	9.7		(7.2)	(7.4)	(0.0)	版大器 (5.9) (10.8)	(13.8)	9.6	10.8	(11.6)	(00)	3.8			3.8 (矩径)	(7.4)	16.2				(2.2)	(5.3)	5.6	8.5	(4.6)	(5.6)	1000
(8) (8)	4	最大長3.4 (8.9)	(10.8)	(6.6)		(26.8)	(27.2)	最大長 10.3		10.9	X44 X 9.1	(14.1)		į	(11.7)	(12.8)	13.6	14.0	(17.1)	(15.2)	7.7	(9.3)	11.3	5.5(長径)	9	(20.0)	(15.6)	(16.2)	(18.0)	(24.8)			15.2			
遺構名 No. 器 種 器 形	H24 19 等生土器 整 20 等生土器 整 21 等生土器 整 21 等生土器 数	編文上器 石器 石器	H 25 1 弥生土器 鉢 2 弥生土器 鉢 2 弥生土器 鉢 2 弥生土器 鉢 2 弥生土器	沙生上路 弥生上器 弥生上器	弥生士器	% - 公 - 公 - 公 - 公 - 公 - 公 - 公 - 公	第二十 第二十 第二十 第二十 第二十 第二十 第二十 第二十 第二十 第二十	弥生土器 石器	力器		17 鉄製品	対した。	上部器) ~ .	白衛 成白 D? 十倍器 次 E	2 上節器	上師器	上師器	上師器	上師器	上海器	上師器	上師器	光	灰箱陶器	上野器	上師器 強	上野路	上部器	路路上	上師器 強	工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	上部器 職	須思器 弥生土器	31 弥生土器 高坏 32 弥牛十器 糖	77.TT 180

	五十条存	新1以	且医赤リ	新1区		国内の動	日本 6 日本	日次の個	1	IVK	田区4層	新I区	田区4騎	田区4層	田区6層	田区 4 層	皿区4階	国区4層	田区6階	田区4層	国区の御	日内の種	I ICA	N IN	Ⅲ区本リ・P6	日区アフ	11区1階・11区1階・ケン	正な小り	11 2 4 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	する。	エス・ケン	1区・1区1層	ケン	Ⅱ区1層	IK. IKIM	1区・ケン・日区1階	NG · 4 · v	NK \$0.55 · H 32 NK	Ⅱ区・Ⅲ区・F3ケン	IK·NK·IKホリ·NKホリ	ケン	1 K · 1 K · 1 K · 1 K 1.2 W	IIK · NK #11 · 42 k #11	IIX D 15	IK・IKホリ	IK	IK	IVK	N医本リ・D 15	WIE	MK . D 15 . H 10 9 M	IIX 2 II 10 2 個	ケン	11区1層	IK.IK.VK.hvktu	IIIX · D 15 F 37 >
	- 報		破片実測、拓本	数百米的、名李月月 医耳聋性神经神经神经 计存储	8周夏3~元形、止義上即同間に蔡衣張有り、消秋右 墨本封 - 成2 - %-93	WK ボウン 性力 、 10,225 継承材 解力 70,95	88. 2. 2. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	族材、軽石、No.19	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	傾面加工旗?, 軽石	礫素材、軽石、No.15	南側に加工痕、軽石	礫素材、軽石? No. 24	正面中央部加工痕9軽石 9 № 13	機素材、軽石、No.26	礫素材、軽石?, No.12	礫素材、軽石、No.14	间侧使用摄光、整石、Mo.16	课系的、壁台、No.2J 職業社 超子 E. 19	联系的、能位、NO.18 職業材 核石 No.21	株米内、柱凸、MC.2.1 藤本材 原万 ½ 1.2	************************************	RANGE THE THE PROPERTY OF THE	平造り、両関	完全実測、No.8	四条类割	国際未完	に記された。	完全失測	完全实測	完全実測	回転突測	回転実測		国院表記	元主次的国际生活	11年次25	完全実測	完全実測	全実測	元定美期	元五夫的同虧生訓	はなると	回医夹脚	完全実測	回転実測	完全実例	回転実測	回転実別	D. 是大型	国家会選	回転実測、虎渓山1号	回転集測、虎渓山1号	回飯寒湖	回転突調	国际类拟
部		、櫛指簾状文	参加型状文 ・「神報給力」。「神経十十一」、よう、よう。		10000000000000000000000000000000000000			**************************************	審		**************************************			田	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	数					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	¥ 149	()		4	回転表別り、外面ヘフケスリ 右回作参加り		2	、下半部手持ちヘラケズリ	ケズリ	T 10000			手持ちヘプゲスリー	2		刃り→付高台				回整次907→12回口、淋巴总压 在内心	切り→作品か			DH.	ヘラミガキ、下半部ハケ目、ナデ	糸切り		加賀 大学 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田		→しまみ貼付、火棒		→付高台、鮨粕(つけがけ)	ケズリ	回転米切り回転米切り回転米切り	
及 法	55	ヘラミガキ	ヘフミカキ	Mary Co.	000	∞	2	33	2		4	4	9	1	4	200	0 7	- T)	9	0	0		田野女田・七月~日~		解文→黒色処理	ナデ→黒色処理	暗文→黒色処理		ヘラミガキ→黒色処理	職文→黒色処理	ナナ→禁色処理	1/フェント 非田彦は 関サル田 日本	品々、※口径は 語文→里名和田	こと ※ 1000円 シール 1000円 トラッガキ→黒色処理	ナナ	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキー黒色処理解み、旧め問題	る人、 ボロなは トラン・ オナー田名信章	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	晴文→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ナデ、ヘラミガキ					火棒	施釉(つけがけ)	施釉(つけがけ)			
	徐崇德 (重) 短器			每大四	4.6	4.4	4.8	5.6 196.3	4.0	3.3	4.9	3.6	4.3	3.6	4.6	載大厚 5.2	4.4	0.00	5.2	5.4	4.5	5.3	横		3.9	(3.4)	(4.4)	(4.3)		(3.8)	(4.1)	(4.4)	(4.1)	(4.5)	43	(4.7)	(2.0)	0.9	5.4						4.4 (max) 2.8(min)		4.1	(3.6)						(146)	(14.6)	101041
州	口径(長) 底径(矩)			最大長 5.9 最大幅 3.9	m			8.9							10.1								身幅 1.8	\rightarrow	11.8 5.4																7.3				1.6(max)6.1(min) 6.0	(19.7)			(2.3)	(15.3)		(9.9)			(15.0) (6.0)	
金藤女 No 指 第 米 米	e de la constant de l	学生十 弱	35 紫牛十郎 8	路路	石器	包器	石器	日器	1 位 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日		在	をある	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	を 本語 を は は は は は は は は は は は は は	在6 無沙石	7 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	石器 開催力	石器 編物石	石器 編物石	口器	石器 擦石・窮	鉄製品	57 鉄製品 刀	H 28 1 计智能	上師器	上飾器 坏	上師器 坏	上師器 坏	上師器 坏	上師器	上	上	十二年四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	十四路	器 器 場出	上 部器 影	保	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2000年	福	工師器	上師器 腕	土師器 坏 ?	工師器 耳目	工程器 明年	須明報	坐班部 不	(名がお インタを) 名前器 有される	須惠器	須恵器 坏蓋	灰箱陶器	天衛陽器 施工作品			-

	爾在										·ケン・H 31																																.47																									
	班	IK·ⅢK	ⅡK2層・ⅢK			イン	イン	IK	IK	IK	I 区 2 層・IV 区ホリ・ケン・H 31	国区3層		NK	11:	112.0.11	N I	IK	and the same	N IN	IIIX	ガイト・本リ	イン	試掘1住	NK	計類1位	HAM I H	7 7 7	IVIX	IK	国区	試編14	ケン	_ E		IV IX	IVIX	試掘1住	国区1層	IK		IV医1層	1区4層・11区4層・ケン	TK 4 KB	H 12 1 H	The state of	IV区4 M·IV区	ⅡK・試掘1住	过极1件	ケン			II () III	試掘1住	IIK		TIES	工区 工匠 4 國 . 仁 .	II区4層・ケン P3	□区 1 □区4層・ケン P 2	IIK 1 IIK 4 層・ケン P 2 IIK	II区4層・ケン P 2 II区	II区 1 II区 4 層・ケン P 2 II区 II区 I 層	II区4層・ケン P 2 II区 II区 II区 II区 II区 II区 II区 II区 II区 II区	11区4層・ケン P 2 I 区 I 区 I 区 I 区 4 層 I 区 4 層 I 区 4 層 I I 区 4 層 I I 区 4 層 I I I I I I I I I I I I I I I I I I	11区4層・ケン P 2 II区 II区 II区4層 II区4層 II区4月 IIIの表現	ロ区 4 日 1 日 2 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3	日氏 4階・ケン 11 IK 4階・ケン 11 IK 4 8階 1 IK 4 8 IK
1	**																																																																			
1	年																																																															3	9 町円滑、阪.8 上下脳中央部に終打銀有り、阪.7	3 社部に破打集有り、%。7	3 民部に旅打练有り、%.7	8
		回転実測	回転実測	国数次组 异十二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	联片关组、各个	秋八大郎、竹子	双片 类朗、 拍李	回転天開 第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	版片美觀、拓本	版片実訓、 名本	破片実測、柘本	先端部/口付着、No.3	全体摩滅、正面節理面	完形、孔径 0.1	兩國, No.1	THE STATE OF THE S	NI.		回作往溯	日本大河	日本大阪	AH X BE	回転表面	元主美洲	回転実制	回転実測	原志日始	かったが	九十六四	回転表別	完全実測	回転実測	回転実測	回転走過回	日本分割	回作作的	日本大郎	回転天開	完全実調、No.1	回転実測	回転実測	回転実測、No.2	完全実測、No.34	完全実測、Na.5	東統美国	回転分割 水工	四版类例,M. I.	元 年実制	回転実測	回転実測	東海回回	原発・	日本大田	回転美渕	回転集測	回転実測	回転金割Nof	THE PARTY AND TH	完全接到, W.9	完全実測、No.9 時日報測	完全実測、No.9 破片実測 碎片生油	完全奖捌、No.9 破片奖捌 破片奖捌 础片生油	完全英测、%2.9 破片実測 破片実測 破片実測 破片実測	20 照	20 斑痕	20 斑痕	完全埃灣、% 9 破片埃灣 破片埃灣 破片埃灣 磁面数 6、城面円滑、% 2 正面中央構成、上下廊中5 回転埃灣	20 斑微 3
		1								-	_																																			イン・ボギ	-	-	-																			
161	極		右回転糸切り、下半部回転ヘラケズリ、施釉(つけがけ) ヘラミ ガナ	r to		中国以外人、中国家外人的与人 提供记事力 提供指手力	人、阿加州大人	++ 11	ハケ田、ヘフェガキ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	近人、ヘフ油2C株 ・ 単年4世十二	櫛描積線文、櫛描波状文、ヘラ描沈線、ヘラミガキ→赤彩								enn		ラケブ!!	110	0.06	900	氏部~底部尚稼芋持ちヘフゲスリ	手持ちヘラケズリ、墨書「?」		thu h	HID	900	石回転米切り→付高台	回転ヘラケズリ→付高台	1	1				min man	石回転糸切り、回転ヘフケスリ			口縁櫛描波状文、ヘラミガキ→赤彩	キ→赤彩	キ→赤彩	サー 半線	原出ウ	人、TENTERNY 人 (株は別日)株子林日本(1)	帰歯科定义(仮位羽状) 帰始廉状义(11本 2 建止)、ヘフミガキ	ハケ目、櫛描斜走文(10本、横位羽状)、櫛描簾状文(3連止)	41-	41	- 41	- 4	+	婚描波状文、櫛描横線文、ヘラミガキ	櫛描き波状文、櫛描簾状文(2 連止)、ヘラミガキ	櫛猫橋線文、櫛猫垂下文(8 本)	4	-	→	T 走文 非女. ヘラニガキ→赤彩	ハンニルイヘラ描斜走文ヘラ当斜半→赤彩ヘラニガキ→赤彩ヘラニガキ→赤彩	インガース へラ描斜走文 へラ描斜走文、ヘラミガキ→赤彩 ヘラミガキ→赤彩、糖植横線文、糠権垂下文	キ 走文、ヘラミガキ→赤彩 キ→赤彩、櫛猫横線文、	↑ 走文、ヘラミガキ→赤彩 キ→赤彩、櫛榼横線文、	# 大	本文	へと離析と文 へと離析と文 へ子が表すー作品、都価値報文、整価単下文 イフ・カオキー作品、都価値報文、整価単下文 イン・カオキー・手部 イン・カン・カー・手部 トロボ網維維を対すが、カードー・手部
E.			右回転糸切り	サンバンド	本はははない	本語にない	中国とかく	ントロン	//7 E.,	大力用本人	梅茄懒綠文								右回転参加り		王指むヘラケブ川	十四十个四十	HINT TOTAL	右回転ボツリ	成的一個的	手持ちへ	一と」 参野	七回転条切り	十四年の初の	石田和本	石回転送	回転ヘブ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ハラケブニ		FINE C. FOI IN	日本の子の	4日転送	1979	施粗	口黎梅雄沙	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→未彩	出来は種	報報の計学	物田野市大	ハケ目、櫛	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラドガキ	十年からく	- 17 = 17	櫛描波状	御描き液4	都抽權級	ヘラミガキ		くし権容が	へう描斜走文へ与描斜半寸	くう描容。	クラ曲祭。 クラ曲祭。 クラニガ・	ヘラ描斜。 ヘラ温料: ヘラミガ:	へう 本 か か ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	トラー ・	 ◇う描録准文 ◇う指数准文、 ◇ラッガキー赤彩 ◇ラッガキー赤彩 ◇ラッガキー赤彩 ◇ラップオ・ヘック・ファップ・ファップ・ファップ・ファップ・ファップ・ファップ・ファップ・ファップ	トライン マン (本語 数) マン (本語 数) (本語 数) (本語 数) (本語 大 (本語 大) (本語 大) (本語) (和語
								41	+										5.処理、ヘラケズリ痕	10000000000000000000000000000000000000	2000年	10000000000000000000000000000000000000	世史の	TO SECTION AND ADDRESS OF THE PERSON ADDRESS OF THE PERSON AND ADDRESS OF THE PERSON ADDRESS OF THE PERSON ADDRESS OF THE PERSON AND ADDRESS OF THE PERSON AND ADDRESS OF THE PERSON AND ADDRESS OF THE	では、								AL.	31	AL								(、関部ハケ目→ナデ	****	***************************************				1年								****			***	,,,	,,,	,,,	***	20			00 00 00
			## \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	+4	くらいが	ヘルルガオ	十十十年初	ハケ日 ヘラニガキ	ハケロ・土然	10日 小学校	是不								ヘラミガキ→里4	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→単色処理	ヘルンナナー田存回田	世紀 一年 十年 八日 く	世界日曜十十八十八十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	ンフェルナー派に	暗文→黒色処理							ヘラケズリ、ナデ	ヘラケズリ、ナラ	ヘラケズリ、ナー					15.45	発掘	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩、	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ	イギャーへ	+1/2/1	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	サインドイ	+1777	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤彩	II de II	H CV	ハラニガキ→赤狐	ハッ H ヘラミガキ→赤彩 ナデ	ハショ ヘラミガキ→赤≨ ナデ ハケ目	ハソ H ヘラミガキ→赤塚 ナデ ハケ目	ハグ B ヘラミガキ→赤塚 ナデ ハケ目	ハショ ヘラミガキ→赤乳 ナデ ハケ目 ナデ、略文	ハショ ヘラミガキ→赤乳 トゲ ハケ目 ナデ、暗文 ヘラミガキ→赤乳	ハッコ ヘラミガキー赤彩 ナデ ハケ目 ナデ、暗文 ヘラミガキー赤彩 ヘラミガキー赤彩 ヘラミガキー赤彩	ハッコ ナゲ ハケ目 ハケ目 トゲ、略文 トデ、略文 ヘラミガキ→赤線 ヘラミガキ→赤線
1	沙哥哥												44.5	0.1																																																	2020	2020	2020	2020	2020	2020 600
A.	器 高 (庫)											1	最大厚 1.8	0.3	極厚 0.2	極厚 0.3			(4.5)	(6.9)	(5.2)							(4.4)		6.0	7.0							0.0	0.0			1	(20.0)																				最大軍 5.3	最大厚 5.3	最大厚 5.3	最大厚 5.3	最大學 5.3 5.5	最大厚 5.3 5.5 2.3.5
164	康 径 (矩)	10.00	(7.2)				(8.0)	, and					最大幅 5.1	_		身幅 1.3	7.6 間	4.4	(2.6)	(8.6)	8.2	6.4	99	(2.0)	(0.1)	(8.0)		6.1	(6.4)	2.0	0.0	(0.0)			(4.4)		(130)	4.9	7.0				14.0						2	(4.2)	(6.4)	(0.7)	(8.9)	(O:E)				103	200				最大幅 11.0	最大幅 11.0	最大幅 11.0	最大幅 11.0	最大幅 11.0 7.4 4.4	最大幅 11.0 7.4 4.4 6.6
1	口 径 (長)	(17.4)									M 62 (7 C)	外色(/,b)	最大長 7.3	0.5			全長 5.4	0.6	(14.0)									(14.0)		14.4			(20.4)	(22.8)		(31.0)	10	3.9	(5.0)	(1.0)	(7.6)	(24.4)	(24.4)	23.6	(25.2)	(12.2)	13.6	0.00	(22.4)								(28.4)						最大長 19.3	最大長 19.3	最大長 19.3 10.3 (17.1)	最大長 19.3 10.3 (17.1)	最大長 19.3 10.3 (17.1)	最大長 19.3 10.3 (17.1) (12.1)
臨馬		海 C									O R	T F						***				1X C 1	tk C 1	6 V 24	2 2 20	14 A 5	k 3	* C	1K C			246	対数数の	氏数数 C	武巌號 ?	番 B	◆ 掛	· tr	n p	小班	т			地大		台付獲																						透透透板 石口
0. 認 端	3	38 須恵器		11 弥生十器	2 弥华十器	3 弥生土器	4 弥牛十器	5 紫牛十器	6 紫牛十點	7 张生十四	1 77 T. L. 68	T SKID	1 C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	0	1 鉄製品	(2) 鉄製品	3 鉄製品	4 鉄製品	1 上師器	2 土飾器	3 上師器		5 +68.88					9 須恵器			O GGSSARAGE			4 土師器					の発生器の			1 外生工器											1 弥牛十器		2 沙土上路									16 弥佳士器 17 弥佳士器 18 弥佳土器 19 石縣 20 石縣				
滅橋名 No.	-	H28 38	0 4	4	4	4	4	4	4	. 7	1, 4		4 1	0	2	C)	5	ù	H 29		-40	4		. 4	- 6	ď	بد	S	-	-	4 6	- 1	_	-	-1	1		_		7 6	+	1.08.1	4 6	-	4	-42	2			~		1		_	-		-							22222	11 12 13 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14			

						T			
	田	11K 2 M 11 E 2 M 11 E 2 M 12 K 5 7 7 13 K 5 1 1 14 K 5 1 1 14 K 2 M 15 K 5 1 1 17 K 2 M 18 K 5 1 1 18 K 5 1 1 19 K 5 1	1区2層		1区1階 か・1区・H10 II区3階 P5・H28ケン P5・H28ケン	20	0007747766	P P P P P P P P P P P P P P P P P P P	W.k
8	4 # ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	心型的代表 類形公用,關於、聯及關斯國國旗、沈.3 完全收職、沈.3 完全收職、沈.3 而完支權。 2.2 文集 2.2 《	表獎欄, No.4 	回株埃灣 四個埃灣 回転埃灣 回転埃灣	的形式的 火焰烧烧用,放 1 图形状物,加 2 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	国际支援 国际支援 国际支援 NA 124点78.9.10 国际支援 NA 21114 国际支援 H 251114 日本支援 H 251114	回帐及指 四条次据 四条次据 回标次据 国际次据 国际次据	進方? 完全集酬 時中集訓 回転集訓	回転表測 破片表測
納	節語素値次、節語後は次 ・	右回係が切り、顕彰改字「マ」? 有回能が切り、顕彰な字「マ」? 終切り・付流な、顕著で字」。 右回底が切り、火棒 高幅(つけがけ) 大棒 大棒 カラッカナー カラッカナー カラッカナー カテッカナー カテー カテー カテー カテー カテー カテー カテー カテー カテー カテ	ヘラミガキ→赤彩、後線より下ヘラミガキ 同ビシロの	(株成水切り) 切り離しナギカヘラケズリ 右回転ヘシテズリ、一部ヘラ・ガキ (補格の為?) 手持ちヘラケズリ、一部ペラ・ガキ (補格の為?) 手持ちヘラケズリ・付高台 下半端〜ラケズリ	** 40 p c c c c c c c c c c c c c c c c c c	・ディースランパー 響温後状ズ、返路番組像状ズ、下半部ペラミガキ 単語格技ズ、下手部へラコガキ ディ・スラエガオール参り 原語の表現が最小カウロ 摩伽和北、ハラミガキール形形 頭形の指揮後状ズ、ヘラミガキー赤彩	イロを未必り ペラ・ガキ 服権 「9」 脂瘤 治療	右回転糸切り 墨書「?」	小田少
4	7. 7. 7. 7. 7. 4. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8.	ヘラ: カオー蛋色危煙 ヘラ: カオー蛋色危煙 ヘラ: ガオー 黒色危煙 ペラ: ガオー 黒色危電 ペラ: ガオー 黒色危電 水離 (17が17) 脂離 (17が17) が サデー 赤彩	ハケナデ 瞬 少→ 単色処理	南 大→黒町込理 ヘラッガキ→黒色処理 ヘラッガキ→黒色処理 ヘラッガキ→黒色処理 ハアナデ	郷部ヘンナデ、ナデ ウラ・ガキ ヘラ・ガキ ヘラ・ガキ ヘラ・ガキ	ナデ・ヘンドガキ ヘラニガキ ハラニガキ ハケナディ ハケナディ ハケナディ ハケナディ	解文/ 取解文 へラミガキー単位処理 施物 たコラガキー赤彩	精文→黒色処理 ヘラミガキ→黒色処理	
対策を	946 4					15.1			
報 本 (度)	長大厚(46 (4.0)	(44)	(4.3) (4.3) 4.3 (5.8) (5.2)		最大厚 0.9 0.16	4.1		
世 徳 徳	響	5.9 6.1 7.5 (6.2) (6.4)	(9.9)	(5.4) 5.3 (8.0) (7.8)	4.2 (14.9) 5.7 (8.8)	(6.4) (10.4) 最大幅 3.9 幅 2.3	5.4	6.2	
(全) (全)	5 5 5 7	13.8 (14.3) (14.0) (14.0) (15.0) (15.0) (16.0) (16.0) (18.8)	(12.6)	(12.8) 13.3 (15.8) (16.0) (21.0)		最大長 3.8 長さ 9.9	12.8 (14.8) (14.0) (15.6) (16.4) (18.6) (22.4)	(12.0)	(13.2)
2. 器 職 器 元	称称称称称称称 计口口数解码器 路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路 电电电电电电电	士士士须须须区区士士士须须石餘師師師即吏吏翰賴翰歸歸歸歸歸歸歸歸歸歸歸歸歸歸歸歸謂謂 品器器器器器	弥生土器 土師器	上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上	上 等 各 生 上 等 件 上 器 等 件 上 器 等 件 上 器 等 件 上 器 等 件 上 器 等 等 件 上 器 等 等 件 上 器 等 等 件 是 是 器 等 等 等 件 是 是 器 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等		明	を を の に に に に に に に に に に に に に	発売器 機っ 機っ
遊構名 No.		H 32 1 2 2 2 3 3 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	H33 1			# # 	1 1 2 8 4 3 5 7 8 9	F4 1 2 2 3 2 1 5 3 3 5 1 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	2 2 2

聯位																																																
## ##		# # M **	源士・H5 I 区1層		. UIO 0	W 7 OILL W 1	1層·H10 N区2層				1層		- 1 - 2	1 88 1		1 [6]	1	- X												機士	優士・HZ8 ケン 種十	18.11			1 層	2 層	Į.	27 v	- Marie	1 2								
W																																																
螺	原任土拉	牧ハ夫の 破片実測	完全実測	回転実測	回転実測	完全実測	回転尖測	完全実測	回载决定	たまたio 完全実測	回転実測	破片実測	回転決選回所分割	口标次 Sin	破片実測	回転実測	報片実訓	(4) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	下部に破打痕	表裏両側に顕著な敲打痕	回転実測	回転災割	破片実測	先编節ノロ付着	完全実測	回転类視	回転実測	回転実測	回転実測	回転実測	回転失調回転実測	完全実測, № 1	左側欠損、台石状の礫を臼状に成形、凹部円滑、No 2 回転で割	日転表側	元全英湖 回転安湖	回転実測	完全実測	回転減避	牧ハ夫郎 国部先端欠指、先端部而即りされた加丁疽 励繁品?	要面全面剥落、正面円滑擦面	回転失過	牧片表別	回転尖測	回転美額 学全宝測	九主大的 完全実施	回転実測	完全実測	E4K-XAB
HE		r up	100						2 0			143			168																																	
松松		場面が大く、機構廉状文	ヘラミガキ→赤彩	右回転糸切り、墨書「?」	石回転糸切り付着台、ヘラミガキ	右回転糸切り→付高台	右回転糸切り→付高台	回転※切り→付局台	マラミガキ	右回転糸切り	右回転ヘラケズリ→付高台	揺着(つけがけ)	衛油改衣人、目然相 III **	右回転ヘラケズリ、自然輸	櫛描斜走文、櫛描簾状文	へラミガキ→赤彩	即指徴終文、問指単ト文ハゲナデ くらばびだ論さ くらはは くらい オキーキの				右回転糸切り	ヘラチスリ	櫛描斜走文、櫛描横線文		右回転糸切り	小 素极	ヘラミガキ→赤彩、連弧文	櫛描波状文、櫛描廉状文 (2連止)	付高台	ヘラミガキエキャニトブロ	ナバラングスリカ回転糸切り	ヘラミガキ→赤彩	が出して	ハフミルナー体を	単に未到り 米切り→付施台			がはなます	即由行之人		方向不明回転糸切り	摩笛炸龙人	* # * * # * * * * * * * * * * * * * * *	方向不明回転参切り 右回転条切り	右回転糸切り		回転ヘラケズリ ヘラケズリ→ヘラミガキ	
· 经	E.																																															
6	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→黒色処理	ヘフェガキ→黒色処理 ヘラミガキ→里角処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	ヘフェガキ→黒色処理へつった。ガキノ田佐岡田	イントンナー米口及出			高額(つけがけ)	日然相	見込みナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤彩・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	イフェガキ				大連	L 11-	ヘラミガキ		暗文→黒色処理	1.7	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラニガキ・単な加里	ヘラミガキ→黒色処理	器面荒れている(不明)	治井十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十		m×→無巴処理 ヘラミガキ→黒色処理	暗文→黒色処理		サイン・サイ	1		11 11 11	+777	暗文→黒色処理				ヘラケズリーナデ	
10													200.00	0,0,0	20020		20 (2)		785	-				32.8	-								(969)			30000				(130)				T				
機 (国)	(40) Tel 20			(4.0)	0.0	(6.4)				4.6								最大厚 (4.7)	5.0	4.8					(4.0)					(4.9)	(7%)		最大厚 (10.6)						最大厚 (0.4)	(2.2)				4.0				0.00
(里) 数 曲	IN IN VIII			(7.4)	0.0	7.7				5.8	(6.3)							设大幅 (8.0)	11.7	6.3	(0.0)	(10.8)		内径 (2.0)	5.0	(1:4)			(7.2)	(0.0)	(6.4)	7.7	最大幅 (35.8)	E.	(8.2)				最大幅 (3.1)	(2.1)	(2.4)		(6.3)	4.1	5.4			
(金) 念 口				(13.4)	(12.7)	(15.2)	(15.2)	(15.9)	(10.0)	14.1		(2007)	(42.3)			(31.4)		最大長 (6.9) 服	11.1	16.2				外径(5.6)	(12.4)					(12.2)	(1.1.0)		最大長 (20.1) 4	(7.0.1)		(13.6)	(0.10)		最大長 (5.5)	(7.5)			(13.0)	9.1		(15.6)	(16.0)	MALE NO.
韓				1 × c 1	来 A I	級 A 1	a A 1	なった	一大恒	24	有台杯。	2000年	· · ·	福	搬	HEI HI	23 AE	台石片	松中	W.C	∵ ±	10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	影	当口鉄素材	素本 0.2	整 or 整 9		學	₩ A1	4 #	14 C1			- La 101 43	不 S A 1	o-	調の		席製石鏃	標石	5 A D 1	不明	14 A 5				被 数 图 B c	2 2 20
No.		4 弥生土器	1 弥生土器	1 上飾器	2 上部路子		5 上飾器			9 須恵器	10 須恵器	11	12 20年213 20年22	14 須恵器	15 弥生土器	16 弥生土器	18 紫牛七郎	19 石器	20 石器	21 白器	1 須恵器	2 弥生土器	3 弥生土器	4 土製品 5 鉄製品	1 上師器	1 鉄製品	1 弥生土器	1 弥生土器	1 工師器	1 上階器	3 上海器	1 弥生土器		1 TORKE	2 上節器	3 上部器			7 石器		1 上部器 2 路休十點	3 鉄製品	1 上海器		1 上解器		3 須惠器 4 土師器	_
遺構名「	D 2		D4	D 5																9	000	7			D 8	D 10	D 12	D 13	D 14	D 15		D 16	D 17	01 0	07 70						D 19		D 21	D 22	M 1			_

五十退的戰条校
上退 物飲养
L.18 191 EX
1384
7
Ė
H

	母體出出			2 h Z M	A F	AM	2 FLM	MŒ	DŒ	MŒ	AM	AM	世之	MIE	アンドー	H > 2	#1	D2	F住·G住		P住	7件	2トレJ住	AL	2トレリ佳	AL	AL	2 FVM	AF	N Z Y Z	AM																			1.88	の + の -	70.6	9 >	表採	9 >	6和
持																																																								
	The state of the	回転実施回転失適	回転送前	完全実測	回転実測	回転実測	元を実施	回転漢組	回転送過回転送過	日本大学	10 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40	九五次的	回春快遊		回転実測		回転実測	回転実測	完全実測		回転実測	回転実測	回転実測	破片実測	一般片実測	破片実測	破片実制	回転水面	中央 XB	完形、孔径 0.3	破片実測	回転実測	回転実測	現代が同	回転外回	回転次回	対が大変	数十分間		ルエンは	回転実測	上下両側に散打痕有り	回転実測	回転実測	回転実測	正面燉面	上下散打痕、表裏擦面	工下收打股	回転決定	回転米割回	回転突測	完全実測	回転実測	回転米部回行中華	回転失認	[2] 160 7C D02
	を	スファスリ 平行叩き	くった。ガキー本総	回転糸切り	右回転糸切り	右回転米切り	ベンプ人リーベフミルキ				ヘラミガキ	切り織し→作施心	切り織し→存施む	施袖(つけがけ)	切り鑑し→付高台	福ង(つけがけ)	切り難し→付高台	切り難し→付高台	ヘンケスリ、即り出し高む	成形以外配類	1.1.	ハケナナー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュ	ベンドル十十年参報芸女士士	魯油幹走又	●描版状文、極描約走文	衛治野之文、衛苗廉状文	博士の表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表	ハケナデ	へラミガキ→赤彩		櫛樹波状文	100000000000000000000000000000000000000	●福料走文(横位羽状) ヘラミガま	職部ヘラケブ川	CVC CC MINE	右回転条切り	1111111111111111111111111111111111111	櫛描斜走文	1000	ヘラミガキ→赤彩	回転糸切り、底部周縁回転ヘラケズリ		格子目叩き	ヘラナデ	ヘラミガキ			七回原糸切り 火薬	コロ転が到り、大庫 手捧むヘラケブ!	すがつ、シンスリ 手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ、ヘラミガキ	右回転糸切り、墨書「?」	右回転糸切り 神仔等	※付着 ヘラドガキ→単名処理	、ション・ボロが出れて国家を対し	14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 1
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	2	当具痕→ナデ	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→黒色処理	the de last me	★大津田処構	かいた。	(人) ボルナー単名が由	- ハース	ハラミガキ→黒色処理	不部ヘラミガキ、脚部ナデ		施釉(つけがけ)	重焼疫(径6.7)	危釉(つけがけ)、重焼痕	And the same of the same	施権(学)、単独投	10分割 (ア)	西名	7)	11	イナル・ナード・ナード・ナード・ナード・ナード・ナード・ナード・ナード・ナード・ナード	ングンンンン	+マパン	インドンナ	ナベルン	ハケ目→ヘラミガキ	(ケナデ	トラナデ、頸部赤彩		ヘラミガキ	階文→黒色処理 : トロー・ニンガエ	ハク目、ヘクミガキ	ヘラミガキ→黒色処理		暗文		ヘラミガキ		ヘラミガキ→赤彩	暗文→黒色処理	A STATE OF THE STA	同心円文当其痕	ヘラナデ→暗文	Xin			變少	, i	, h. +	- デ、暗文		ヘフミガキ→無色処理 ヘラミガキ→田名が国 444米	(ノニン4 - 米日が出、米日4 / ペラミガキ→黒色処理		
技命				(5.1)															4								12.7			19.1						tex.			4.4	,		442	100.		600		1010			T)	7			5		
器 旅(周)	L																													最大厚 6.2												最大厚 4.3					6.5									
洪 第 条 (街)		(21.4)	13.6 12.7	5.1) 6.1	(5.8)	(0.0)	(2.7)	(9)	(.4)	(23)		(9.6)	(7.1)		(8.4)	(00)	(8.6)	0.00	200	(8.8)							8.8		_	1.8 最大幅 1.9	4	(4)		(0:		(2.0)			3.5	\rightarrow	(0.0)	-	10	(2)			6.7		-	-		0.9			(8.8)	
日 得 (長)	L	8							(14.4)			0								6)							~	(19.5)		最大長 1.8	1	(14:4)		(17.0)					13.5	(18)	1	最大長 11.6	(10)	(10	(19.0) 個大橋 13.9				(13.	(13.2)	(14.		(131)			
聯	1	[報											医釉陶器 三	THE STANFAULT	niegos III		八名 四 四 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日			*	泰 223	十二器 南水	一路 番	一 部 出土	(一路	弥生土器 無頭壺	上器 職	工器	品 土鎌	10 4 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	Arrest No.	N I	路林	(器 坏 ?	器 な C 2	須恵器 坏 ?	路路	I陶器 短頸瓶蓋	施	器 本 B 2	版石 (18)	Т		4 被		施石 配	ш					がなる			
過機名 No. 標		3 <u>須恵</u> 器 4 <u>須恵</u> 器		2 8 年 4 日 2 日 2 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3							10 上師器			i i	_		15 R										24 弥生				-	P 21 1 操件		P 33 1 土師	-	P 50 1 ±ff	2	P 52 1 弥生	-	-	P 66 1 上野	27 -	D 109 1 462		3 石器		5 在總						9 上午		8 須惠	

田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	服色土 む 9 な 数 数 数 な な 2	く5 け8ケン か6	け8ケン 11 黒色土 黒色土	さ1・黒色土 黒色土 m.c.+	黒色工 黒色土 里各十	1 I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	क क	無色士 用色士	\$ 1. F	21・黒色土	10 40	無色上 は1	果色士	無色土	1 I I	11.40.4	異色土	200	け8 単角十	0¢ 1	表採って	t 04	G1 無色士	※由工 か6	お袋 茶茶	う8ケン 38ケン	黒色土、I区トレ			3.图	3層·黒色土 3層					黑色土	
题			健康性素劑、拍本 同應表謝。 打木	完全実現 のなま実施 でなせ事	元年次的 DE集集創 同數集集制	10年2月2日 日本大学選	完全失測	国際大選	同时大大公司 日本大規 日本生業		数月类别、治本 14. 14. 14. 14. 14. 14. 14. 14. 14. 14.		坡片実測、拓本 破片宝訓 - 拓本	(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	级片実測、拓本遊片実測、指本	彼片実測、拓本 	放开火阀、指令 除伏火阀、指木 上在水河、扩木	以 7. 表朗、 4.4 破片実測、 拓本	被片埃瀾、拓本 破片埃瀾、柘木	被引入发展,有本	政厅关照、 布本 破片実測、 指本	被片実剛、括本路片宝襴。 紅木	(1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	W.1 冬間、七小 先端部及び両脚先端部欠損、裏面主要剥離面残す、黒曜石	先編のみ数存 完形、孔径 0.3、滑石	正面中央第円滑、礫素材 下面中央部円滑烙面、横方向の整線あり	孔径 0.82	完全実現、M. SS 20 ~ 44 完全変謝、M. SS 20 ~ 44	元金元(1) 10 10 24, 26 ~ 31 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11			国転表測・必9	回転突測, NA 5 完全妄想, NA 3	全集期、No.7.12	元を表別、0.0.0 回回板集創、0.0.13 ************************************	元主失期, No.4.78 回転実測, No.11	放片実測、拓本
組織な		叩き、ナデ		〈ラミガキ→赤彩 〈ウェガキ→赤彩 〈コニガキ→赤彩 〈コニカキ→赤彩	状文状文				くうぎガキ くっきガキ	下半部ヘラミガキ		、即拍廉孔文、簡描橫線文	機指羽状文 機構知状文 機構知状文	,口緣部縄文		梅福羽状文、梅描簾状文 機構 機構 報報	ガキ		梅猫放状文、梅猫簾状文 梅猫液状文、梅猫簾状文 梅猫液状文、梅猫簾状文	具による朝突を充填、ヘラミガキー赤彩 トニニ・ガナーキの	フェルキー亦杉	くう描写行沈線、へう描録走文サデ→くっ描みサデ→くっ描み毎	工具の刺突文 「おのまか、ションガナ		(紀)		T			30,700	機備斜走文 回 回			ヘラルガキ→赤彩 ペーション・コール・コール・コール・コール・コール・コール・コール・コール・コール・コール			#指直線文、ヘラミガキー赤彩 出土遺物観察表16
44 (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	施権(つけがけ) 協権(?),見込み未墾、重体質	施告 ナゾ 当	∃外投、アナ ヘラミガキ→赤彩	〈ラミガキ→赤彩〈ラミガキ→赤彩、輝部ナデ〈ラニガキ→赤彩、輝部ナデ	ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ	ハンコンナ	ハンニルキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハラミガキ	ヘラミガキ	ナン・シャー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	大十 1968年	*Ville ナデ、ヘラミガキ	ナナ	サギョウマ		11	88					ヘラミガキ ナデ、ヘラミガキ		ナデハケ目	不明くまします		ラナ~ハラミルキーがあ 不明	へラミガキ→赤彩
(湖) (湖) 報																										5.6 468				14.0							
法口径(長) 底径(短)	(13.4)	(21.1) (7.8)	(13.2)	16.2 (10.9)	(14.2) (20.6)		7.2 (7.8)	(8.0)	(9.2)															最大幅		7.5 7.5	BF	14.0	4 4	(12.6) 4.8	(13.7)	(7.4)	8.0	21.0	7.77		
器	坏坏碗碗已?	医 建 化 医 医 化 化 化 化 化 化 化 化 化 化 化 化 化 化 化	※ 本 日 報 ※ 本 日 報 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	等任士器 等在十點	弥生土器 弥生土器	弥生土器 弥生土器	弥生土器 弥生土器	弥生土器 弥生土器	弥生土器 弥生土器	弥生土器	35年上器 26年上器	弥生士器	弥生士器	禁件上器 ※キー	% 禁作上器	弥生士器 弥牛士器	弥生士器 路牛十器	弥生土器	弥生土器 弥生土器	弥生土器 弥生土器	弥生土器	第生土器 等生土器	弥生士器 经十十	石器石線	中部	石器	鉄 製品 鉄製品	弥生土器 弥生土器	弥生土器 弥牛十器	弥生土器	察生土器 禁生土器	弥生土器 弥生土器	弥生土器 弥生土器	弥生上器 路在十點	等在上路	弥生土器	99年工器

佐久市文化財

年 報 15

2007年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056

文化財課

〒 385-0006 長野県佐久市志賀 5953

TEL 0267 - 68 - 7321

印刷 所 株式会社 コックス